

表 17 産業廃棄物の中間処理後最終処分量の推移

単位：千t/年

	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物のふん尿	動物の死体
平成14年度	99	240	6	98	35	4
平成15年度	62	225	8	102	7	9
平成16年度	48	246	9	67	34	11
平成17年度	61	238	14	57	87	14
平成18年度	64	238	13	46	35	13
平成19年度	78	237	10	35	34	65
平成20年度	68	234	7	52	35	4
平成21年度	43	192	6	46	46	6
平成22年度	38	257	6	45	35	3
平成23年度	38	230	9	54	35	4
平成24年度	39	190	6	63	16	17
平成25年度	17	197	6	23	35	1

表 18 一般廃棄物、産業廃棄物、廃棄物等の「等」のコンポスト化に向かう量の推移

単位：千t/年

	動植物性残さ
平成13年度	1,510
平成14年度	1,946
平成15年度	2,311
平成16年度	2,385
平成17年度	2,723
平成18年度	2,793
平成19年度	2,693
平成20年度	3,037
平成21年度	2,989
平成22年度	2,660
平成23年度	2,746
平成24年度	2,732
平成25年度	2,718

以上



環境省統計と経団連統計等を用いた産業廃棄物の最終処分量の平成20～25年度値の比較結果(報告)

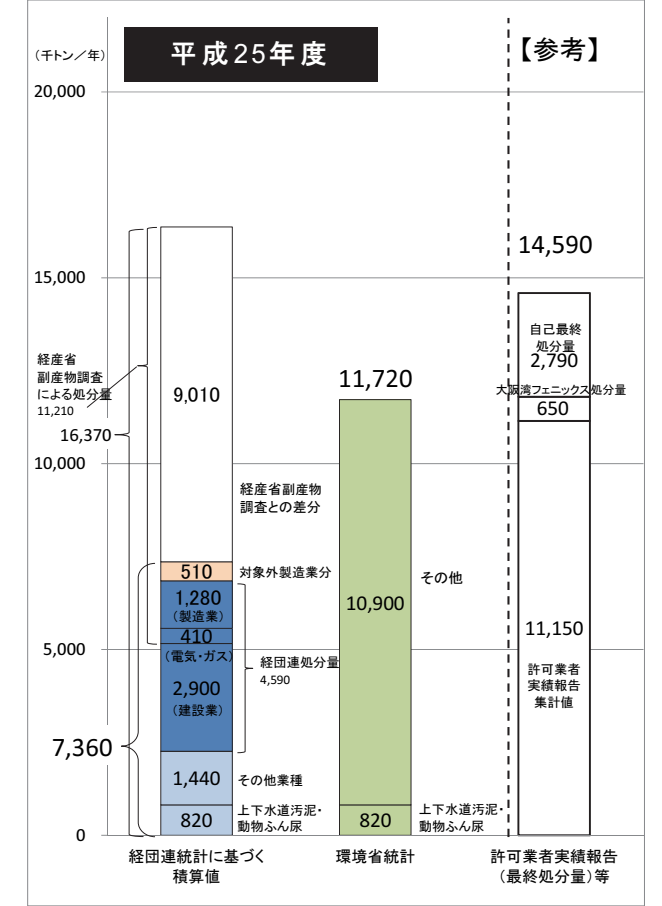
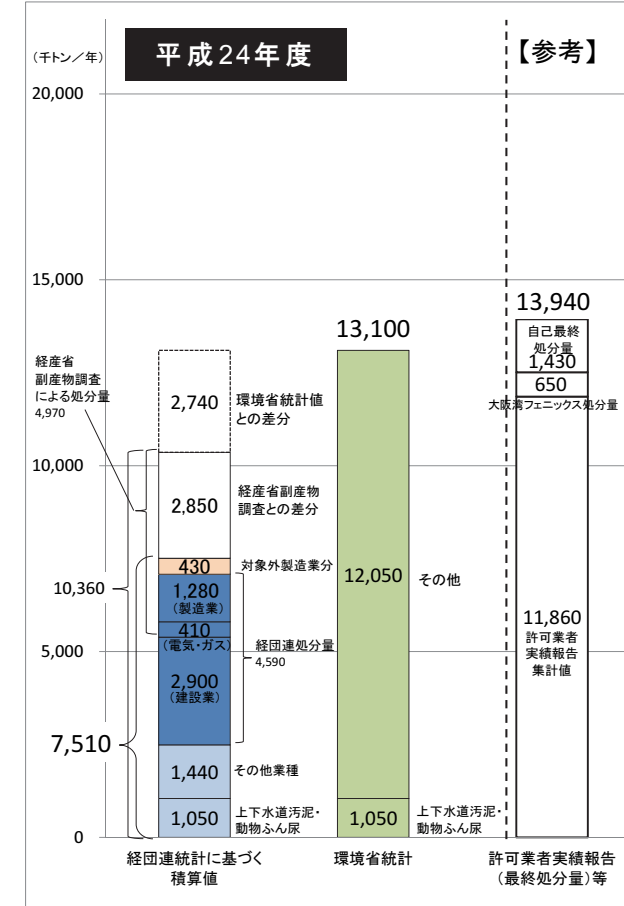
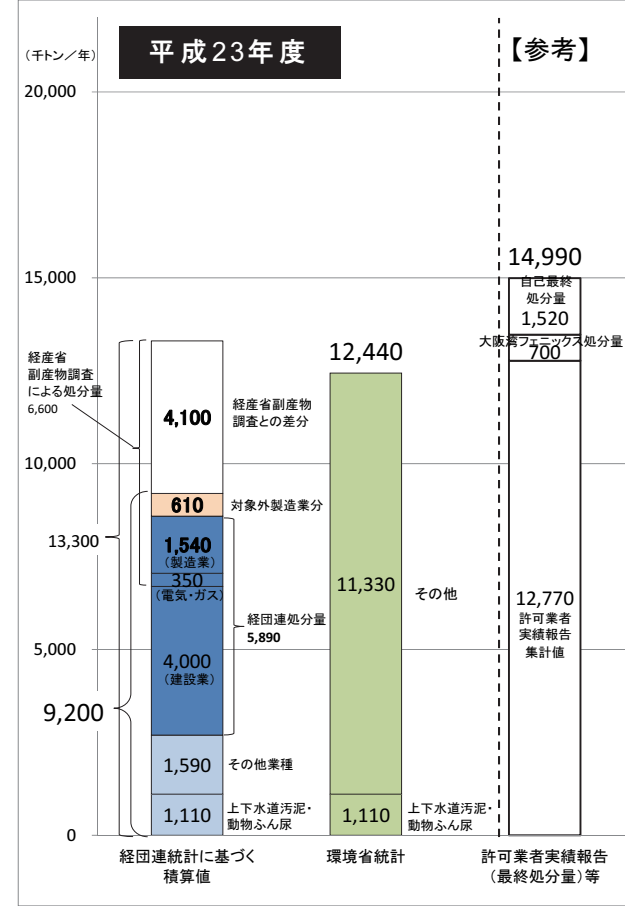
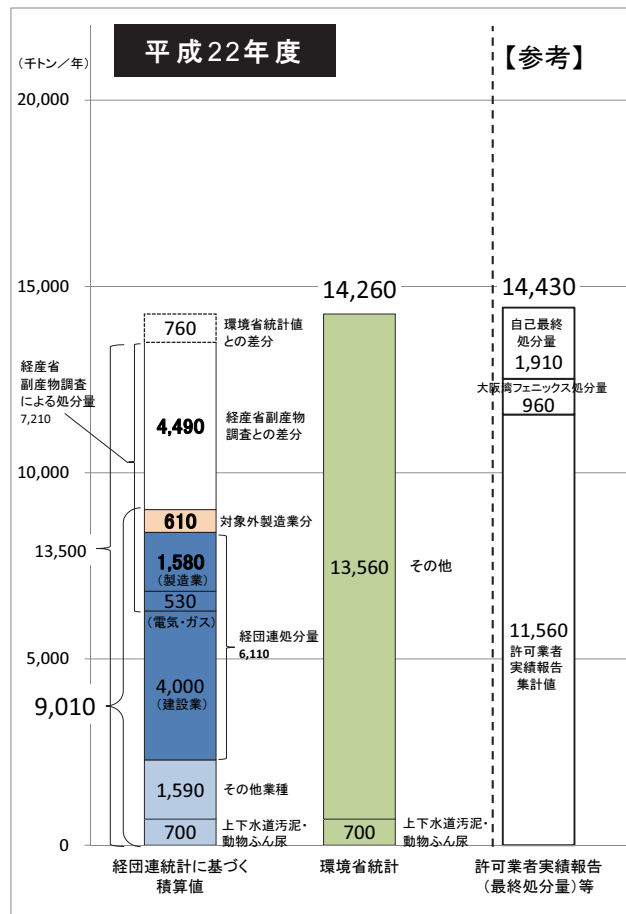


図1 産業廃棄物の最終処分量比較結果(平成22年度値) 図2 産業廃棄物の最終処分量比較結果(平成23年度値) 図3 産業廃棄物の最終処分量比較結果(平成24年度値) 図4 産業廃棄物の最終処分量比較結果(平成25年度値)

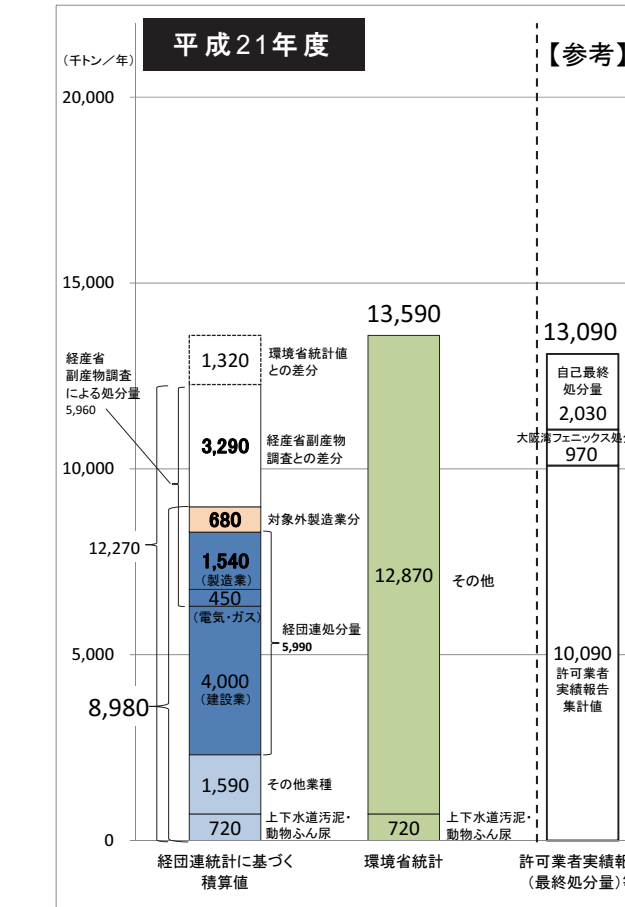
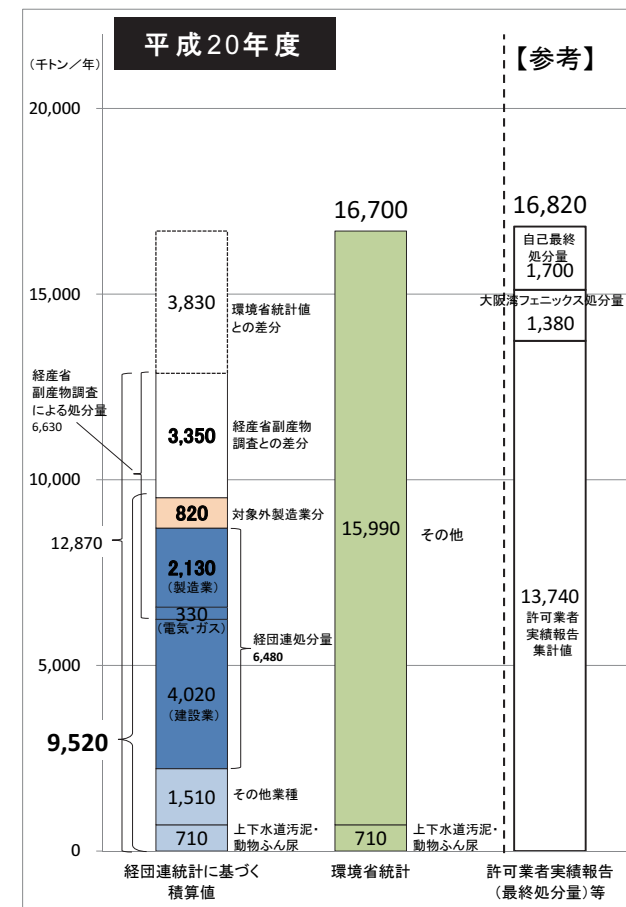
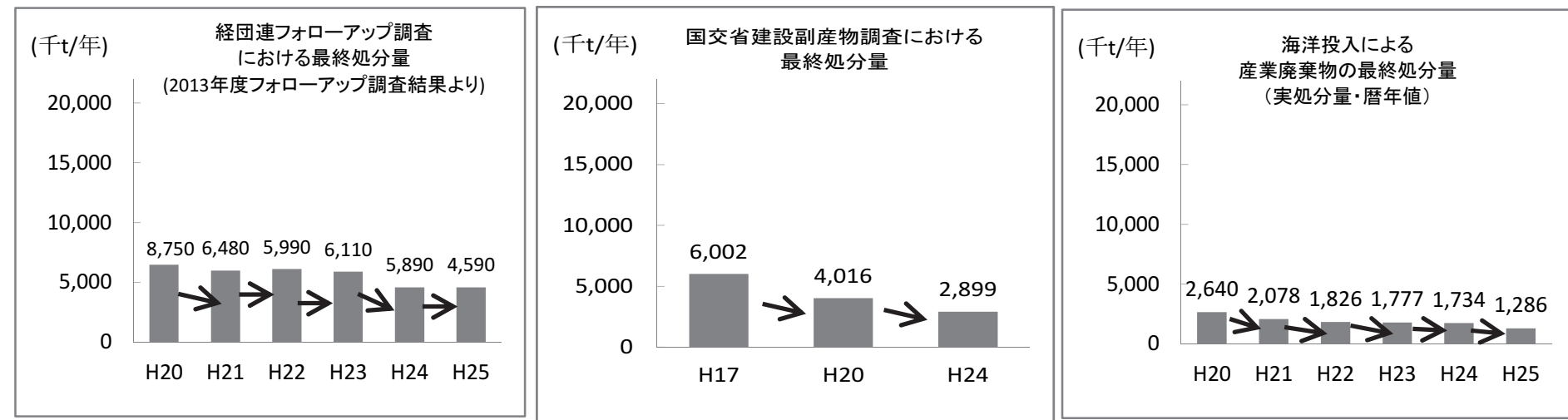
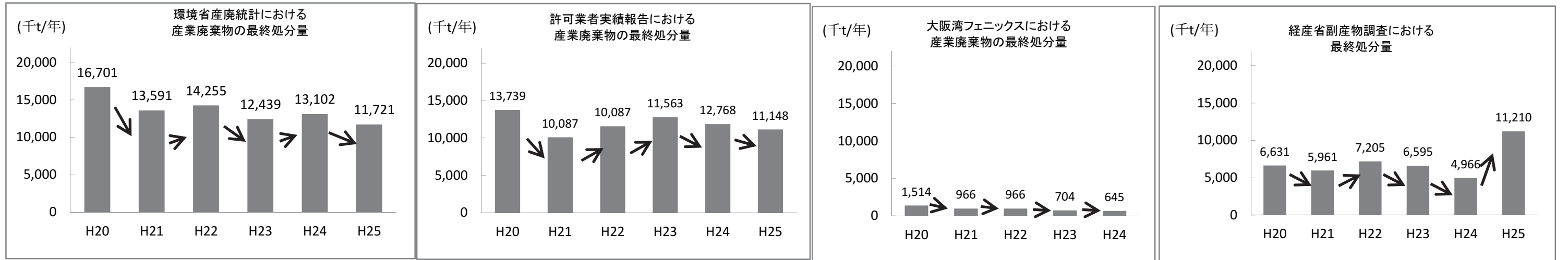


図5 産業廃棄物の最終処分量比較結果(平成20年度値) 図6 産業廃棄物の最終処分量比較結果(平成21年度値)

- ・経団連統計に基づく積算値(経産省副産物調査との差分を含む)は、平成24年度の10,360千t/年から平成25年度では16,370千t/年と、6,010千t/年増加している。
- ・環境省統計は平成24年度の13,100千t/年から平成25年度では11,720千t/年と、1,380千t/年減少している。
- ・許可業者実績報告(最終処分量)等は、平成24年度の13,940千t/年から平成25年度では14,590千t/年と650千t/年増加している。  
(平成25年度における許可業者実績報告の平成25年度実績値の回収率は96%)

【出典】

- ・経団連統計に基づく積算値:(一社)日本経済団体連合会「環境自主行動計画[循環型社会形成編]-2014年度フォローアップ調査結果-〈個別業種版〉」、経済産業省「産業分類別の副産物発生状況等に関する調査報告書」(平成20～25年度実績)
- ・環境省統計:環境省「産業廃棄物排出・処理状況調査」(平成20～25年度実績)
- ・許可業者実績報告(最終処分量)等:許可業者実績報告集計値・環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査」(平成20～25年度実績)
- ・大阪湾フェニックス処分量:大阪湾広域臨海環境整備センター「大阪湾広域臨海環境整備センター環境報告書2013」  
※平成25年度は現時点で公表されていないため平成24年度と同値とした。



海洋投入による産業廃棄物の最終処分量内訳(実処分量・暦年値)

	(千t/年)					
	H20	H21	H22	H23	H24	H25
ポーキサイト汚泥(赤泥)	1,550	1,258	1,060	903	741	421
建設汚泥	1,060	805	766	874	993	864
焼酎かす	30	16	0	0	0	0
合計	2,640	2,078	1,826	1,777	1,734	1,286

出典: 環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室

図7 統計データのH20～H25比較(産業廃棄物の最終処分量)

表1 各年度の許可業者実績報告の集計に用いている都道府県・政令市の実績年度別の団体数

		許可業者実績報告の年度別の団体数									
		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		全団体数に対する割合	全団体数に対する割合	全団体数に対する割合	全団体数に対する割合	全団体数に対する割合	全団体数に対する割合	全団体数に対する割合			
実績年度	平成15年度	1	1%	1	1%	1	1%	1	1%	1	1%
	平成16年度	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	平成17年度	3	3%	1	1%	1	1%	1	1%	0	0%
	平成18年度	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	平成19年度	4	4%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
	平成20年度	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	平成21年度	97	90%	2	2%	0	0%	0	0%	0	0%
	平成22年度			105	95%	2	2%	0	0%	0	0%
	平成23年度					107	96%	4	4%	0	0%
	平成24年度							106	95%	3	3%
平成25年度									109	96%	
当該年度の全団体数		108	-	110	-	111	-	112	-	113	-

注) 「許可業者実績報告の年度別の団体数」の「平成25年度」は平成27年11月19日時点の集計結果

## 災害廃棄物の平成25年度確定値の算出方法

### 1. 算出方法の概要

「平成26年度一般廃棄物処理事業実態調査(平成25年度実績)」(以下、「一廃統計(平成25年度実績)」と言う)から、災害廃棄物の平成25年度確定値を算出する方法は、平成25年度速報値の算出方法と同様とし、利用している組成調査や加重平均に用いたデータの更新・追加を行った。

#### 1.1. 一廃統計(平成25年度実績)の収集区分に基づく災害廃棄物の平成25年度確定値の算出(本資料p. 2～)

本調査における災害廃棄物の平成25年度確定値の算出では、GHGインベントリ用途を踏まえ、一廃統計における30の収集区分別<sup>1)</sup>に発生量、循環利用量、減量化量、最終処分量等の推計を行う。

一廃統計(平成25年度実績)における災害廃棄物の調査結果では、表 1.1に示したとおり、搬入量及び資源化量については、収集区分合計及び収集区分別に値が把握できるが、焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却施設での処理量及び最終処分量については、収集区分合計値しか把握できない。

このため、本調査では、収集区分合計値しか把握できない焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却処理量及び最終処分量について、収集区分別に把握されている量を用いて収集区分別内訳比率を作成し、収集区分別合計値に乗じて按分を行う。

得られた収集区分別のごみ処理状況を、本調査における算出結果の取りまとめ形式に従って集計して災害廃棄物の平成25年度確定値を算出する。

表 1.1 一廃統計から把握できる量と収集区分の関係

一廃統計の災害廃棄物のごみ処理状況		収取区分合計値	収集区分別	
搬入量	直接資源化	●	●	
	直接埋立	●	●	
	海洋投入	●	●	
	中間処理施設	粗大ごみ処理施設	●	●
		ごみ堆肥化施設	●	●
		ごみ飼料化施設	●	●
		メタン化施設	●	●
		ごみ燃料化施設	●	●
		資源化等を行う施設	●	●
	焼却施設(直接焼却)	セメント等への直接投入	●	●
その他の施設		●	●	
焼却施設		●	●	
焼却施設		●	●	
埋焼施設以外の中間処理	粗大ごみ処理施設	●	●	
	ごみ堆肥化施設	●	●	
	ごみ飼料化施設	●	●	
	メタン化施設	●	●	
	ごみ燃料化施設	●	●	
	資源化等を行う施設	●	●	
	セメント等への直接投入	●	●	
	その他の施設	●	●	
	焼却施設	●	●	
	焼却施設	●	●	
資源化量	直接資源化量	●	●	
	処理後再生利用量	粗大ごみ処理施設	●	●
		ごみ堆肥化施設	●	●
		ごみ飼料化施設	●	●
		メタン化施設	●	●
		ごみ燃料化施設	●	●
		資源化等を行う施設	●	●
	焼却施設	セメント等への直接投入	●	●
		その他の施設	●	●
		焼却施設	●	●
焼却施設		●	●	
最終処分量	直接最終処分量(海洋投入含む)	●	●	
	中間処理後残渣	粗大ごみ処理施設	●	●
		ごみ堆肥化施設	●	●
		ごみ飼料化施設	●	●
		メタン化施設	●	●
		ごみ燃料化施設	●	●
		資源化等を行う施設	●	●
	焼却施設	セメント等への直接投入	●	●
		その他の施設	●	●
		焼却施設	●	●
焼却施設		●	●	

●：一廃統計で値が把握できる量

#### 1.2. 一廃統計の(平成25年度実績)の収集区分のうち、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳品目への按分(本資料p. 7～)

一廃統計(平成25年度実績)の収集区分のうち、「混合ごみ」、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源ごみ」及び「粗大ごみ」については、地方公共団体における東日本大震災により発生した災害廃棄物に関する公表資料等から、ごみ処理状況に応じた品目別内訳比率を設定して内訳品目への按分を行う。

<sup>1</sup> 一廃統計における災害廃棄物の収集区分は、「木くず」「金属くず」「コンクリートがら」「その他がれき類」「石綿含有廃棄物等」「PCB廃棄物」「有害物、危険物」「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」「家電4品目」「パソコン」「自動車」「FRP船」「鋼船」「その他船舶」「畳」「漁網」「タイヤ」「その他家電」「消火器」「ガスボンベ」「土石類」「津波堆積物」「その他」「海洋投入」「漂着ごみ」「除染廃棄物※平成24年度実績より追加」

## 2. 一廃統計（平成25年度実績）の収集区分に基づく災害廃棄物の平成25年度確定値の算出のために必要な推計項目

### 2.1. 災害廃棄物の平成25年度確定値の算出のために必要な推計項目

災害廃棄物の平成25年度確定値の算出のために必要な推計項目を、下記表 2.1に示した。

表中の●で示した項目は、一廃統計(平成25年度実績)の災害廃棄物に関する取りまとめ結果から直接把握が可能な項目であり、災害廃棄物の焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却施設での処理量、資源化量及び最終処分量の収集区分別合計値と、収集区分別の資源化量の値をそのまま利用する。

表中の○で示した項目は、本調査で推計を行う項目であり、

- ・収集区分別に値が必要な直接最終処分(埋立処分、海洋投入処分)及び焼却処理量(直接焼却、処理後焼却)の推計方法については、「3. 収集区分別の焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却施設での処理量、最終処分量の推計」に示した。
- ・収集区分のうち品目別に値が必要な「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳品目の推計方法については、「4. 一廃統計の収集区分のうち、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳品目への按分」に示した。
- ・減量化量については、一廃統計からは把握できないため、以下の算出式を用いて収集区分合計値のみ算出を行う。

$$\text{減量化量} = \text{発生量} - (\text{循環利用量} + \text{最終処分量})$$

表 2.1 災害廃棄物の平成25年度確定値の算出のために必要な推計項目

- :平成26年度一廃統計(平成25年度実績)の災害廃棄物に関する取りまとめ結果から直接把握が可能な項目
- :平成27年度本調査の平成25年度確定値で値を推計する項目
- :物質フロー作成に必要な項目
- :GHGインベントリ算出に必要な項目

単位:トン/年

処理項目	災害廃棄物の区分																													
	小計	木くず	金属くず	コンクリートがら	その他がれき類	石綿含有廃棄物等	PCB廃棄物	有害物・危険物	資源ごみ、粗大ごみについては、7品目に按分	混合ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、その他可燃物	その他不燃物	家電4品目	パソコン	自動車	FRP船	鋼船	その他船舶	量	漁網	タイヤ	その他家電	消火器	ガスボンベ	土石類	津波堆積物	その他	海洋投入	漂着ごみ	除染廃棄物	
発生量	●																													
循環利用量	●																													
直接循環利用量																														
処理後循環利用量																														
焼却施設																														
粗大ごみ処理施設		●																												
ごみ堆肥化施設									○																					
ごみ飼料化施設										○																				
びん/缶/容器類																														
ごみ燃料化施設		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
その他の資源化等を行う施設		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
セメント等への直接投入		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
最終処分量	●																													
直接最終処分量																														
埋立処分		○																												
海洋投入処分																														
処理後最終処分量																														
埋立処分																														
焼却処理後																														
焼却以外の中間処理後		○																												
焼却処理量		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
直接焼却		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
処理後焼却		○																												
減量化量 <sup>注1</sup>	●																													

注1:物質フローでは「減量化量」(小計)が必要となるため、本調査では、上記表の「発生量」(小計)から「循環利用量」(小計)及び「最終処分量」(小計)を差し引いた値を「減量化量」(小計)とした。

## 2.2. 一廃統計（平成25年度実績）の取りまとめと循環利用量調査における平成25年度確定値算出のために必要な推計項目の関係

一廃統計（平成25年度実績）の取りまとめと、循環利用量調査における平成25年度確定値算出のために必要な推計項目の対応関係を表 2.2に示す。

表 2.2 一廃統計における整理と、循環利用量調査における整理との関係

一廃統計（平成25年度実績）における整理

循環利用量調査における平成25年度確定値算出過程での整理

対応番号	一廃統計（平成24年度実績）の災害廃棄物のごみ処理状況
	直接資源化
	直接埋立
	海洋投入
	搬入量
	中間処理施設
	粗大ごみ処理施設
	ごみ堆肥化施設
	ごみ飼料化施設
	メタン化施設
	ごみ燃料化施設
	資源化等を行う施設
	セメント等への直接投入
	その他の施設
	焼却施設（直接焼却）
No.1	粗大ごみ処理施設
No.2	ごみ堆肥化施設
No.3	ごみ飼料化施設
No.4	メタン化施設
No.5	ごみ燃料化施設
No.6	資源化等を行う施設
No.7	セメント等への直接投入
No.8	その他の施設
No.9	直接焼却
No.10	粗大ごみ処理施設
No.11	ごみ堆肥化施設
No.12	ごみ飼料化施設
No.13	メタン化施設
No.14	ごみ燃料化施設
No.15	資源化等を行う施設
No.16	セメント等への直接投入
No.17	その他の施設
No.18	直接資源化量
No.19	粗大ごみ処理施設
No.20	ごみ堆肥化施設
No.21	ごみ飼料化施設
No.22	メタン化施設
No.23	ごみ燃料化施設
No.24	資源化等を行う施設
No.25	セメント等への直接投入
No.26	焼却施設
No.27	直接最終処分量（海洋投入含む）
No.28	粗大ごみ処理施設
No.29	ごみ堆肥化施設
No.30	ごみ飼料化施設
No.31	メタン化施設
No.32	ごみ燃料化施設
No.33	資源化等を行う施設
No.34	セメント等への直接投入
No.35	その他の施設
No.36	焼却施設

対応記号	循環利用量調査における算出過程での整理
(あ)	発生量
(い)	循環利用量
(う)	最終処分量
	減量化量 <sup>注1</sup>

No.18 + No.27+ No.1+No.2+No.3+No.4+No.5+No.6+No.7+No.8+No.9
No.18 + No.19+No.20+No.21+No.22+No.23+No.24+No.25+No.26
No.27+No.28+No.29+No.30+No.31+No.32+No.33+No.34+No.35+No.36
(あ) - [(い) + (う)]

No.18
No.19+No.20+No.21+No.22+No.23+No.24+No.25+No.26
No.26
No.19
No.20
No.21
No.22
No.23
No.24
No.25
No.27+No.28+No.29+No.30+No.31+No.32+No.33+No.34+No.35+No.36
No.27
No.27按分
No.27按分
No.28+No.29+No.30+No.31+No.32+No.33+No.34+No.35+No.36
No.28+No.29+No.30+No.31+No.32+No.33+No.34+No.35+No.36
No.36
No.28+No.29+No.30+No.31+No.32+No.33+No.34+No.35
No.9+No.10+No.11+No.12+No.13+No.14+No.15+No.16+No.17
No.9
No.10+No.11+No.12+No.13+No.14+No.15+No.16+No.17

※「減量化量」は(あ)発生量 - [(い)循環利用量 + (う)最終処分量]で算出する。

※直接最終処分量の埋立処分及び海洋投入処分は下記の様に按分した。

- 一廃統計の直接最終処分量（海洋投入含む）の合計量を、
  - 一廃統計の搬入量ベースの埋立処分合計値と海洋投入処分合計値で按分する。
  - 埋立処分=直接最終処分量（海洋投入含む）×埋立処分/(埋立処分+海洋投入)
  - 海洋投入=直接最終処分量（海洋投入含む）×海洋投入/(埋立処分+海洋投入)
- 埋立処分の合計量と海洋投入の合計量に、搬入量から作成したそれぞれの内訳比率を乗じて収集区分別に按分する。

### 3. 収集区分別の焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却施設での処理量、最終処分量の推計

#### 3.1. 焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却施設での処理量、最終処分量を収集区分別に按分する収集区分別内訳比率の設定方法

収集区分別の焼却以外の中間処理施設における処理量、焼却施設での処理量、最終処分量の推計については、収集区分別に値が把握できる搬入量又は資源化量を基に設定した(A)搬入量から作成する収集区分別内訳比率又は(B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率のいずれかを用いて、収集区分別の量への按分を行う。

##### (A)搬入量から作成する収集区分別内訳比率の推計式

収集区分別内訳比率  $A_i$  = ごみ処理状況*i*の収集区分別搬入量/ごみ処理状況*i*の搬入量合計

*i* : 直接最終処量(海洋投入含む)、粗大ごみ処理施設への搬入量、ごみ堆肥化施設への搬入量、ごみ飼料化施設への搬入量、メタン化施設への搬入量、ごみ燃料化施設への搬入量、資源化等を行う施設への搬入量、セメント等への直接投入、その他の施設、焼却施設(直接焼却)

##### (B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率の推計式

収集区分別内訳比率  $B_j$  = 中間処理施設*j*の収集区分別処理後再生利用量/中間処理施設*j*の処理後再生利用量計

*j* : 粗大ごみ処理施設、ごみ堆肥化施設、ごみ飼料化施設、メタン化施設、ごみ燃料化施設、資源化等を行う施設、セメント等への直接投入、焼却施設(直接焼却)

表1.1(再掲) 一廃統計から把握できる値と収集区分の関係

一廃統計の災害廃棄物の ごみ処理状況		収取区分合計値	収集区分別	
搬入量	直接資源化	●	●	
	直接埋立	●	●	
	海洋投入	●	●	
	中間 処理 施設	粗大ごみ処理施設	●	●
		ごみ堆肥化施設	●	●
		ごみ飼料化施設	●	●
		メタン化施設	●	●
		ごみ燃料化施設	●	●
		資源化等を行う施設	●	●
		セメント等への直接投入	●	●
		その他の施設	●	●
焼却施設(直接焼却)	●	●		
焼 却 以 外 の 中 間 処 理 に お け る 処 置	粗大ごみ処理施設	●	●	
	ごみ堆肥化施設	●	●	
	ごみ飼料化施設	●	●	
	メタン化施設	●	●	
	ごみ燃料化施設	●	●	
	資源化等を行う施設	●	●	
	セメント等への直接投入	●	●	
	その他の施設	●	●	
焼 却 施 設 で の 処 理 量	直接焼却	●	●	
	粗大ごみ処理施設	●	●	
	ごみ堆肥化施設	●	●	
	ごみ飼料化施設	●	●	
	メタン化施設	●	●	
	ごみ燃料化施設	●	●	
	資源化等を行う施設	●	●	
	セメント等への直接投入 その他の施設	●	●	
資 源 化 量	直接資源化量	●	●	
	処理後再生利用量	●	●	
	粗大ごみ処理施設	●	●	
	ごみ堆肥化施設	●	●	
	ごみ飼料化施設	●	●	
	メタン化施設	●	●	
	ごみ燃料化施設	●	●	
	資源化等を行う施設 セメント等への直接投入 焼却施設	●	●	
最 終 処 分 量	直接最終処分量(海洋投入含む)	●	●	
	中 間 処 理 後 残 渣	粗大ごみ処理施設	●	●
		ごみ堆肥化施設	●	●
		ごみ飼料化施設	●	●
		メタン化施設	●	●
		ごみ燃料化施設	●	●
		資源化等を行う施設	●	●
		セメント等への直接投入 その他の施設 焼却施設	●	●

●:一廃統計で値が把握できる量

本調査で直接用いる値



表 3.1に示したとおり、(A)の搬入量から作成する収集区分別内訳比率は全てのごみ処理状況で用いることができ、(B)の処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率は「その他の施設」及び「直接最終処分量(海洋投入含む)」を除いたごみ処理状況で用いることができる。(A)搬入量から作成する収集区分別内訳比率しか適用できないごみ処理状況については(A)の収集区分別内訳比率を用いることとし、それ以外のごみ処理状況については、(A)搬入量から作成する収集区分別内訳比率と(B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率の2通りの収集区分別内訳比率を用いることができる。

表 3.1 作成可能な内訳比率の範囲 A1~A11、B1~B8は表 1.1(再掲)に記載

災害廃棄物の ごみ処理状況		(A)搬入量から 作成した内訳比率の 適用範囲	(B)処理後再生利用量 から作成した内訳比率の 適用範囲	
焼却 施設 以外 の 中間 処理 量	粗大ごみ処理施設	A3	B1	
	ごみ堆肥化施設	A4	B2	
	ごみ飼料化施設	A5	B3	
	メタン化施設	A6	B4	
	ごみ燃料化施設	A7	B5	
	資源化等を行う施設	A8	B6	
	セメント等への直接投入	A9	B7	
	その他の施設	A10		
	直接焼却	A11	B8	
	焼却 施設 での 処理 後 焼却 量	粗大ごみ処理施設	A3	B1
	ごみ堆肥化施設	A4	B2	
	ごみ飼料化施設	A5	B3	
	メタン化施設	A6	B4	
	ごみ燃料化施設	A7	B5	
	資源化等を行う施設	A8	B6	
	セメント等への直接投入	A9	B7	
	その他の施設	A10		
最終 処 分 量	直接最終処分量(海洋投入含む)	A1, A2		
	中間 処 理 後 残 渣	粗大ごみ処理施設	A3	B1
		ごみ堆肥化施設	A4	B2
		ごみ飼料化施設	A5	B3
		メタン化施設	A6	B4
		ごみ燃料化施設	A7	B5
		資源化等を行う施設	A8	B6
		セメント等への直接投入	A9	B7
		その他の施設	A10	
		焼却施設	A11	B8

収集区分内訳比率の設定方法の基本的な考え方は、以下のとおり。

- ① (A)搬入量から作成する収集区分内訳比率と(B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率を両方適用できる場合にあつて、ごみ処理量の概念が「直接処理に向かった廃棄物量であるもの」については、(A) 搬入量から作成する収集区分内訳比率を適用する。
- ② (A)搬入量から作成する収集区分内訳比率と(B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率を両方適用できる場合にあつて、ごみ処理量の概念が「中間処理後の廃棄物量であるもの」については、(B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率を適用する。
- ③ 搬入量から作成する収集区分内訳比率のみ適用できる場合にあつては、(A) 搬入量から作成する収集区分内訳比率を適用する。

平成25年度確定値の算出にあつては、上記の考え方に従つて次のとおり設定した。

- 中間処理後に焼却処理に向かった廃棄物量である「焼却以外の中間処理施設における処理量(その他の施設を除く)」及び直接焼却施設に向かった廃棄物量である「直接焼却」は、中間処理施設や焼却施設(直接焼却)に向かった廃棄物量である(A)搬入量から作成する収集区分内訳比率を適用した。
- 中間処理後に焼却処理に向かった廃棄物量である「処理後焼却量(その他の施設を除く)」及び中間処理後に最終処分に向かった廃棄物量である「中間処理後残渣(その他の施設を除く)」は、中間処理後に再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量である(B)処理後再生利用量から作成する収集区分別内訳比率を適用した。
- 搬入量のデータのみ利用可能である「その他の施設」及び「直接最終処分量」については、(A)搬入量から作成する収集区分内訳比率を適用した。

表 3.2 一廃統計から把握できる量及びごみ処理量の概念と適用する収集区分別内訳比率の関係

一廃統計の災害廃棄物の ごみ処理状況		収集区分合計値	収集区分別	ごみ処理量の概念	適用する 比率		
搬入量	直接資源化	●	●	直接資源化に向かった廃棄物量			
	直接埋立	●	● A1	直接埋立に向かった廃棄物量			
	海洋投入	●	● A2	海洋投入に向かった廃棄物量			
	中間 処理 施設	粗大ごみ処理施設	●	● A3	粗大ごみ処理施設に向かった廃棄物量		
		ごみ堆肥化施設	●	● A4	ごみ堆肥化施設に向かった廃棄物量		
		ごみ飼料化施設	●	● A5	ごみ飼料化施設に向かった廃棄物量		
		メタン化施設	●	● A6	メタン化施設に向かった廃棄物量		
		ごみ燃料化施設	●	● A7	ごみ燃料化施設に向かった廃棄物量		
		資源化等を行う施設	●	● A8	資源化等を行う施設に向かった廃棄物量		
		セメント等への直接投入	●	● A9	セメント等への直接投入に向かった廃棄物量		
		その他の施設	●	● A10	その他の施設に向かった廃棄物量		
焼却施設(直接焼却)		●	● A11	焼却施設(直接焼却)に向かった廃棄物量			
焼却 処理 施設 以外 の中 間 処 理 量		粗大ごみ処理施設	●	搬入量から 作成する収 集区分別内 訳比率(A)	粗大ごみ処理施設で中間処理に向かった廃棄物量	A3	
	ごみ堆肥化施設	●	ごみ堆肥化施設で中間処理に向かった廃棄物量		A4		
	ごみ飼料化施設	●	ごみ飼料化施設で中間処理に向かった廃棄物量		A5		
	メタン化施設	●	メタン化施設で中間処理に向かった廃棄物量		A6		
	ごみ燃料化施設	●	ごみ燃料化施設で中間処理に向かった廃棄物量		A7		
	資源化等を行う施設	●	資源化等を行う施設で中間処理に向かった廃棄物量		A8		
	セメント等への直接投入	●	セメント等への直接投入に向かった廃棄物量		A9		
	その他の施設	●	その他の施設で中間処理に向かった廃棄物量		A10		
	直接焼却	●	直接焼却施設に向かった廃棄物量		A11		
	焼却 施設 で の 処 理 量	粗大ごみ処理施設	●			粗大ごみ処理施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B1
		ごみ堆肥化施設	●			ごみ堆肥化施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B2
ごみ飼料化施設		●		ごみ飼料化施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B3		
メタン化施設		●		メタン化施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B4		
ごみ燃料化施設		●		ごみ燃料化施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B5		
資源化等を行う施設		●		資源化等を行う施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B6		
セメント等への直接投入		●		セメント等への直接投入後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	B7		
その他の施設		●		その他の施設の中間処理後の廃棄物のうち、焼却施設に向かった廃棄物量	A10		
直接資源化		●		直接資源化に向かった廃棄物量又は資源化量			
処理 後 再 生 利 用 量		粗大ごみ処理施設	●	● B1	粗大ごみ処理施設の中間処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量		
		ごみ堆肥化施設	●	● B2	ごみ堆肥化施設の中間処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量		
	ごみ飼料化施設	●	● B3	ごみ飼料化施設の中間処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量			
	メタン化施設	●	● B4	メタン化施設の中間処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量			
	ごみ燃料化施設	●	● B5	ごみ燃料化施設の中間処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量			
	資源化等を行う施設	●	● B6	資源化等を行う施設の中間処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量			
	セメント等への直接投入	●	● B7	セメント等への直接投入後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量			
	焼却施設	●	● B8	焼却施設での焼却処理後の廃棄物のうち、再生利用に向かった廃棄物量又は再生利用量			
最終 処 分 量	直接最終処分量(海洋投入含む)	●	●	直接最終処分に向かった廃棄物量	A1,A2		
	中間 処 理 後 残 渣	粗大ごみ処理施設	●	処理後再生利 用量から作 成する収集区 分別内訳比 率(B)	粗大ごみ処理施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B1	
		ごみ堆肥化施設	●		ごみ堆肥化施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B2	
		ごみ飼料化施設	●		ごみ飼料化施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B3	
		メタン化施設	●		メタン化施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B4	
		ごみ燃料化施設	●		ごみ燃料化施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B5	
		資源化等を行う施設	●		資源化等を行う施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B6	
		セメント等への直接投入	●		セメント等への直接投入後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B7	
		その他の施設	●		その他の施設の中間処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	A10	
		焼却施設	●		焼却施設での焼却処理後の廃棄物のうち、最終処分に向かった廃棄物量	B8	

#### 4. 一廃統計の収集区分のうち、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳品目への按分

##### 4.1. 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」を按分する品目別内訳比率の設定方法

災害廃棄物のGHGインベントリ算出については、一廃統計(平成25年度実績)で公表されている災害廃棄物の収集区分別に推計方法の検討が行われるため、本調査における平成25年度確定値の算出では、一廃統計(平成25年度実績)の収集区分別に整理を行っている。

ただし、収集区分のうち「混合ごみ」、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源ごみ」及び「粗大ごみ」については、GHGインベントリにおける利用用途を踏まえ、品目別内訳比率による按分を行う。

按分に必要となる品目別内訳比率と、一廃統計(平成25年度実績)のごみ処理状況の対応関係を表 4.1 に示す。中間処理施設、直接最終処分及び直接資源化ごとに、「混合ごみ」、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源ごみ」及び「粗大ごみ」の品目別内訳比率を設定することにより、一廃統計(平成25年度実績)における災害廃棄物のごみ処理状況の全ての項目について品目別内訳比率が適用可能となり、本調査における平成25年度確定値を品目別に按分することができる。(p.3 表 2.2に示したとおり)。

表 4.1 品目別内訳比率と、一廃統計における災害廃棄物のごみ処理状況の対応関係

中間処理施設、直接最終処分、直接資源化における収集区分ごとの品目別内訳比率	収集区分				
	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	粗大ごみ
焼却施設	C1	C2	C3	C4	C5
資源化等を行う施設	D1	D2	D3	D4	D5
その他の施設	E1	E2	E3	E4	E5
セメント等への直接投入	F1	F2	F3	F4	F5
粗大ごみ処理施設	G1	G2	G3	G4	G5
ごみ堆肥化施設	H1	H2	H3	H4	H5
ごみ飼料化施設					
メタン化施設					
ごみ燃料化施設	I1	I2	I3	I4	I5
直接最終処分	J1	J2	J3	J4	J5
直接資源化	K1	K2	K3	K4	K5

※ごみ飼料化施設及びメタン化施設については、一般廃棄物(災害廃棄物)では一廃統計上値が計上されていない。

一廃統計における災害廃棄物のごみ処理状況	収集区分					
	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	粗大ごみ	
処理施設以外における中間処理施設	粗大ごみ処理施設	G1	G2	G3	G4	G5
	ごみ堆肥化施設	H1	H2	H3	H4	H5
	ごみ飼料化施設					
	メタン化施設					
	ごみ燃料化施設	I1	I2	I3	I4	I5
	資源化等を行う施設	D1	D2	D3	D4	D5
	セメント等への直接投入	F1	F2	F3	F4	F5
	その他の施設	E1	E2	E3	E4	E5
	直接焼却	C1	C2	C3	C4	C5
	焼却施設での処理量	粗大ごみ処理施設	G1	G2	G3	G4
	ごみ堆肥化施設	H1	H2	H3	H4	H5
	ごみ飼料化施設					
	メタン化施設					
	ごみ燃料化施設	I1	I2	I3	I4	I5
	資源化等を行う施設	D1	D2	D3	D4	D5
	セメント等への直接投入	F1	F2	F3	F4	F5
	焼却施設	C1	C2	C3	C4	C5
	直接最終処分量	J1	J2	J3	J4	J5
資源化量	粗大ごみ処理施設	G1	G2	G3	G4	G5
	ごみ堆肥化施設	H1	H2	H3	H4	H5
	ごみ飼料化施設					
	メタン化施設					
	ごみ燃料化施設	I1	I2	I3	I4	I5
	資源化等を行う施設	D1	D2	D3	D4	D5
	セメント等への直接投入	F1	F2	F3	F4	F5
	焼却施設	C1	C2	C3	C4	C5
	直接最終処分量	J1	J2	J3	J4	J5
	最終処分量	粗大ごみ処理施設	G1	G2	G3	G4
ごみ堆肥化施設		H1	H2	H3	H4	H5
ごみ飼料化施設						
メタン化施設						
ごみ燃料化施設		I1	I2	I3	I4	I5
資源化等を行う施設		D1	D2	D3	D4	D5
セメント等への直接投入		F1	F2	F3	F4	F5
その他の施設		E1	E2	E3	E4	E5
焼却施設		C1	C2	C3	C4	C5

次に、「混合ごみ」、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源ごみ」及び「粗大ごみ」をどのような内訳品目に整理するのかについては、GHGインベントリにおける用途と地方公共団体の災害廃棄物の実態調査結果等に基づき下記のように設定する。

- 地方公共団体の災害廃棄物実態調査等を用いたごみ処理状況別の品目別内訳比率の設定  
 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」のごみ処理状況別の内訳比率については、地方公共団体の災害廃棄物実態調査結果から把握した品目名のまま比率を設定、又は通常時の一般廃棄物（災害廃棄物を除く）における品目名のまま内訳比率を設定する。
- ごみ処理状況別に把握した内訳品目の統合  
 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」のごみ処理状況別に把握した内訳品目について、GHGインベントリにおける用途を踏まえ下記の方針で統合する。
- 1) 災害廃棄物のGHGインベントリでは、一廃統計の収集区分別に推計方法が検討されており、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳として設定した廃棄物のうち、一廃統計（災害廃棄物）の収集区分\*1として把握できるものについては、一廃統計（災害廃棄物）で公表されている収集区分の名称のまま品目として設定する。  
 ※1 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」以外の収集区分
  - 2) 地方公共団体の災害廃棄物実態調査等を用いて「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳として設定した品目のうち、1)で設定した品目を除き、プラスチック類（化石燃料由来の廃棄物）として把握できるものについては、GHGインベントリ算出用途から「プラスチック類」として設定する。
  - 3) 地方公共団体の災害廃棄物実態調査等を用いて「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の内訳として設定した品目のうち、1)及び2)で設定した品目として整理できないものについては、GHGインベントリ算出用途から、可燃系の廃棄物と不燃系の廃棄物に分けて整理を行い、それぞれ「その他可燃物」「その他不燃物」として整理を行う。

上記の内訳品目の設定方針に従い、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の5収集区分のそれぞれについて、下図のとおり7品目に按分して整理する。

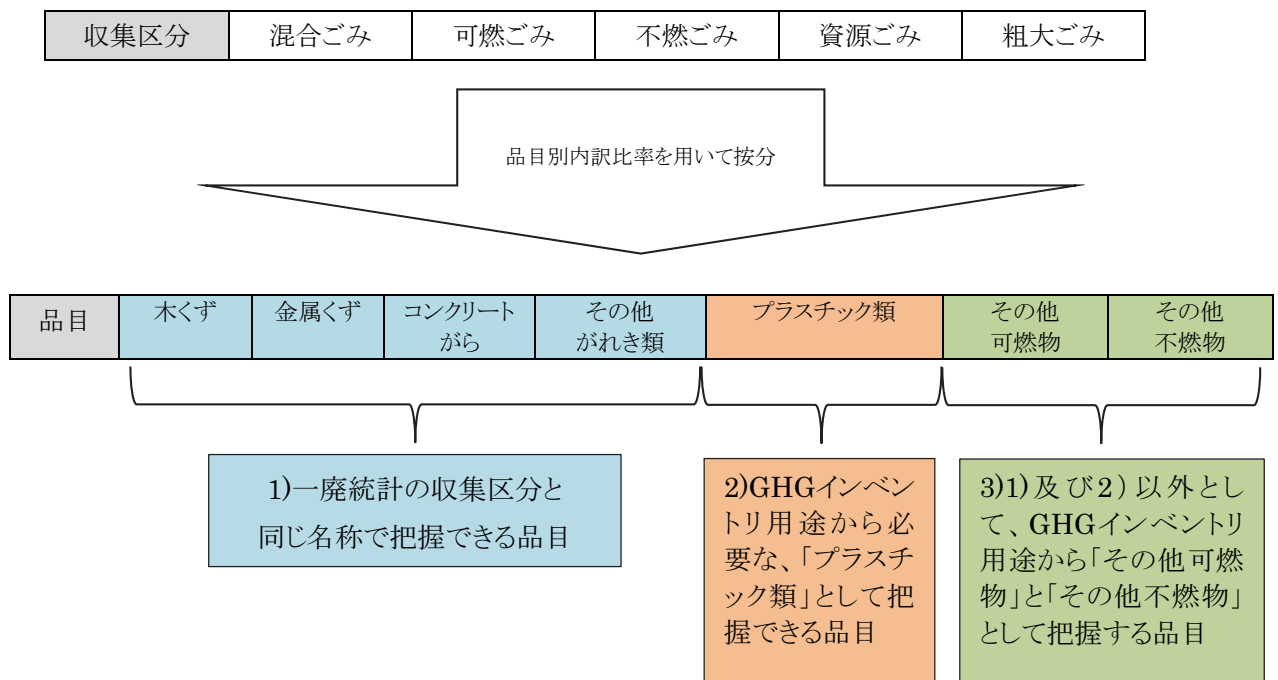


図 4.1 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」を按分する内訳品目の設定

## 4.2. 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」及び「粗大ごみ」を按分する品目別内訳比率の設定

「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」及び「粗大ごみ」を按分する品目別内訳比率の設定方法と設定値を以下に示す。なお、一部の比率については、一廃統計(平成25年度実績)の処理実績を基に年度更新を行った(平成25年度速報値からの修正箇所は赤字、比率変更箇所は黄色網掛けで示す)。

表 4.2 平成25年度確定値算出に用いる品目別内訳比率(1/3)

処理施設等	品目別内訳比率の設定(平成25年度確定値算出への適用案)																																																																																														
	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	粗大ごみ																																																																																										
	収集区分																																																																																														
焼却施設	既設焼却炉																																																																																														
	<p>○設定方法 宮城県「災害廃棄物放射能濃度測定調査業務報告書(平成24年1月)」から、未分別の一次仮置場別の組成分析結果を基データとし、組成調査を行った一次仮置場の市町ごとの災害廃棄物の全処理量で加重平均して比率を設定する。</p> <p>(自治体への確認結果) 岩手県及び仙台市に対して、災害廃棄物の「混合ごみ」の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータはないとの回答を得た。</p>	<p>○設定方法 岩手県の「災害廃棄物の選別処理後の分析データ」から設定した比率、仙台市の「がれき処理フロー」から震災により発生した「可燃ごみ」の全処理重量、及び宮城県の「災害廃棄物処理業務の記録(平成26年7月)」の「マテリアルバランス」から宮城県委託処理分(各ブロック・処理区)の震災により発生した「可燃ごみ」の全処理重量を基データとして、岩手県、宮城県及び仙台市の基データで把握された自治体の災害廃棄物の全処理量で加重平均して比率を設定する。</p>	<p>○設定方法 一廃統計(平成25年度実績)の焼却施設の「不燃ごみ」については、前年度のように太平洋セメント大船渡工場で焼却処理されていることは確認できなかったため、災害廃棄物の発生量から求めた「その他の資源化等を行う施設」の「不燃ごみ」の品目別内訳比率を設定する。</p> <p>○本区分に該当する自治体、搬入量 ・岩手県の宮古市(723t)、矢巾町(299t)、山田町(639t) ・京都府の亀岡市(52t)</p>	<p>○設定方法 仙台市の「平成25年度一般廃棄物処理年報(平成25年度実績)」から、「資源ごみ」の選別処理状況を基データとし、選別した品目ごとの収集重量より品目別内訳比率を設定する。</p> <p>(自治体への確認結果) 岩手県及び宮城県に対して、「資源ごみ」の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータはないと回答を得た。</p>	<p>○設定方法 通常時の一般廃棄物(災害廃棄物を含まない)の循環利用量等の「平成25年度確定値」の算出で用いる「粗大ごみ」の品目別内訳比率とする。</p>																																																																																										
	<p>○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>7.7%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>13.7%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>44.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	34.6%	金属くず	0.0%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	7.7%	その他可燃	13.7%	その他不燃物	44.0%	合計	100.0%	<p>○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>38.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.2%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>56.7%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>1.9%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	38.0%	金属くず	0.2%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	3.0%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	56.7%	その他不燃物	1.9%	合計	100.0%	<p>○設定値 ・設定方法の変更</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>5.5%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>87.8%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>5.8%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>0.8%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	5.5%	コンクリートがら	87.8%	その他がれき類	5.8%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	0.0%	その他不燃物	0.8%	合計	100.0%	<p>○設定値 ・実施年度の更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>9.4%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>17.4%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>30.9%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>38.2%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>4.2%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	9.4%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	17.4%	プラスチック類	30.9%	その他可燃	38.2%	その他不燃物	4.2%	合計	100.0%	<p>○設定値 ・実績年度の更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>29.2%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>14.8%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>31.5%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>24.5%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	29.2%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	14.8%	その他可燃	31.5%	その他不燃物	24.5%	合計	100.0%
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	34.6%																																																																																														
金属くず	0.0%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	0.0%																																																																																														
プラスチック類	7.7%																																																																																														
その他可燃	13.7%																																																																																														
その他不燃物	44.0%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	38.0%																																																																																														
金属くず	0.2%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	3.0%																																																																																														
プラスチック類	0.0%																																																																																														
その他可燃	56.7%																																																																																														
その他不燃物	1.9%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	0.0%																																																																																														
金属くず	5.5%																																																																																														
コンクリートがら	87.8%																																																																																														
その他がれき類	5.8%																																																																																														
プラスチック類	0.0%																																																																																														
その他可燃	0.0%																																																																																														
その他不燃物	0.8%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	0.0%																																																																																														
金属くず	9.4%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	17.4%																																																																																														
プラスチック類	30.9%																																																																																														
その他可燃	38.2%																																																																																														
その他不燃物	4.2%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	0.0%																																																																																														
金属くず	29.2%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	0.0%																																																																																														
プラスチック類	14.8%																																																																																														
その他可燃	31.5%																																																																																														
その他不燃物	24.5%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
仮設焼却炉																																																																																															
<p>宮城県、仙台市、岩手県、釜石市、福島県の仮設焼却炉の平成25年度実績のごみ組成データを基に、仮設焼却炉の品目別内訳比率を設定し、平成25年度確定値の品目別焼却処理量を算出する。品目別焼却処理量の算出に用いた設定値及びその適用方法については、後述する。</p>																																																																																															
その他の資源化等を行う施設 その他の施設	<p>○設定方法 (焼却施設に同じ)</p>	<p>○設定方法 (焼却施設に同じ)</p>	<p>○設定方法 仙台市の「がれき処理フロー」から震災により発生した「不燃ごみ」の全処理重量、及び宮城県の「災害廃棄物処理業務の記録(平成26年7月)」の「マテリアルバランス」から、宮城県委託処理分(各ブロック・処理区)の震災により発生した「不燃ごみ」の全処理重量から比率を設定する。</p> <p>(自治体への確認結果) 岩手県に対して、災害廃棄物の「不燃ごみ」の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータはないとの回答を得た。</p>	<p>○設定方法 (焼却施設に同じ)</p>	<p>○設定方法 (焼却施設に同じ)</p>																																																																																										
	<p>○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>34.6%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>7.7%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>13.7%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>44.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	34.6%	金属くず	0.0%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	7.7%	その他可燃	13.7%	その他不燃物	44.0%	合計	100.0%	<p>○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>38.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.2%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>56.7%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>1.9%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	38.0%	金属くず	0.2%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	3.0%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	56.7%	その他不燃物	1.9%	合計	100.0%	<p>○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>5.5%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>87.8%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>5.8%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>0.8%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	5.5%	コンクリートがら	87.8%	その他がれき類	5.8%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	0.0%	その他不燃物	0.8%	合計	100.0%	<p>○設定値 ・実施年度の更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>9.4%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>17.4%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>30.9%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>38.2%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>4.2%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	9.4%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	17.4%	プラスチック類	30.9%	その他可燃	38.2%	その他不燃物	4.2%	合計	100.0%	<p>○設定値 ・実績年度の更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>29.2%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>14.8%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>31.5%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>24.5%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	29.2%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	14.8%	その他可燃	31.5%	その他不燃物	24.5%	合計	100.0%
	品目	内訳比率(%)																																																																																													
木くず	34.6%																																																																																														
金属くず	0.0%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	0.0%																																																																																														
プラスチック類	7.7%																																																																																														
その他可燃	13.7%																																																																																														
その他不燃物	44.0%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	38.0%																																																																																														
金属くず	0.2%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	3.0%																																																																																														
プラスチック類	0.0%																																																																																														
その他可燃	56.7%																																																																																														
その他不燃物	1.9%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	0.0%																																																																																														
金属くず	5.5%																																																																																														
コンクリートがら	87.8%																																																																																														
その他がれき類	5.8%																																																																																														
プラスチック類	0.0%																																																																																														
その他可燃	0.0%																																																																																														
その他不燃物	0.8%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	0.0%																																																																																														
金属くず	9.4%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	17.4%																																																																																														
プラスチック類	30.9%																																																																																														
その他可燃	38.2%																																																																																														
その他不燃物	4.2%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														
品目	内訳比率(%)																																																																																														
木くず	0.0%																																																																																														
金属くず	29.2%																																																																																														
コンクリートがら	0.0%																																																																																														
その他がれき類	0.0%																																																																																														
プラスチック類	14.8%																																																																																														
その他可燃	31.5%																																																																																														
その他不燃物	24.5%																																																																																														
合計	100.0%																																																																																														

表 4.3 平成25年度確定値算出に用いる品目別内訳比率(2/3)

処理施設等	品目別内訳比率の設定(平成25年度確定値算出への適用案)																																								
	混合ごみ	可燃ごみ	収集区分 不燃ごみ	資源ごみ	粗大ごみ																																				
セメントへの直接投入	<p>混合ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>○設定方法 可燃ごみの平成25年度処理実績については、平成24年度と同様、岩手県の「可燃ごみ」に関する組成調査結果から設定した品目別内訳比率とする。 平成25年度に行った施設調査結果から、太平洋セメント大船渡工場に搬入される「可燃ごみ」は、「50mm以下」であることが分かったため、比率の設定では粒径が「50mm以下」の組成調査結果のみを用いる。  (セメント工場への確認結果) セメント工場に搬入される災害廃棄物の「可燃ごみ」の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータは無いとの回答を得た。 ○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>68.4%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.8%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>15.6%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.4%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>5.5%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>9.3%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	68.4%	金属くず	0.8%	コンクリートがら	15.6%	その他がれき類	0.4%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	5.5%	その他不燃物	9.3%	合計	100.0%	<p>○設定方法 不燃ごみの平成25年度処理実績については、平成24年度と同様、岩手県の「不燃ごみ」に関する組成調査結果を基に、全量を汚泥・スラッジ・建設汚泥土(その他不燃)とする。  (セメント工場への確認結果) セメント工場に搬入される災害廃棄物の「不燃ごみ」の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータは無いとの回答を得た。 ○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	0.0%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	0.0%	その他不燃物	100.0%	合計	100.0%	<p>資源ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>粗大ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>
品目	内訳比率(%)																																								
木くず	68.4%																																								
金属くず	0.8%																																								
コンクリートがら	15.6%																																								
その他がれき類	0.4%																																								
プラスチック類	0.0%																																								
その他可燃	5.5%																																								
その他不燃物	9.3%																																								
合計	100.0%																																								
品目	内訳比率(%)																																								
木くず	0.0%																																								
金属くず	0.0%																																								
コンクリートがら	0.0%																																								
その他がれき類	0.0%																																								
プラスチック類	0.0%																																								
その他可燃	0.0%																																								
その他不燃物	100.0%																																								
合計	100.0%																																								
粗大ごみ処理施設	<p>○設定方法 通常時の一般廃棄物(災害廃棄物を含まない)の循環利用量等の平成25年度確定値の算出で用いた「粗大ごみ処理施設」の品目別内訳比率とする。 ○設定値 実績年度の更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>24.1%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>11.7%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>15.3%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>29.7%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	24.1%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	11.7%	プラスチック類	15.3%	その他可燃	29.7%	その他不燃物	19.2%	合計	100.0%	<p>○設定方法 (混合ごみに同じ)</p>	<p>○設定方法 (混合ごみに同じ)</p>	<p>○設定方法 (混合ごみに同じ)</p>																			
品目	内訳比率(%)																																								
木くず	0.0%																																								
金属くず	24.1%																																								
コンクリートがら	0.0%																																								
その他がれき類	11.7%																																								
プラスチック類	15.3%																																								
その他可燃	29.7%																																								
その他不燃物	19.2%																																								
合計	100.0%																																								
ごみ堆肥化施設	ごみ堆肥化施設での混合ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。																																								
ごみ飼料化施設	ごみ飼料化施設での混合ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。																																								
メタン化施設	メタン化施設での混合ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。																																								

表 4.4平成25年度確定値算出に用いる品目別内訳比率(3/3)

処理施設等	品目別内訳比率の設定(平成25年度確定値算出への適用案)																																																							
	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	粗大ごみ																																																			
ごみ燃料化施設	<p>○設定方法 ごみ燃料化施設での平成25年度処理実績については、平成24年度と同様に、「廃プラスチック類」のごみ燃料化処理実績(福島県いわき市)のみであり、いわき市の処理実績と一致することが確認できたことから、全量「プラスチック類」とする。</p>	<p>○設定方法 一廃統計(平成25年度実績)のごみ燃料化施設の可燃ごみについては、東北3県以外の処理実績を一部含んでおり、前年度と同様に全量を廃プラスチック類とは見なせないため、通常時の一般廃棄物(災害廃棄物を含まない)の循環利用量等の平成25年度確定値の算出で用いる「ごみ燃料化施設」の品目別内訳比率とする。</p> <p>○本区分に該当する自治体、搬入量 ・福島県の須賀川市の可燃ごみ(45t) ・天栄村の可燃ごみ(315t) ・三重県の伊賀市の可燃ごみ(48t)</p>	<p>不燃ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>資源ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>○設定方法 (可燃ごみに同じ) 一廃統計(平成25年度実績)のごみ燃料化施設の粗大ごみについては、東北3県以外の処理実績であり、前年度と同様に全量を廃プラスチック類とは見なせないため、通常時の一般廃棄物(災害廃棄物を含まない)の循環利用量等の平成25年度確定値の算出で用いる「ごみ燃料化施設」の品目別内訳比率とする。</p> <p>○本区分に該当する自治体、搬入量 ・東京都の大島町の粗大ごみ(8t)</p>																																																			
	<p>○設定値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>100.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目			内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	0.0%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	100.0%	その他可燃	0.0%	その他不燃物	0.0%	合計	100.0%	<p>○設定値</p> <p>・設定方法の変更</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>4.1%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>19.9%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>76.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	4.1%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	19.9%	その他可燃	76.0%	その他不燃物	0.0%	合計	100.0%	<p>○設定値</p> <p>・設定方法の変更</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>4.1%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>19.9%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>76.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目	内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	4.1%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	19.9%	その他可燃	76.0%	その他不燃物
品目	内訳比率(%)																																																							
木くず	0.0%																																																							
金属くず	0.0%																																																							
コンクリートがら	0.0%																																																							
その他がれき類	0.0%																																																							
プラスチック類	100.0%																																																							
その他可燃	0.0%																																																							
その他不燃物	0.0%																																																							
合計	100.0%																																																							
品目	内訳比率(%)																																																							
木くず	0.0%																																																							
金属くず	4.1%																																																							
コンクリートがら	0.0%																																																							
その他がれき類	0.0%																																																							
プラスチック類	19.9%																																																							
その他可燃	76.0%																																																							
その他不燃物	0.0%																																																							
合計	100.0%																																																							
品目	内訳比率(%)																																																							
木くず	0.0%																																																							
金属くず	4.1%																																																							
コンクリートがら	0.0%																																																							
その他がれき類	0.0%																																																							
プラスチック類	19.9%																																																							
その他可燃	76.0%																																																							
その他不燃物	0.0%																																																							
合計	100.0%																																																							
直接資源化	<p>混合ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>○設定方法 宮城県より入手した最終版の「災害廃棄物の処理フロー」から、宮城県委託処理分(各ブロック・処理区)の破碎・選別後に直接再生利用される災害廃棄物の重量を基データとして、品目別内訳比率を設定する。</p> <p>(自治体への確認結果) 岩手県及び仙台市に対して、「直接資源化」される災害廃棄物の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータはないと回答を得た。</p>	<p>○設定方法 (左記に同じ)</p>	<p>資源ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>粗大ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>																																																			
	<p>○設定値 ・発生量(推計)→処理量(実績)に更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>2.7%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>2.9%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>51.9%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>2.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.2%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>40.3%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目				内訳比率(%)	木くず	2.7%	金属くず	2.9%	コンクリートがら	51.9%	その他がれき類	2.0%	プラスチック類	0.2%	その他可燃	0.0%	その他不燃物	40.3%	合計	100.0%	<p>○設定値 (左記に同じ)</p>																																	
品目	内訳比率(%)																																																							
木くず	2.7%																																																							
金属くず	2.9%																																																							
コンクリートがら	51.9%																																																							
その他がれき類	2.0%																																																							
プラスチック類	0.2%																																																							
その他可燃	0.0%																																																							
その他不燃物	40.3%																																																							
合計	100.0%																																																							
直接埋立	<p>○設定方法 宮城県より入手した最終版の「災害廃棄物の処理フロー」から、宮城県委託処理分(各ブロック・処理区)の破碎・選別後に直接埋立処分される災害廃棄物の重量を基データとして、品目別内訳比率を設定する。</p> <p>(自治体への確認結果) 岩手県及び仙台市に対して、「直接埋立」される災害廃棄物の品目別内訳比率が把握可能な組成分析結果等のデータについて確認を行ったが、そのようなデータはないと回答を得た。</p>	<p>○設定方法 (混合ごみに同じ)</p>	<p>資源ごみの平成25年度処理実績は計上されていないため、比率は設定しない。</p>	<p>○設定方法 (混合ごみに同じ)</p>																																																				
	<p>○設定値 ・発生量(推計)→処理量(実績)に更新</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>内訳比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>木くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>金属くず</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>コンクリートがら</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他がれき類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>プラスチック類</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>その他可燃</td><td>16.9%</td></tr> <tr><td>その他不燃物</td><td>83.1%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100.0%</td></tr> </tbody> </table>	品目			内訳比率(%)	木くず	0.0%	金属くず	0.0%	コンクリートがら	0.0%	その他がれき類	0.0%	プラスチック類	0.0%	その他可燃	16.9%	その他不燃物	83.1%	合計	100.0%	<p>○設定値 (混合ごみに同じ)</p>																																		
品目	内訳比率(%)																																																							
木くず	0.0%																																																							
金属くず	0.0%																																																							
コンクリートがら	0.0%																																																							
その他がれき類	0.0%																																																							
プラスチック類	0.0%																																																							
その他可燃	16.9%																																																							
その他不燃物	83.1%																																																							
合計	100.0%																																																							

### 4.3. 焼却処理施設の品目別内訳比率の設定方法

宮城県、仙台市、岩手県、釜石市及び福島県の仮設焼却炉のごみ組成データを基に仮設焼却炉の品目別内訳比率を設定し、既設焼却炉と仮設焼却炉に分けて平成25年度確定値の品目別焼却処理量を算出する。品目別焼却処理量の算出における基本方針、品目別内訳比率の設定方法、試算した設定値及びその適用方法については、次に示すとおりである。

#### (1) 品目別焼却処理量の算出における基本方針

- 災害廃棄物の品目別焼却処理量は、仮設焼却炉と既設焼却炉に分けて算出する
- 仮設焼却炉の品目別焼却処理量は、災害廃棄物を受け入れていることから地域や処理区によりごみ組成が異なる可能性が高いため、宮城県、仙台市、岩手県、釜石市、福島県の仮設焼却炉から得られた組成データを基に設定した年度別、処理区又は炉別の品目別内訳比率を、一廃統計で把握された平成25年度の仮設焼却炉の処理量に乗じて算出する
- 既設焼却炉の品目別焼却処理量は、震災発生時の災害廃棄物の推計重量や通常時の一般廃棄物の品目別内訳比率に基づいて設定した平成25年度確定値の品目別内訳比率を、一廃統計で把握された平成25年度の既設焼却炉の処理量に乗じて算出する

#### (2) 仮設焼却炉の品目別内訳比率の設定方法及び設定値

##### ① 仮設焼却炉の品目別内訳比率の設定方法の基本的な考え方

- 施設設計時のごみ組成データは除外する
- 一廃統計における災害廃棄物は湿重量で把握されているため、湿重量比のごみ組成データを用いる（乾重量比のごみ組成データは、p.18の参考に示した仙台市のごみ組成別の水分量（%）を基に湿重量比のごみ組成データを推計する。）
- 同一の処理区（又は炉）内で複数のごみ組成データがある場合は、単純平均もしくはごみ試料の採取重量で加重平均した上で、当該処理区（又は炉）の組成データとして用いる
- 仮設焼却炉の品目別内訳比率は、宮城県、仙台市、岩手県、釜石市、福島県ごとに分け、可能な範囲で組成データを収集し、年度別、処理区又は炉別に設定する。ただし、設定できない処理区又は炉については、当該県市の組成データを加重平均した品目別内訳比率を設定する ※なお、各県市の処理状況は特徴が異なることから4県市平均等の品目別内訳比率は設定しない
- 宮城県、岩手県（釜石市除く）及び福島県のごみ組成における「ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類」のうち「プラスチック類」の割合については、仙台市の仮設焼却炉の「プラスチック類」及び「ゴム・皮革類」の合計が「ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類」と仮定し、仙台市の「プラスチック類」と「ゴム・皮革類」の比で按分して求める。



②設定した仮設焼却炉の品目別内訳比率

②の基本的な考え方に従って、宮城県、仙台市、岩手県及び釜石市提供のごみ組成データを基に設定した品目別内訳比率は、以下のとおりである。宮城県の平成25年度の仮設焼却炉の品目別内訳比率については、宮城県提供のごみ組成データを基に、処理区別・炉別に品目別内訳比率を設定する。

表 4.5 宮城県の平成25年度確定値の仮設焼却炉の処理区別・炉別の品目別内訳比率（案）

県・市		宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県
処理区・炉		気仙沼 処理区 ストーカ炉	気仙沼 処理区 キルン炉	南三陸 処理区 ストーカ炉	石巻 ブロック キルン炉 (J1)	石巻 ブロック キルン炉 (J2)	石巻 ブロック ストーカ炉 (M1)	石巻 ブロック ストーカ炉 (M2)	石巻 ブロック ストーカ炉 (M3)	宮城 東部 ブロック ストーカ炉	宮城 東部 ブロック キルン炉
ごみの種類		混合 廃棄物	混合 廃棄物	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ
ごみ 組成 (%)	紙・布類	3.2%	2.3%	4.2%	5.6%	5.6%	7.6%	7.6%	7.6%	2.2%	8.9%
	ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類	6.9%	7.2%	5.8%	7.5%	7.5%	9.0%	9.0%	9.0%	2.1%	12.3%
	木・竹・わら類	67.7%	59.5%	71.9%	51.2%	51.2%	51.6%	51.6%	51.6%	59.5%	33.0%
	厨芥類(動植物性残さ、 卵殻、貝殻含む)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不燃物類	6.9%	18.3%	9.1%	15.6%	15.6%	17.6%	17.6%	17.6%	10.9%	12.0%
	その他(5mm通過)	15.3%	12.7%	8.9%	20.1%	20.1%	14.2%	14.2%	14.2%	25.3%	33.9%
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
焼却処理量 <sup>2</sup> (トン) 平成25年度実績		61,492	40,661	52,575	56,218	54,976	72,680	71,480	70,290	9,978	29,531

県・市		宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県	宮城県 仮設焼却 炉平均
処理区・炉		名取 処理区 ストーカ炉	岩沼 処理区 ストーカ炉 1号炉	岩沼 処理区 ストーカ炉 2号炉	岩沼 処理区 キルン炉 3号炉	亘理 処理区 ストーカ炉	山元 処理区 キルン炉 1号炉	山元 処理区 ストーカ炉 2号炉	
ごみの種類		混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 ごみ	混合 廃棄物
ごみ 組成 (%)	紙・布類	5.4%	4.1%	4.1%	2.6%	6.4%	3.6%	5.6%	5.5%
	ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類	10.1%	8.8%	8.8%	7.9%	11.6%	5.6%	13.1%	8.4%
	木・竹・わら類	45.5%	53.6%	53.6%	53.2%	49.8%	64.1%	60.7%	55.3%
	厨芥類(動植物性残さ、 卵殻、貝殻含む)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不燃物類	24.6%	16.2%	16.2%	18.0%	13.7%	26.8%	7.3%	15.3%
	その他(5mm通過)	14.4%	17.3%	17.3%	18.2%	18.5%	0.0%	13.3%	15.5%
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
焼却処理量 <sup>2</sup> (トン) 平成25年度実績		25,656	5,390	5,750	13,501	56,113	29,283	21,938	

<sup>2</sup> 「仮設焼却炉の維持管理状況(測定結果等)について(平成25年12月9日更新)(宮城県公表資料)」の処分(焼却)した災害廃棄物の月ごとの種類別及び数量から処理区別炉別の焼却処理量を把握

表 4.6 仙台市の平成25年度確定値の仮設焼却炉の炉別の品目別内訳比率（案）

県・市			仙台市	仙台市	仙台市	仙台市 仮設焼却 炉平均
処理区・炉			蒲生 搬入場 キルン炉	荒浜 搬入場 キルン炉	井土 搬入場 ストーカ炉	
ごみの種類			混合 がれき	混合 がれき	混合 がれき	混合 がれき
ごみ 組成 (%)	不 燃 物	ガラス類	0.03%	0.2%	0.03%	0.1%
		陶器・石類	7.0%	12.4%	5.4%	10.0%
		金属類	0.9%	1.5%	0.9%	1.3%
	可 燃 物	ゴム・皮革類	0.04%	—	—	0.01%
		プラスチック類	13.5%	8.7%	5.4%	9.0%
		厨芥類	—	—	—	—
		木類	50.0%	57.4%	67.2%	57.9%
		紙類	5.1%	0.1%	0.1%	1.1%
	雑 物	布類	—	—	—	—
		可燃	4.1%	3.9%	4.1%	4.0%
		不燃	19.4%	15.7%	16.7%	16.6%
	計			100%	100%	100%
焼却処理量 <sup>3</sup> (トン) 平成25年度実績			13,965	43,930	13,862	

表 4.7 岩手県の平成25年度確定値の仮設焼却炉の地域別・炉別の品目別内訳比率（案）

県・市			岩手県	岩手県	県・市		釜石市	
処理区・炉			宮古区 1号炉 ストーカ炉	宮古区 2号炉 ストーカ炉	処理区・炉		釜石市 旧熔融炉 シャフト炉	
ごみの種類			混合廃 棄物	混合廃 棄物	ごみの種類		可燃ごみ	
ごみ 組成 (%)	紙・布類		4.8%	5.1%	ごみ 組成 (%)	紙類		0.0%
	ビニール・合成樹脂・ゴ ム・皮革類		5.7%	4.5%		布類		16.6%
	木・竹・わら類		84.3%	84.8%		厨芥類		0.0%
	厨芥類(動植物性残さ、 卵殻、貝殻含む)		0.0%	0.0%		木・竹・わら類		44.9%
	不燃物類		1.6%	2.3%		プラスチック類		7.4%
	その他(5mm通過)		3.7%	3.2%		金属類		3.7%
	計		100%	100%		不燃物類		2.9%
						その他(5mm通過)		13.2%
焼却処理量 <sup>4</sup> (トン) 平成25年度実績			26,115		計		100%	
					焼却処理量 <sup>6</sup> (トン) 平成25年度実績		22,304	

※岩手県宮古区の組成データは、平成24年3月実績のみであるため、平成24年3月実績で設定。

3 「一般廃棄物処理実態調査結果(平成25年度実績)(平成27年10月末時点)」から搬入場別の焼却処理量を把握

4 「一般廃棄物処理実態調査結果(平成25年度実績)(平成27年10月末時点)」から焼却炉別の焼却処理量を把握

表 4.8 福島県の平成25年度確定値の仮設焼却炉の地域別・炉別の品目別内訳比率(案)

県・市		福島県	福島県	福島県	福島県 仮設焼却 炉平均
処理区・炉		相馬市・ 新地町 1号炉 ストーカ炉	相馬市・ 新地町 2号炉 ストーカ炉	相馬市・ 新地町 3号炉 ストーカ炉	
ごみの種類		可燃 ごみ	可燃 ごみ	可燃 ごみ	可燃 ごみ
ごみ 組成 (%)	紙・布類	5.9%	4.8%	6.1%	5.7%
	ビニール・合成樹脂・ゴ ム・皮革類	8.0%	9.4%	6.9%	7.8%
	木・竹・わら類	52.1%	52.6%	63.9%	58.3%
	厨芥類(動植物性残さ、 卵殻、貝殻含む)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	不燃物類	5.8%	6.8%	6.4%	6.4%
	その他(5mm通過)	28.1%	26.4%	16.7%	21.8%
	計	100%	100%	100%	100%
焼却処理量 <sup>5</sup> (トン) 平成25年度実績		12,519	15,240	29,458	

<sup>5</sup> 「一般廃棄物処理実態調査結果(平成25年度実績)(平成27年10月末時点)」から焼却炉別の焼却処理量を把握

(3) 既設焼却炉の品目別内訳比率の設定方法及び設定値

- 平成 25 年度確定値の算出に用いた焼却施設の「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の品目別内訳比率の設定方法に準じて設定する（設定方法の詳細は表 4.9 のとおり。）

表 4.9 既設焼却施設の「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」に適用する品目別内訳比率

品目	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	粗大ごみ
木くず	34.6%	38.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金属くず	0.0%	0.2%	0.0%	10.0%	29.2%
コンクリートがら	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他がれき類	0.0%	3.0%	0.0%	17.6%	0.0%
プラスチック類	7.7%	0.0%	0.0%	31.7%	14.8%
その他可燃物	13.7%	56.7%	0.0%	36.4%	31.5%
その他不燃物	44.0%	1.9%	100.0%	4.2%	24.5%
合計	100%	100%	100%	100%	100%

(4) 品目別焼却処理量の算出方法

品目別焼却処理量は、仮設焼却炉と既設焼却炉の焼却処理量に分けて、それぞれで設定した品目別内訳比率を乗じて算出する。なお、平成 25 年度の仮設焼却炉及び既設焼却炉の焼却処理量は、一廃統計の平成 25 年度確定値から把握する。

品目別焼却処理量の算出式は、「①宮城県、仙台市、岩手県、釜石市、福島県」と「②5 縣市以外の地方公共団体」に分けて、以下のとおりとする。

① 宮城県、仙台市、岩手県、釜石市、福島県

$$\text{品目別焼却処理量} = \{ \text{当該県市の既設焼却炉の焼却処理量（合計）} \times \text{既設焼却炉の品目別内訳比率} \} + \sum \{ \text{当該県市の仮設焼却炉の炉別焼却処理量} \times \text{当該県市の仮設焼却炉の炉別品目別内訳比率} \}$$

- 当該県市の品目別焼却処理量は、当該県市の既設焼却炉の品目別焼却処理量と当該県市の仮設焼却炉の品目別焼却処理量の合計とする
- 当該県市の既設焼却炉の品目別焼却処理量は、当該県市の既設焼却炉の焼却処理量に、既設焼却炉に設定した品目別内訳比率を乗じて算出する
- 当該県市の仮設焼却炉の品目別焼却処理量は、当該県市の仮設焼却炉の炉別の焼却処理量に、仮設焼却炉に設定した炉別の品目別内訳比率を乗じて炉別の品目別焼却処理量を算出し、それを当該県市ごとに合計する

② 5 縣市以外の地方公共団体

$$\text{品目別焼却処理量} = \{ \text{当該地方公共団体の焼却処理量} \times \text{既設焼却炉の品目別内訳比率} \}$$

- 当該地方公共団体の品目別焼却処理量は、当該地方公共団体の焼却処理量に、既設焼却炉に設定した品目別内訳比率を乗じて算出する

#### 4.4. 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の品目別内訳比率 (まとめ)

以下に、平成25年度確定値算出に用いた品目別内訳比率と、平成25年度確定値算出に用いる品目別内訳比率を、適用する中間処理施設又は処理単位ごとに示す。

表 4.10 平成25年度確定値に用いた品目別内訳比率(仮設焼却施設)

自治体	ブロック/ 処理区	焼却施設	一般廃棄物 の種類	ごみ組成 (%)							
				木くず	金属くず	コンクリートがら	その他がれき類	プラスチック類	その他可燃物	その他不燃物	
宮城県 (仙台市を除く)	気仙沼	階上地区ストーカ炉 (219t/日)	可燃混合物	67.7	—	—	—	6.9	3.2	22.2	
		階上地区ロータリーキルン炉 (219t/日)	可燃混合物	59.5	—	—	—	7.2	2.3	31.0	
		小泉地区ストーカ炉 (219t/日)	可燃混合物	67.7	—	—	—	6.9	3.2	22.2	
		小泉地区ロータリーキルン炉 (109t/日)	可燃混合物	59.5	—	—	—	7.2	2.3	31.0	
	南三陸	1号焼却炉 (堅型ストーカ: 95t/日)	可燃混合物	71.9	—	—	—	5.8	4.2	18.1	
		2号焼却炉 (堅型ストーカ: 95t/日)	可燃混合物	71.9	—	—	—	5.8	4.2	18.1	
		3号焼却炉 (堅型ストーカ: 95t/日)	可燃混合物	71.9	—	—	—	5.8	4.2	18.1	
	石巻	(J-1) 1号焼却炉 (ロータリーキルン: 300t/日)	可燃混合物	51.2	—	—	—	7.5	5.6	35.6	
		(J-2) 2号焼却炉 (ロータリーキルン: 300t/日)	可燃混合物	51.2	—	—	—	7.5	5.6	35.6	
		(M-1) 3号焼却炉 (ストーカ: 300t/日)	可燃混合物	51.6	—	—	—	9.0	7.6	31.8	
		(M-2) 4号焼却炉 (ストーカ: 300t/日)	可燃混合物	51.6	—	—	—	9.0	7.6	31.8	
		(M-3) 5号焼却炉 (ストーカ: 300t/日)	可燃混合物	51.6	—	—	—	9.0	7.6	31.8	
	宮城東部	1号焼却炉 (ストーカ: 110t/日)	木くずチップ	59.5	—	—	—	2.1	2.2	36.2	
		2号焼却炉 (ロータリーキルン: 210t/日)	可燃混合物	33.0	—	—	—	12.2	8.9	45.9	
	亶理名取	名取	1号焼却炉 (ストーカ: 95t/日)	可燃混合物	45.5	—	—	—	10.1	5.4	39.0
			2号焼却炉 (ストーカ: 95t/日)	可燃混合物	45.5	—	—	—	10.1	5.4	39.0
		岩沼	1号焼却炉 (ストーカ: 50t/日)	可燃混合物	53.6	—	—	—	8.7	4.1	33.5
			2号焼却炉 (ストーカ: 50t/日)	可燃混合物	53.6	—	—	—	8.7	4.1	33.5
			3号焼却炉 (ロータリーキルン: 95t/日)	可燃混合物	53.2	—	—	—	7.9	2.6	36.3
		亶理	1号焼却炉 (チェーンストーカ: 105t/日)	可燃混合物	49.8	—	—	—	11.6	6.4	32.2
			2号焼却炉 (チェーンストーカ: 105t/日)	可燃混合物	49.8	—	—	—	11.6	6.4	32.2
			3号焼却炉 (チェーンストーカ: 105t/日)	可燃混合物	49.8	—	—	—	11.6	6.4	32.2
			4号焼却炉 (チェーンストーカ: 105t/日)	可燃混合物	49.8	—	—	—	11.6	6.4	32.2
5号焼却炉 (チェーンストーカ: 105t/日)			可燃混合物	49.8	—	—	—	11.6	6.4	32.2	
山元	1号焼却炉 (ロータリーキルン, 200t/日)	可燃混合物	64.1	—	—	—	5.6	3.6	26.8		
	2号焼却炉 (ストーカ, 100t/日)	可燃混合物	60.7	—	—	—	13.1	5.6	20.6		
岩手県	宮古区	仮設焼却炉 (ストーカ: 95t/日)	可燃物	84.6	—	—	—	5.1	5.0	5.4	
	山田町	仮設焼却炉 (ストーカ: 95t/日)	可燃物	84.6	—	—	—	5.1	5.0	5.4	
	釜石市	旧溶融炉 (シャフト: 109t/日)	可燃物	49.0	3.3	—	—	5.9	6.9	34.9	
福島県	相馬市・新地町	仮設焼却炉1号炉 (ストーカ: 150t/日)	可燃ごみ	52.1	—	—	—	8.0	5.9	33.9	
		仮設焼却炉2号炉 (ストーカ: 150t/日)	可燃ごみ	52.6	—	—	—	9.4	4.8	33.2	
		仮設焼却炉3号炉 (ストーカ: 270t/日)	可燃ごみ	63.9	—	—	—	6.9	6.1	23.1	
仙台市	蒲生搬入場	仮設焼却炉 (キルン: 90t/日)	可燃物	50.0	0.9	—	7.0	13.5	9.2	19.4	
	荒浜搬入場	仮設焼却炉 (キルン: 300t/日)	可燃物	57.4	1.5	—	12.6	8.7	4.0	15.7	
	井土搬入場	仮設焼却炉 (ストーカ: 90t/日)	可燃物	67.2	0.9	—	5.5	5.4	4.2	16.7	
仙台市平均		仮設焼却炉	可燃物	57.9	1.3	—	10.1	9.0	5.1	16.6	

※ごみ組成データの区分については、下表のとおり GHG インベントリにおける用途と一廃統計の収集区分に基づき、「木くず」「金属くず」「コンクリートがら」「その他がれき類」「プラスチック類」「その他可燃物」「その他不燃物」の合計7品目の内訳比率として設定した。

表 4.11 7品目別内訳比率の設定

7品目	ごみ組成データの区分		
	宮城県、岩手県、福島県	仙台市	釜石市
木くず	木・竹・わら類	木類	木・竹・わら類
金属くず		金属類	金属類
コンクリートがら			
その他がれき類		ガラス類、陶器・石類	
プラスチック類	ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類のうち「プラスチック類」に相当する量の割合	プラスチック類	プラスチック類
その他可燃物	紙・布類、ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類のうち「ゴム・皮革類」に相当する量の割合	ゴム・皮革類、厨芥類、紙類、布類、雑物(可燃)	厨芥類、紙類、布類
その他不燃物	不燃物類、その他(5mm通過)	雑物(不燃)	不燃物類、その他(5mm通過)

※宮城県、岩手県、福島県のごみ組成データのうち、「ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類」の割合については、仙台市のごみ組成データの「プラスチック類」及び「ゴム・皮革類」の比を用いて、「プラスチック類」及び「ゴム・皮革類」に相当する量の割合に按分した。

※宮城県、仙台市及び福島県の組成品目は、環整95号(昭和52年11月4日公布 平成2年2月1日循環22号改定)で標準として規定されている6組成に基づく。

5. (参考) 仙台市の仮設焼却炉における組成ごとの水分割合

平成25年度の仙台市の仮設焼却炉における組成ごとの水分割合は下記のとおりである。

表 5.1 仙台市の仮設焼却炉における組成品別の水分割合 (平成25年度実績)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
県・市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市	仙台市
仮置場・処理区等	蒲生搬入場	蒲生搬入場	蒲生搬入場	蒲生搬入場	蒲生搬入場	蒲生搬入場	荒浜搬入場	荒浜搬入場	荒浜搬入場	荒浜搬入場	荒浜搬入場	荒浜搬入場	井土搬入場	井土搬入場	井土搬入場	井土搬入場	井土搬入場	井土搬入場
試験採取日	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9	H25.4	H25.5	H25.6	H25.7	H25.8	H25.9
ごみの採取場所	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前	焼却前
ごみ試料の採取重量(kg)	132.90	111.48	105.91	125.64	113.60	104.05	123.16	69.45	80.13	122.59	114.00	104.05	130.04	79.65	110.26	127.54	92.93	75.72
不燃	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.1	0.4	0.4	0.5	0.0	0.0	6.7	2.1	0.0	0.0	0.0
可燃	9.7	5.8	5.8	3.8	12.0	11.7	7.2	8.4	9.4	7.6	9.9	8.4	6.9	8.0	7.9	8.6	9.7	7.1
物	0.9	1.5	4.4	0.9	5.7	2.0	2.1	2.2	2.6	8.1	1.6	0.4	0.8	2.5	0.5	3.6	0.9	2.0
水分割合 (%)	20.8	6.5	12.8	9.2	19.9	21.7	17.3	8.4	13.6	14.5	12.5	34.2	8.7	5.6	17.3	18.4	14.6	18.7
可	30.4	21.1	34.5	30.8	44.7	52.3	35.6	34.8	44.8	43.1	40.9	48.1	28.8	32.1	28.3	37.7	42.9	41.2
燃	34.8	27.6	32.1	16.7	33.3	56.2	21.6	32.2	27.8	35.3	38.5	44.1	20.1	30.9	18.4	26.7	34.9	34.9
物																		
紙類																		
布類																		
可燃	30.8	20.4	25.7	26.3	39.6	47.6	28.2	27.5	33.9	33.0	37.7	45.4	27.7	30.0	23.0	40.3	39.8	40.9
不燃	17.4	9.8	12.0	12.9	22.4	26.2	22.4	16.9	21.8	23.3	22.1	27.5	17.4	19.1	11.5	25.8	22.5	24.9

上記の水分割合を採取重量で加重平均して算出した品目別の水分割合を、他県市にも適用した。仙台市の仮設焼却炉における組成ごとの水分割合 (平成25年度実績) は以下のとおり。

表 5.2 仙台市の仮設焼却炉における水分割合 (加重平均値)

ごみの種類	加重平均値
	平成25年度
紙・布類	29.3%
ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類	12.2%
木・竹・わら類	27.4%
不燃物類	5.5%
その他 (5mm 通過)	16.3%

平成 25 年度確定値の算出に用いた産業廃棄物排出・処理状況調査及び産業分類別の副産物の発生状況に関する調査の結果詳細

1. 産業廃棄物排出・処理状況調査結果（産廃統計）の経年推移（排出量、最終処分量）

表 1 産廃統計の排出量の経年推移（H16～H25）

	排出量(単位:千t/年)											前年比 H25/H24	前年差 H25-H24
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25			
燃え殻	1,935	1,857	1,969	2,028	2,053	1,821	1,835	1,836	1,869	1,833	98.1%	-36	
汚泥	188,306	187,688	185,327	185,305	176,114	173,629	169,885	166,132	164,638	164,169	99.7%	-469	
廃油	3,310	3,471	3,406	3,610	3,617	3,048	3,251	3,118	3,212	2,912	90.6%	-301	
廃酸	2,738	2,477	5,405	5,662	2,721	2,542	2,483	2,752	2,595	2,778	107.1%	183	
廃アルカリ	2,039	2,079	2,561	2,777	2,648	1,867	2,563	1,889	1,778	2,243	126.1%	465	
廃プラスチック類	5,939	6,052	6,094	6,428	6,445	5,665	6,185	5,710	5,691	6,120	107.5%	429	
紙くず	1,756	1,748	1,664	1,466	1,383	1,265	1,153	1,118	1,020	896	87.8%	-125	
木くず	5,959	5,951	5,852	2,571	6,262	6,294	6,121	6,233	6,229	6,991	112.2%	762	
繊維くず	75	93	80	75	74	69	79	79	68	89	130.8%	21	
動物植物性残さ	3,393	3,117	3,008	3,066	3,194	2,888	2,902	2,754	2,572	2,603	101.2%	31	
動物系固形不要物	119	97	104	78	124	113	126	84	70	97	138.8%	27	
ゴムくず	47	55	48	62	41	27	32	32	34	26	75.6%	-8	
金属くず	10,039	10,947	11,004	11,461	8,766	7,830	7,246	7,242	7,267	7,815	107.5%	548	
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	5,473	4,555	4,922	5,183	6,174	5,411	6,031	6,361	6,083	6,468	106.3%	385	
鉱さい	21,192	26,186	21,288	20,715	18,440	14,109	16,006	15,493	16,398	16,761	102.2%	363	
がれき類	62,497	60,562	60,823	60,900	61,189	58,921	58,264	59,839	58,887	63,233	107.4%	4,345	
動物のふん尿	87,686	87,204	87,573	87,476	87,698	88,162	84,847	84,459	85,434	82,626	96.7%	-2,808	
動物の死体	186	196	234	197	168	161	156	172	153	125	82.0%	-28	
ばいじん	14,466	17,342	17,135	16,964	16,550	15,923	16,823	15,903	15,138	16,911	111.7%	1,773	
合計	417,156	421,677	418,497	419,425	403,661	389,746	385,988	381,206	379,137	384,696	101.5%	5,560	

出典)「産業廃棄物排出・処理状況調査」

○排出量がH24→H25で大きく増加した項目

がれき類：+4,345千t/年(H24:58,887千t/年→H25:63,233千t/年)

ばいじん：+1,773千t/年(H24:15,138千t/年→H25:16,911千t/年)

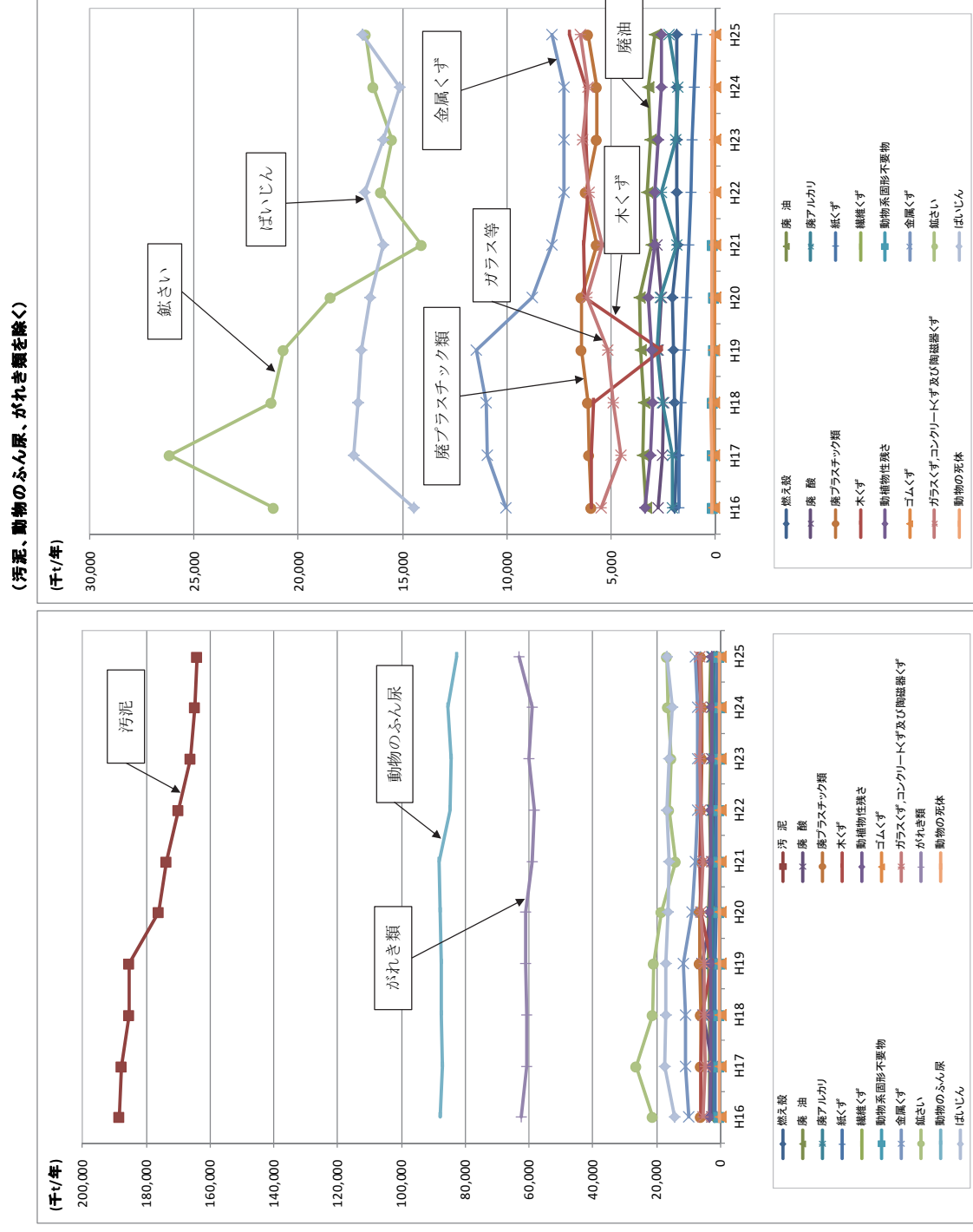
木くず：+762千t/年(H24:6,229千t/年→H25:6,991千t/年)

○排出量がH24→H25で大きく減少した項目

動物のふん尿：-2,808千t/年(H24:85,434千t/年→H25:82,626千t/年)

汚泥：-469千t/年(H24:164,638千t/年→H25:164,169千t/年)

廃油：-301千t/年(H24:3,212千t/年→H25:2,912千t/年)



出典)「産業廃棄物排出・処理状況調査」(環境省)

図 1 産廃統計の排出量の経年推移 (H16～H25)

表 2 産廃統計の最終処分量の経年推移 (H16~H25)

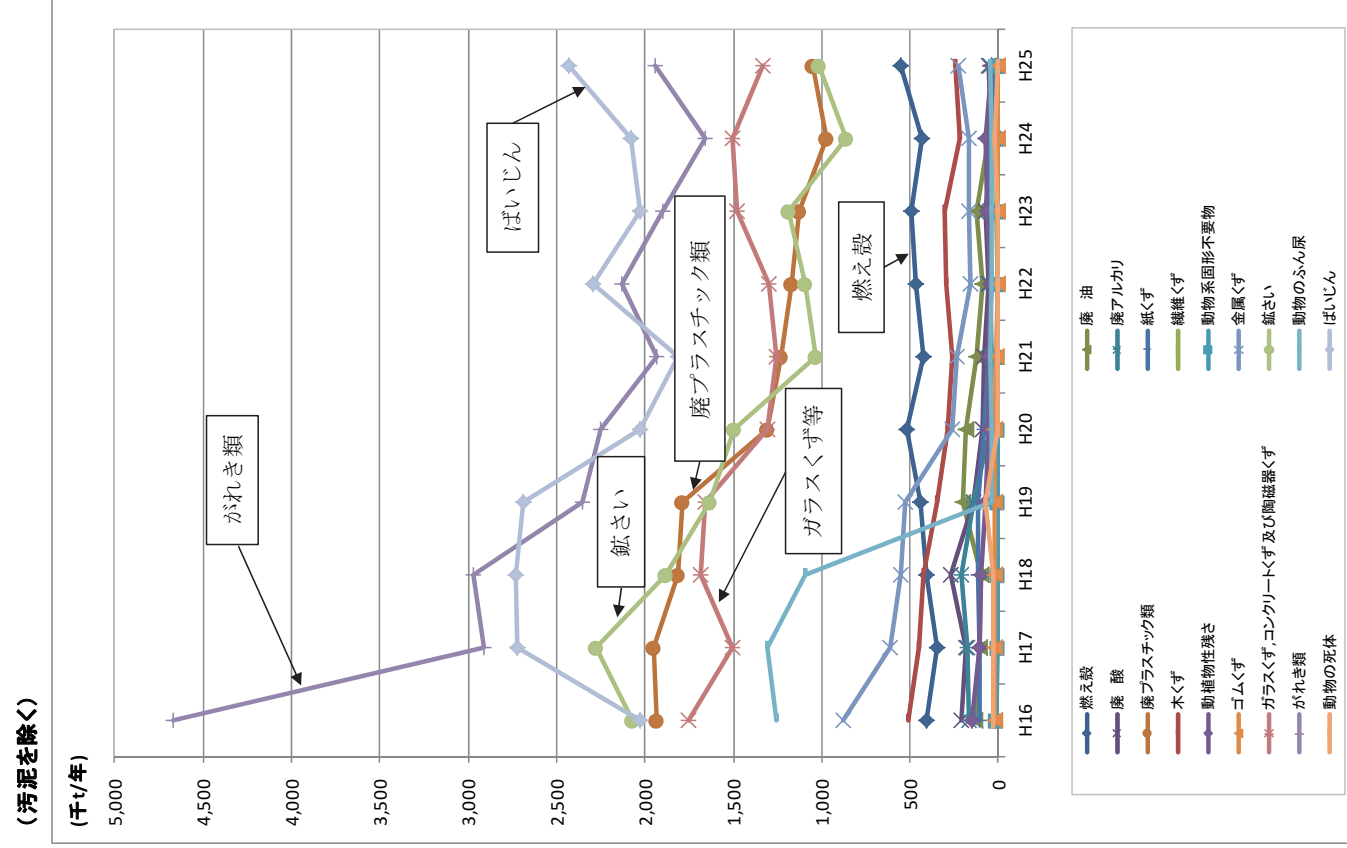
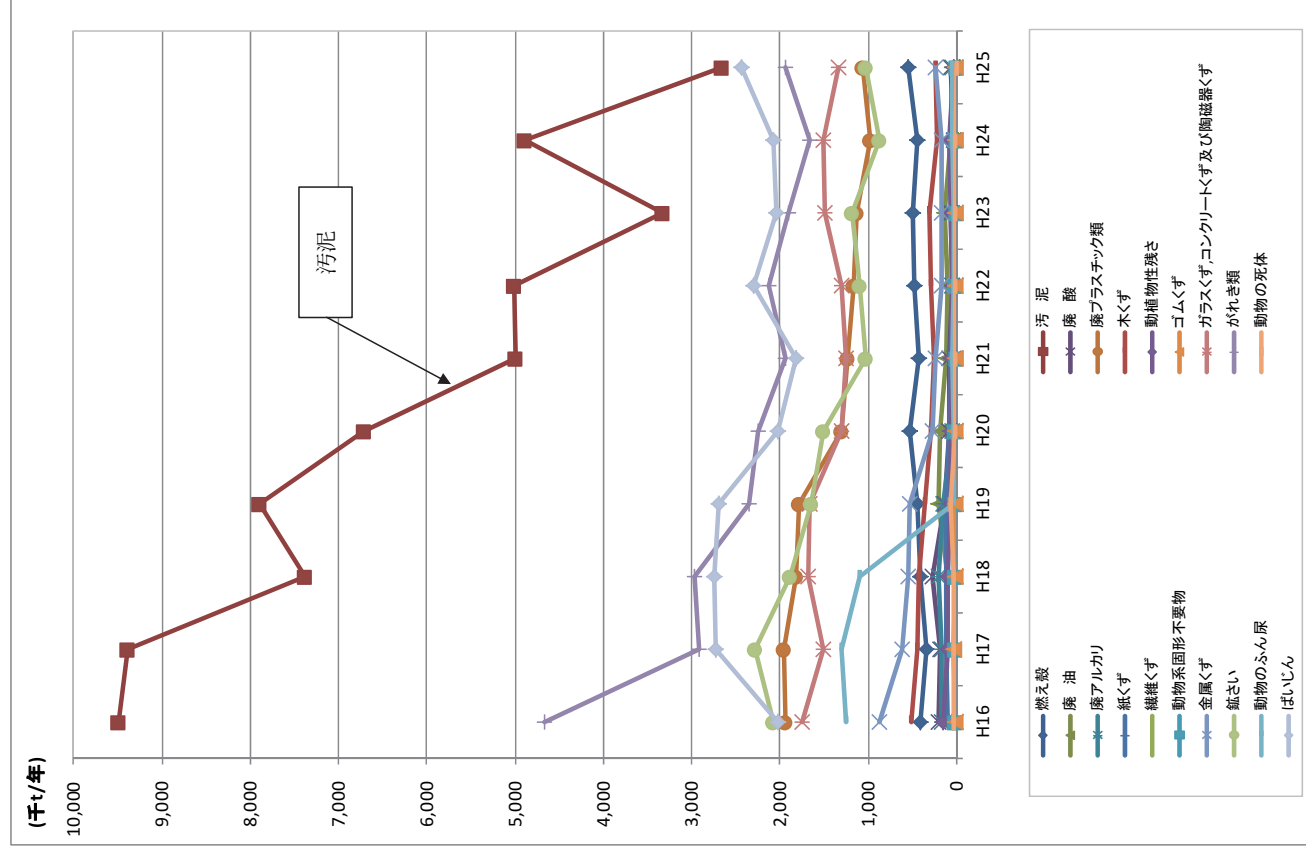
	最終処分量(単位:千t/年)											前年比 H25/H24	前年差 H25-H24
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25			
燃え殻	411	347	404	442	523	427	469	491	434	554	127.5%	120	
汚泥	9,488	9,384	7,373	7,887	6,705	4,991	5,017	3,335	4,891	2,653	54.2%	-2,239	
廃油	137	104	100	202	181	121	93	128	58	43	73.7%	-15	
廃酸	206	183	270	139	86	79	51	69	35	59	170.8%	24	
廃アルカリ	163	175	207	143	46	36	47	46	28	49	177.5%	21	
廃プラスチック類	1,929	1,955	1,816	1,789	1,305	1,230	1,167	1,125	970	1,053	108.6%	84	
紙くず	103	110	114	113	81	56	42	49	43	22	51.4%	-21	
木くず	506	446	423	350	291	257	292	300	218	241	110.6%	23	
繊維くず	17	22	19	15	11	8	8	12	8	8	98.5%	-0	
動植物性残さ	152	106	99	71	58	57	50	63	75	34	45.7%	-41	
動物系固形不要物	9	6	6	5	8	4	7	4	1	1	92.7%	-0	
ゴムくず	21	24	18	20	18	9	7	7	8	5	59.7%	-3	
金属くず	879	613	551	526	265	236	160	168	164	228	138.8%	64	
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	1,751	1,508	1,685	1,663	1,306	1,252	1,295	1,481	1,508	1,337	88.7%	-171	
鉱さい	2,073	2,278	1,886	1,636	1,498	1,033	1,090	1,186	866	1,018	117.6%	152	
がれき類	4,667	2,907	2,971	2,350	2,249	1,931	2,128	1,901	1,658	1,944	117.3%	286	
動物のふん尿	1,255	1,308	1,093	36	37	46	36	36	42	43	101.9%	1	
動物の死体	31	29	29	71	6	8	5	5	19	2	11.3%	-17	
ばいじん	2,029	2,723	2,735	2,686	2,026	1,809	2,292	2,032	2,076	2,427	116.9%	351	
合計	25,827	24,229	21,799	20,143	16,701	13,591	14,255	12,439	13,102	11,721	89.5%	-1,381	

出典)「産業廃棄物排出・処理状況調査」

○最終処分量がH24→H25で大きく減少した項目

汚泥：-2239千t/年(H24:4891千t/年→H25:2653千t/年)

(汚泥を除く)



出典)「産業廃棄物排出・処理状況調査」

図 2 産廃統計の最終処分量の経年推移 (H16~H25)



2. 産業分類別の副産物の発生状況に関する調査結果（副産物調査）の経年推移（発生量、最終処分量）

表 3 副産物調査の発生量の経年推移（H19～H25）

	発生量(単位:千t/年)						前年比 H25/H24	前年差 H25-H24
	H19	H20	H21	H22	H23	H24		
燃えがら	1,875	1,958	1,462	1,271	1,345	1,629	129.8%	485
スラッジ	20,427	20,299	15,092	17,279	15,479	13,687	117.0%	2,327
廃油	3,317	3,461	2,607	2,752	2,761	2,842	166.3%	1,884
廃酸	4,704	2,457	2,590	2,416	2,342	2,271	83.2%	-381
廃アルカリ	2,050	1,811	1,335	1,439	1,341	1,460	190.2%	1,317
廃プラスチック類	4,003	3,833	3,263	3,953	3,497	3,940	118.1%	712
紙くず	6,733	5,812	6,215	5,953	5,704	6,392	109.9%	634
木くず	3,356	2,741	2,016	2,115	2,638	2,670	113.1%	351
繊維くず	46	32	64	28	17	22	122.9%	5
動植物性残渣	3,121	4,509	4,013	4,955	4,005	3,989	103.5%	140
動物系固形不要物	160	158	56	64	169	22	104.5%	1
ゴムくず	11	19	8	10	16	7	696.4%	42
金属くず	13,590	12,686	10,261	11,690	10,880	14,556	97.5%	-369
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	2,303	4,588	6,175	4,163	4,607	6,922	167.5%	4,673
鉱さい	53,540	47,701	45,945	53,346	51,214	51,163	127.4%	14,027
がれき類	550	123	146	170	195	102	169.8%	71
動物のふん尿	1	2	3	4	4	137	15.2%	-116
動物の死体	1	1	1	1	1	1	364.6%	3
ばいじん	18,742	17,947	16,971	18,041	17,727	17,121	105.8%	988
13号廃棄物	52	28	24	80	436	79	425.2%	257
不明		36	27	52	1,076	32	3584.4%	1,115
合計	138,581	130,201	118,274	129,783	125,456	129,044	121.8%	28,167

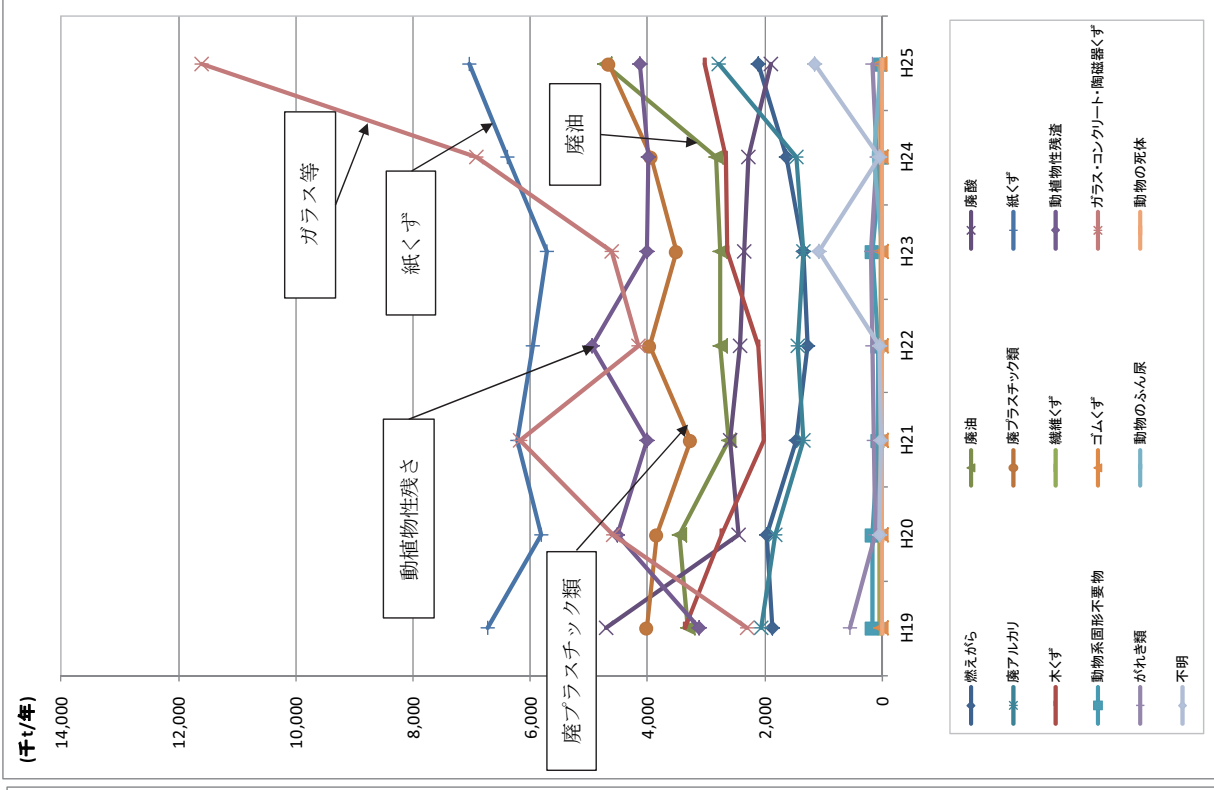
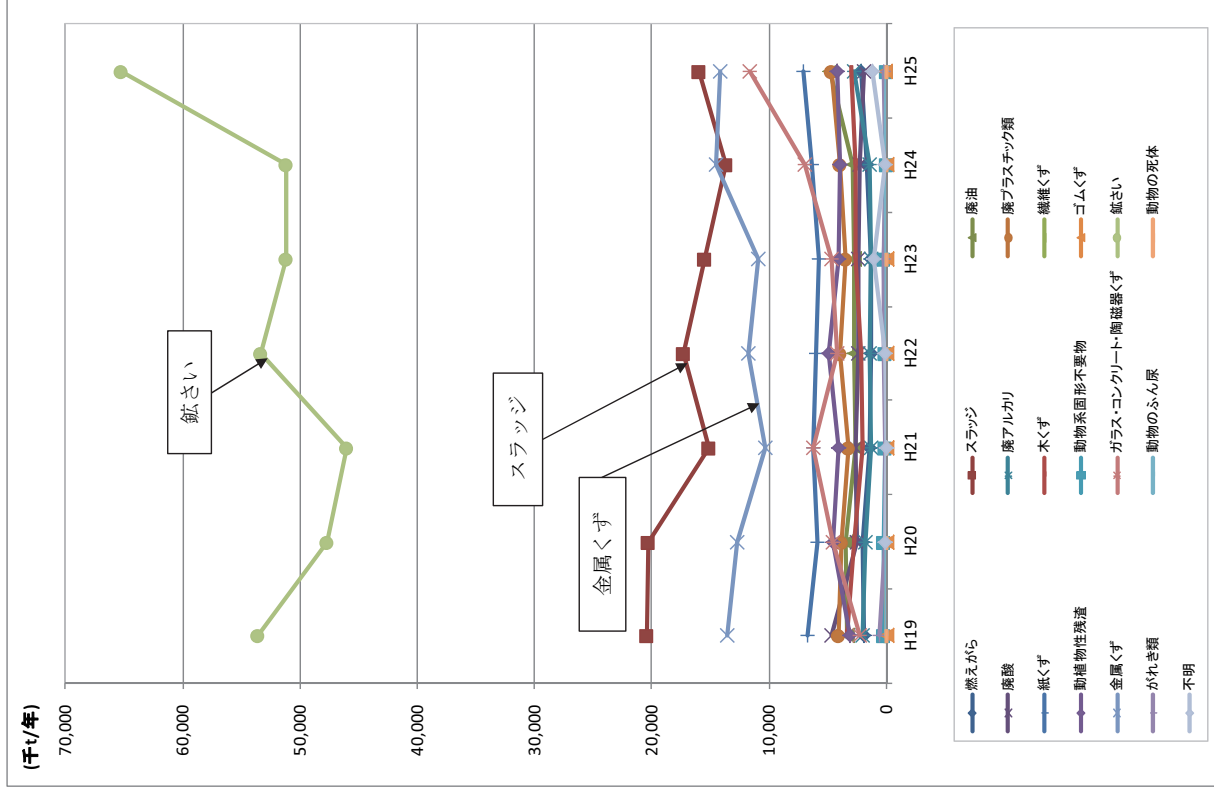
出典：「産業分類別の副産物（産業廃棄物・有価発生物）の発生状況に関する調査」（経済産業省）

○排出量がH24→H25で大きく増加した項目

鉱さい：+14,027千t/年(H24:51,163千t/年→H25:65,190千t/年)  
 ガラス等：+4,673千t/年(H24:6,922千t/年→H25:11,595千t/年)  
 スラッジ：+2,327千t/年(H24:13,687千t/年→H25:16,014千t/年)  
 廃油：+1,884千t/年(H24:2,842千t/年→H25:4,726千t/年)

※鉱さい、ガラス陶磁器、スラッジ、廃油の業種別の発生量の推移と増加要因をp.5以降に整理した。

（鉱さい、スラッジ、金属くずを除く）



出典：「産業分類別の副産物（産業廃棄物・有価発生物）の発生状況に関する調査」（経済産業省）

図 3 副産物調査の発生量の経年推移（H19～H25）

表 4 副産物調査の最終処分量の経年推移 (H19～H25)

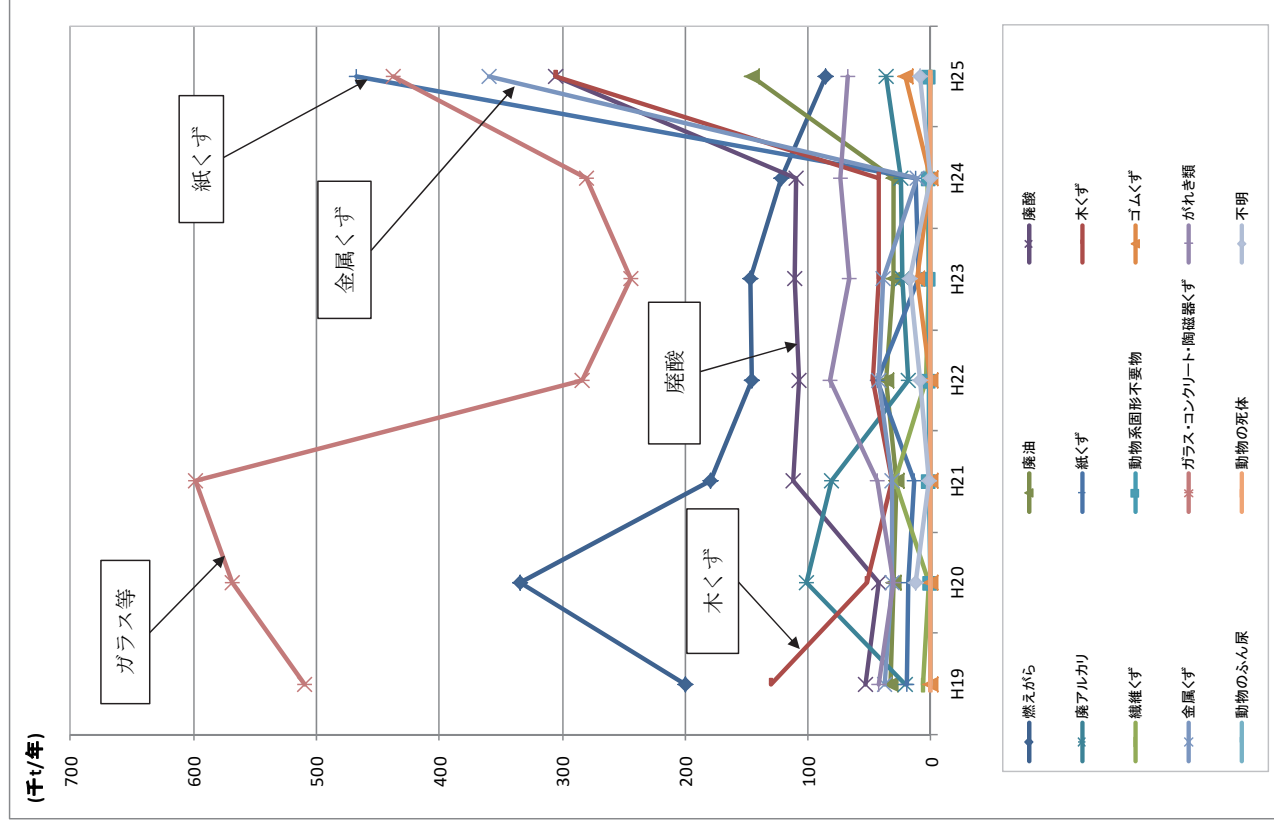
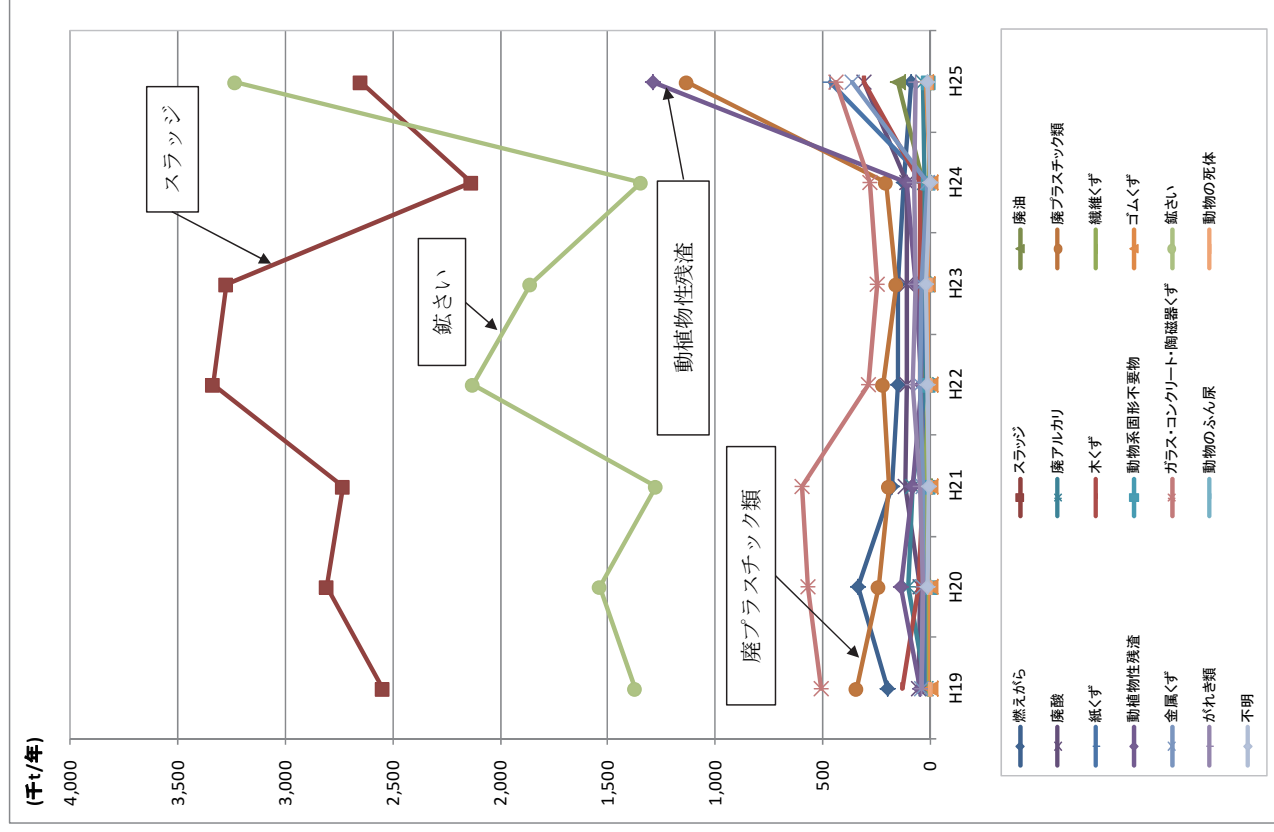
	最終処分量(単位:千t/年)							前年比 H25/H24	前年差 H25-H24
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25		
燃えがら	200	334	179	146	147	122	86	70.5%	-36
スラッジ	2,544	2,807	2,735	3,335	3,272	2,131	2,646	124.2%	515
廃油	33	30	28	36	31	31	146	471.0%	115
廃酸	54	43	112	108	111	110	306	278.2%	196
廃アルカリ	21	101	81	19	23	24	36	150.0%	12
廃プラスチック類	342	236	193	221	156	201	1,134	564.2%	933
紙くず	20	18	14	44	10	13	468	3600.0%	455
木くず	130	52	32	47	43	43	306	711.6%	263
繊維くず	6	2	29	4	2	3	1	33.3%	-2
動植物性残渣	47	135	82	38	66	106	1,292	1218.9%	1,186
動物系固形不要物	1	0	2	2	2	2	2	100.0%	0
ゴムくず	1	0	0	0	11	1	21	2100.0%	20
金属くず	38	32	32	43	39	11	360	3272.7%	349
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	509	568	599	284	244	280	438	156.4%	158
陶磁器くず	1,371	1,535	1,278	2,124	1,858	1,346	3,235	240.3%	1,889
鉱さい	42	30	44	82	67	74	68	91.9%	-6
がれき類	0	0	0	0	0	0	0	-	0
動物のふん尿	0	0	0	0	0	0	1	-	1
動物の死体	0	0	0	0	0	0	0	-	0
ばいじん	621	674	500	617	458	428	620	144.9%	192
1・3号廃棄物	23	21	17	44	36	40	38	95.0%	-2
不明	13	13	2	9	17	1	9	900.0%	8
合計	6,002	6,631	5,961	7,205	6,595	4,966	11,210	225.7%	6,244

出典：「産業分類別の副産物（産業廃棄物・有価発生物）の発生状況に関する調査」（経済産業省）

○最終処分量が H24→H25 で大きく増加した項目

- 鉱さい : +1,889 千 t/年 (H24:1,346 千 t/年→H25:3,235 千 t/年)
- 動植物性残渣 : +1,186 千 t/年 (H24:106 千 t/年→H25:1,292 千 t/年)
- 廃プラスチック類 : +933 千 t/年 (H24:201 千 t/年→H25:1,134 千 t/年)
- スラッジ : +515 千 t/年 (H24:2,131 千 t/年→H25:2,646 千 t/年)

(スラッジ、鉱さい、動植物性残渣、廃プラスチック類を除く)



出典：「産業分類別の副産物（産業廃棄物・有価発生物）の発生状況に関する調査」（経済産業省）

図 4 副産物調査の最終処分量の経年推移 (H19～H25)

3. 産業分類別の副産物の発生状況に関する調査結果（副産物調査） 平成 24→25 年度の増加の要因

表 5 副産物調査の鉱さいの業種別発生量と増加要因

業種	鉱さい 発生量(千トン)			増加要因 (副産物調査(H25実績) 報告書より)
	H24	H25	H25- H24	
食料品製造業	0	0	0	
飲料・たばこ・飼料製造業	0	0	0	
繊維工業	0	0	0	
木材・木製品製造業	0	0	0	
家具・装備品製造業	0	0	0	
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0	0	
印刷・同関連業	0	0	0	
化学工業	3	1	-2	
石油製品・石炭製品製造業	0	0	0	
プラスチック製品製造業	0	0	0	
ゴム製品製造業	0	0	0	
なめし革・同製品・毛皮製造業	0	0	0	
窯業・土石製品製造業	7	555	548	鉱さいについての特記なし 全種類合計の発生量の増加傾向として、「製品出荷量が去年度と比べて増加した」と記載あり
鉄鋼業	44,972	48,326	3,354	鉱さいについて下記の記載あり 「セメント業界が震災がれきを優先して処理したことにより鉄鋼スラグを最終処分することになったとの回答があり、このようなケースが複数あったものと考えられる」
非鉄金属製造業	5,419	10,999	5,580	鉱さいについての特記なし 全種類合計の発生量の増加傾向として、「景気の影響を受け、業界の売上高が上昇したことが大きく寄与」と記載あり
金属製品製造業	85	4,459	4,374	鉱さいについて下記の記載あり 「今年度初めて「鉱さい」を廃棄する企業が現れた」
はん用機械器具製造業	59	58	-1	
生産用機械器具製造業	92	101	9	
業務用機械器具製造業	0	0	0	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	0	0	
電気機械器具製造業	0	0	0	
情報通信機械器具製造業	0	0	0	
輸送用機械器具製造業	517	682	165	
その他の製造業	0	0	0	
電気・電子4団体分	9	7	-2	
製紙団体分	0	0	0	
電気業	0	0	0	
ガス業	0	0	0	
合計	51,163	65,190	14,027	

表 6 副産物調査のガラス陶磁器等の業種別発生量と増加要因

業種	ガラス陶磁器発生量(千トン)			増加要因 (副産物調査(H25実績) 報告書より)
	H24	H25	H25- H24	
食料品製造業	12	9	-3	
飲料・たばこ・飼料製造業	19	24	5	
繊維工業	2	2	0	
木材・木製品製造業	9	15	6	
家具・装備品製造業	4	3	-1	
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0	0	
印刷・同関連業	1	1	0	
化学工業	39	47	8	
石油製品・石炭製品製造業	1	47	46	
プラスチック製品製造業	5	4	-1	
ゴム製品製造業	0	0	0	
なめし革・同製品・毛皮製造業	0	0	0	
窯業・土石製品製造業	6,148	10,783	4,635	ガラス陶磁器についての特記なし 全種類合計の増加傾向として、「製品出荷量が去年度と比べて増加した」と記載あり
鉄鋼業	547	508	-39	
非鉄金属製造業	34	42	8	
金属製品製造業	11	14	3	
はん用機械器具製造業	6	5	-1	
生産用機械器具製造業	5	7	2	
業務用機械器具製造業	0	1	1	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	4	4	
電気機械器具製造業	0	6	6	
情報通信機械器具製造業	0	0	0	
輸送用機械器具製造業	12	17	5	
その他の製造業	23	16	-7	
電気・電子4団体分	38	35	-3	
製紙団体分	2	2	0	
電気業	2	2	0	
ガス業	0	0	0	
合計	6,922	11,595	4,673	

表 7 副産物調査の廃油の業種別発生量と増加要因

業種	廃油 発生量(千トン)			増加要因 (副産物調査(H25実績) 報告書より)
	H24	H25	H25- H24	
食料品製造業	210	234	24	
飲料・たばこ・飼料製造業	4	3	-1	
繊維工業	55	67	12	
木材・木製品製造業	3	5	2	
家具・装備品製造業	12	18	6	
パルプ・紙・紙加工品製造業	2	7	5	
印刷・同関連業	71	90	19	
化学工業	1,261	2,977	1,716	「化学工業の中で、廃油、廃アルカリの多量排出事業者は医薬品製造業に偏っており、これら事業者の回答が全体の発生量の増加に影響を及ぼした」と記載あり
石油製品・石炭製品製造業	65	122	57	
プラスチック製品製造業	150	80	-70	
ゴム製品製造業	17	15	-2	
なめし革・同製品・毛皮製造業	0	0	0	
窯業・土石製品製造業	29	87	58	
鉄鋼業	234	152	-82	
非鉄金属製造業	71	90	19	
金属製品製造業	58	64	6	
はん用機械器具製造業	98	106	8	
生産用機械器具製造業	109	116	7	
業務用機械器具製造業	3	2	-1	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	50	50	
電気機械器具製造業	0	10	10	
情報通信機械器具製造業	0	13	13	
輸送用機械器具製造業	180	239	59	
その他の製造業	71	56	-15	
電気・電子4団体分	130	118	-12	
製紙団体分	3	3	0	
電気業	4	4	0	
ガス業	0	0	0	
合計	2,842	4,726	1,884	

表 8 副産物調査のスラッジの業種別発生量と増加要因

業種	スラッジ(千トン)			増加要因 (副産物調査(H25実績) 報告書より)
	H24	H25	H25- H24	
食料品製造業	1,569	3,000	1,431	下記の記載があった。 「発生量の増加要因としては、出荷額の増加のほか、得られた回答のうち、発生量が多く、中間処理や再資源化が困難であるスラッジを多量に排出する乳製品製造業や、醤油等の調味料製造業の回答割合が高くなったことが想定される。
飲料・たばこ・飼料製造業	323	560	237	
繊維工業	85	94	9	
木材・木製品製造業	50	122	72	
家具・装備品製造業	26	17	-9	
パルプ・紙・紙加工品製造業	48	560	512	
印刷・同関連業	11	11	0	
化学工業	2,965	2,764	-201	
石油製品・石炭製品製造業	267	223	-44	
プラスチック製品製造業	21	26	5	
ゴム製品製造業	17	17	0	
なめし革・同製品・毛皮製造業	53	50	-3	
窯業・土石製品製造業	625	621	-4	
鉄鋼業	1,131	1,309	178	
非鉄金属製造業	1,159	339	-820	
金属製品製造業	403	1,259	856	
はん用機械器具製造業	80	78	-2	
生産用機械器具製造業	39	53	14	
業務用機械器具製造業	6	7	1	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	145	145	
電気機械器具製造業	0	23	23	
情報通信機械器具製造業	0	18	18	
輸送用機械器具製造業	154	253	99	
その他の製造業	790	640	-150	
電気・電子4団体分	188	182	-6	
製紙団体分	1,582	1,616	34	
電気業	2,094	2,027	-67	
ガス業	0	0	0	
合計	13,686	16,014	2,328	

## 第2回検討会資料



平成27年度 循環利用量調査改善検討会（第2回）  
議 事 次 第

日時：平成28年1月20日（水曜日） 15：00～17：00

場所：秋葉原UDXカンファレンス 6階 Room F

議題：

- (1) 第1回検討会委員指摘事項への対応について
- (2) 産業廃棄物の廃プラスチック類のガス化・油化量について
- (3) 有機性廃棄物の中間処理後最終処分量に占める焼却以外の量について
- (4) その他

※網掛けは本資料から割愛した資料である。

配布資料：

資料2-1-1 平成27年度循環利用量調査改善検討会（第1回）委員指摘事項と対応案

資料2-1-2 平成27年度循環利用量調査改善検討会 検討事項（案）

（第1回検討会資料1-1-2更新版）

資料2-1-3 循環利用量算出に利用している統計データ一覧

※第3回参考資料2-2として更新後の資料を提示

資料2-1-4 副産物調査と各種統計値との比較結果

資料2-1-5 副産物調査における発生量等の推計方法について

資料2-2 産業廃棄物の廃プラスチック類のガス化・油化量について

※第3回資料3-2-1として更新後の資料を提示

資料2-3 有機性廃棄物の中間処理後最終処分量に占める焼却以外の量について

※第3回資料3-2-2として更新後の資料を提示

参考資料2-1 平成27年度循環利用量調査改善検討会（第1回）議事録

参考資料2-2 平成27年度循環利用量調査改善検討会 実施計画





平成27年度 循環利用量調査改善検討会（第1回） 委員指摘事項と対応案

(1) 平成27年度循環利用量調査改善検討会実施計画(案)について

資料1-1-1 平成27年度循環利用量調査改善検討会 実施計画(案)  
 資料1-1-2 平成27年度循環利用量調査改善検討会 検討事項(案)

No	指摘事項	第1回検討会での回答	今後の対応案
1	資料1-1-2の表1.1の課題No.5は「有機性の産業廃棄物の埋立量を調べて欲しい」という廃棄物分科会から依頼なのか？それは埋立に伴い排出されるメタン等の量を正確に把握する必要があるということか？	(事務局) 仰る通りである。	— (第1回検討会の場で回答済)
2	資料1-1-2の表1.1の課題No.9に「廃棄物等の輸出入の把握」があるが、これは有価で取引されて、輸出入されている循環資源の量を把握するということか？興味深いのが本当に可能なのか？マテリアルフローの流れをより細かく把握することが目的か？	(事務局) 有価で取引された後、海外に輸出されて処理されるものは国内で処理される量に含めて計上されており、その辺りを精緻化したいと考えている。また廃棄物についても、今後、輸出入の量が増加すると考えており、その量を明かにすることでフローの精緻化が図れると考えている。ただし、本課題は難易度「高」と考えており、今年度は検討の方向性を示すとともに、容易なところから着手出来ればよいと考えている。  (座長) 輸出入について、出ていった先でどう処理されているのかを把握することは難しいが、単純に、出ていった量と入ってくる量を把握するというのであれば、作業量が多いが、出来なくはない。そういう意味で今年度の検討事項になっていると思う。	※発言No.17,18への対応案として示した。
3	①本検討会の目的は精緻化、迅速化の2つがあると思う。2つの目的の現時点の達成状況は、ほぼ満足できるレベルなのか、又はまだ課題があるのか。レベル感を教えて欲しい。 ②課題が残っているとした場合、全体を俯瞰してどこがネックなのかを把握した上で、課題の優先順位を考える必要がある。「循環利用量等に占める割合」が2%、8%等のものは検討しても良いと思うが、0.04%等、コンマレベルのものを精緻化していくことになるとキリがないと思う。全体を俯瞰して目標の達成状況やどの辺に穴がありそうかを把握する方法はないか？全体像を示して欲しい。	(事務局) 資料1-1-2のp.3の表2.1に、検討会の目的毎に、解決すべきと事務局が考えている大きな検討項目を示している。「Ⅱ」精度向上については、Ⅱ-i~ivのような検討項目があると考えられるが、課題はこれだけではなく、より優先度が高い課題や、課題の整理方法についてご意見があれば、取り込んでいきたい。また「Ⅲ」迅速化については現時点では課題は無いと考えている。  (座長) 難易度のところで、低中高とあるが、本検討会で何か調査を行っている訳ではなく、利用しているデータに問題がある場合、難易度「高」の一因となっている。利用しているデータに問題がある場合は「問題がある」と声を上げることまでしか出来ない。  (事務局) No.3の災害廃棄物の課題のように、割合が小さくても、期限が決まっているものや、廃棄物分科会から要請のあった課題のうち早期に解決可能なものについては優先的に検討する必要があると考える。	本検討会の目的の、現時点での達成状況の参考として、過去からの検討会の検討成果を整理し、第3回検討会にて提示する。
4	「循環利用量等に占める割合」は項目により分母が異なっているの、分子と分母が何かを明記した方がよい。	—	検討事項(案)の「循環利用量等に占める割合」の分子と分母が何かを明記し、第2回検討会に提示する。
5	以前の検討会でも整理したが、現在入手可能な統計データについて、どのようなデータを表しているのか、また、対象範囲を整理して欲しい。現在の議論では算出結果の解像度が要求についていけないことが議論になっていると思うので、今後の議論の際にはそのような資料が必要になる。	—	現在の循環利用量算出に用いている統計データの一覧及びその利用方法を整理し、第2回検討会に提示する。
6	どこかで時間をとってもらって、今後の迅速化、精緻化のあるべき姿を議論する場を設けて欲しい。	(座長) いつかそういった時間を設けていただければと思う。	第3回検討会において、循環利用量調査の課題全般に関して議論の時間を設ける。

(2) 循環利用量調査改善検討会の今年度の検討課題及び対応方針(案)について

資料1-2-1 循環利用量調査改善検討会の今年度検討課題及び対応方針(案)について  
 資料1-2-2 災害廃棄物の平成26年度速報値算出に向けた検討方針(案)について

No	指摘事項	第1回検討会での回答	今後の対応案
7	資料1-2-1のP.6の中間処理後最終処分量の推計について確認と提案をさせて頂く。最終的な目標としては、紙くずが、紙くずの状態でも最終処分場にどのくらい入っているのかを把握する、そういう理解でよいのか？	(事務局) 仰る通りである。	— (第1回検討会の場で回答済)
8	焼却された紙くずは燃えがらとばいじんが変わるということで、それ以外の破砕選別等によって最終処分場に入った紙くずはどのくらいあるのか、ということだと思うが、資料1-4の許可業者の処分実績で、各都道府県政令市からの最終処分業者が各品目ごとに埋め立て処分した実績を集計していると思うが、理論上その最終処分場の品目別の集計をとれば、紙くず、木くず、繊維くずといった形で処分実績があがってきているはずなので、それがその品目の状態で最終処分されたものであると理解できるのではないかと。一方、直接最終処分されたものは、環境省の産業廃棄物処理状況調査の中で数値が出ているので、この2つの数字を使うことで、結果が出せると思う。まとめの中でヒアリング等と書かれているが、まずは既存にあるデータから算出が可能と思う。	(事務局) 作業を進めるにあたり参考にさせて頂く。	委員の指摘を踏まえて、産廃統計と許可業者実績報告から中間処理後の最終処分量を推計する方法を検討し、第2回検討会にて報告する。また、ヒアリングを実施する場合においては対象について委員の指摘を踏まえて選定する。
9	ヒアリングについて、資料1-2-1のP.7にあるが、産業廃棄物の場合は排出事業者による処理と産業廃棄物処理業者による処理の両方がある。おそらく紙くず、木くずの最終処分については、産業廃棄物処理業者、特に中間処理業者が主体となってやられている量が多いと思うので、大規模排出業者にヒアリングしても実態がうまく分からない可能性がある。実態を把握した上でヒアリングしたほうが良い。	—	—

No	指摘事項	第1回検討会での回答	今後の対応案
10	資料1-2-1のP.9の表4.1は減量化処理量を振り分けているということか？ その場合、燃えがらで廃棄物を焼却したものが含まれていないとあるのは理解できない。また、廃酸・廃アルカリは全て中和ということになっているが、焼却施設で全部水分を飛ばしている例のほうが圧倒的に多いし、その時の減量化量がきわめて大きい。中和しても何も減らないので、減量化したとは言えないのではないのか。	(事務局) 循環利用量等の算出は過去からこういった設定でやっている。比率を見直すとともに、この設定自体の妥当性についても再検討する必要があると考える。	指摘を踏まえて、事実関係を確認する。(第3回検討会で報告予定)
11	ガラスくずや金属くずは全て再資源化量に加算したとあるが、そうすると、減量化量はどこにいくのか。減量化でよく分からないものが再資源化に回っているように見受けられるので、減量化の設定をもう一度きちんと見直さないと、根拠を問われる。		
12	プラスチックの油化等について、マテリアルフローの「産業系廃棄物」が産廃と区別がつかないということ色々検討されていると思うが、温室効果ガスの発生量として一般廃棄物と産業廃棄物に厳密に分ける必要性というはあるのか？	(事務局) 現状で、一廃のガス化・油化量は把握されているが、産廃の量が未把握ということで、産廃の量を把握する必要があると理解している。先ほど資料で説明したが、アンケートの中で一廃、産廃、等の量をわけて聞いていたので、それらを厳密に分けることは可能と考えている。	プラスチック循環利用協会が把握している量と一廃・産廃・等の関係について、同協会に確認し、一廃の量を差し引くことで、産廃の量が推計可能かどうかを検討し、結果を第2回検討会で報告する。
13	産廃で油化している量は極めて少ないはずなので、トータルでプラ協で把握している量と、一廃の量を引き算すれば、それが産廃の量とあって良いと思う。一廃を油化している所は産廃をやらないと成り立たないので、そういった推計方法も可能と考える。	(事務局) ご意見を踏まえて、検討させて頂く。	
14	今の話は、一廃のガス化・油化量が把握されているので、プラ協のデータがトータルとして把握されていることを確認して貰えば、引き算をすれば産廃分がでるのではないということである。確認願います。		
15	資料1-2-2の表1の災害廃棄物の排出量の考え方が、災害廃棄物の場合、どの段階で排出をみるかで全然違ってくる。災害が起きて家屋が半壊した段階、家屋を解体した段階、一次仮置き場から搬出する段階、二次仮置き場で処理をする段階など、いくつか段階を踏んで処理をされる。また、当該年度に出たものはすぐに処理できないので、次年度に処理される。東日本大震災の場合もそうだし、常総市の場合も来年ぐらいから処理が本格化すると思うので、その辺の捉え方を一定にする必要がある。	(事務局) 災害廃棄物の量は環境省の一廃統計を利用しているが、そちらでは対象年度に処理施設で処理された量を整理しており、循環利用量等の算出では対象年度の処理量=発生量としている。	ー(第1回検討会の場で回答済)
16	平成26年度は過去の災害廃棄物の発生量から統計的に求めるということか？	(事務局) いいえ。一廃統計の平成26年度値は、来年2月に環境省から速報値をいただく予定となっている。今回の資料は、方針を検討する上で平成26年度災害廃棄物の量が多いのか少ないのかの目安をつけたかったため、整理した。	ー(第1回検討会の場で回答済)
17	廃棄物の輸出と輸入について伺いたい。リサイクル法などの関係で家庭ごみとして集められたプラスチックなどでペレット等を作って外国に輸出するといったことは、この中に含まれるのか。また、発電事業者が外国からやしごらを輸入することも聞いているが、そういったものも検討課題の中に入るのか？	(事務局) 詳細はこれから詰めるが、基本的には処理施設に入ったものはそこでカウントされるので、処理されずに廃棄物や副産物として入ってきたものが対象になると考える。	循環利用量等における廃棄物等の輸出入量の現状の取扱いや、廃棄物の輸出入に関する関連統計の情報を整理し、今後対応を行うにあたり課題等を整理する(第3回検討会にて報告予定)。
18	電子基板のようなものがそのまま輸出される場合は、検討対象になるか？	(環境省企画課) 今の段階ではそうした論点含めて検討していきたい。廃棄物が国境を移動するという話が今問題になっていて、基本的には発生した所で処理するということだと思うが、例えば処理技術がない途上国で、日本であれば処理技術があるので移動したほうがいいのかといったことがある。そもそもフローの中で輸出入の部分がどうなっているかを精緻化したいという趣旨だと思うので、その範囲をどこまで広げられるのか、検討してから相談したい。	

### (3) 廃棄物等発生量の平成25年度の確定値の算出方法と算出結果について

資料1-3-1 廃棄物等発生量の平成25年度確定値の算出方法			
資料1-3-2 廃棄物等発生量の平成25年度確定値の算出結果			
資料1-3-3 我が国の物質フロー作成用に提供する廃棄物等の量及び温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する廃棄物等の量の平成25年度確定値の算出結果			
No	指摘事項	第1回検討会での回答	今後の対応案
19	副産物調査で鉱さいの発生量が大きく増加していることについて、推測だが、副産物調査では、年度中の発生量、処分量、リサイクル量の収支が合うようにしている。製品として加工した鉱さいがまとめて売れた場合、発生量とリサイクル量が逆転する可能性があるが、その場合、発生量を調整して収支を合わせている可能性があり、見かけ上、発生量が増える可能性がある。鉄鋼業の発生量が1割位増加していることについてはそのような要因も考えられる。可能であればリサイクル量の動きも見た方がよい。また、非鉄金属製造業からの発生量が倍増しているのは違和感がある。	(事務局) 有益な情報をいただき感謝する。	副産物調査において委員指摘のような問題が生じていないかを確認し、第2回検討会で報告する。
20	今回の結果では発生量等が相当増えている。GDPがどれだけ上がっているが分からないが、資源生産性*が悪化する可能性がある。物質フローの計算時に他の統計データと整合性をとるので、そちらの作業チームと早めに調整して、数字の妥当性を確認した方がよいと思う。鉄鋼スラグ協会のホームページをみても、ここまでの量は増加していない。 ※資源生産性=GDP/天然資源投入量	(事務局) 算出結果については、経済産業省及び産業廃棄物課に確認したが、この値で間違いはないということなので、この算出結果で進めさせていただきたいと思う。なお副産物調査の結果について、背景情報等が分かったら後日報告する。	副産物調査における鉱さいの情報と鉄鋼スラグ協会の統計との関係について整理し、第2回検討会で報告する。
21	鉄鋼スラグ協会の統計は事業者から生の数字を集めた結果なので、精度が高いと思われる。それに対して副産物調査は収支があっていないとEXCELのマクロがはじくので、値が調整された可能性がある。	(座長) 確定値の算出に関しては、これまで副産物調査の結果から求めることとしており、方法をすぐに変えることは難しい。副産物調査の結果が変わる可能性がないので、今年度についてはこの結果でいきたいと思う。また、協会統計等に関しては貴重な情報をいただいたので、今後議論できればと思う。	

No	指摘事項	第1回検討会での回答	今後の対応案
22	資料1-3-2のp.4の表3で「等」の「自然還元量」とは何を指していたか？	(事務局) 稲わら、麦わら、もみがらの農地還元を自然還元量としている。	ー (第1回検討会の場で回答済)
23	参考資料1-2のp.6の表8の食料品製造業で「多量に排出する乳製品製造業や、醤油等の調味料製造業の回答割合が高くなったことが想定される」とある。副産物調査の対象は毎年同一なのか？ 回答される割合が変動することはないのか？ 公表された数字を正しいとするしかないということは承知の上だが、利用している統計の中身が年度によって変動する要因があるということであれば、今後、そのようなことに配慮して確定値を決めていかなければいけないと思う。	<p>(事務局) 食料品製造業については業界団体に調査を行い、団体の会員に調査票が配布されている。回収率は平成24年度は40.6%、平成25年度は39.1%で、それ程変化していないが、回答する事業者が多少変わることはあり得ると思う。</p> <p>(座長) 参考資料1-2のp.6の表7の増加要因にも同様のコメントがあり気になっている。もし生データが使えるのであれば、化学工業の中で、発生量の多いグループと少ないグループに分けて、拡大推計する際に別グループで拡大推計するとこのような問題はなくなると思う。</p> <p>(座長) いくつか新たな課題が見えてきたので、速報値又は次年度の確定値の算出の際に検討することとし、H25確定値についてはこれで確定とさせていただきます。</p>	副産物調査の年度毎の調査対象事業者の状況や拡大推計の方法について確認し、第2回検討会で報告する。

(4) 環境省統計と経団連統計等を用いた産業廃棄物の最終処分量の比較結果について (報告)

資料1-4 環境省統計と経団連統計等を用いた産業廃棄物の最終処分量の平成 20~25年度値の比較結果 (報告)

No	指摘事項	第1回検討会での回答	今後の対応案
24	本件は、資料1-1-2の表1.1のNo.10として課題に含まれているが、H25値の解析を行うのか？	(事務局) 本件については例年どおり取りまとめて報告する以上のことを行う予定は無い。	ー (第1回検討会の場で回答済)
25	産廃の環境省統計で最終処分量が大きく減少していることについて、今後、環境省から何らかのコメントを発表されるのか？	(環境省産業廃棄物課) 最終処分量が減少した原因については、現在検討しており、その上で、発表内容を考えていきたい。	ー (第1回検討会の場で回答済)



## 平成27年度循環利用量調査改善検討会 検討事項(案)

## 1. 今年度の検討事項(案)と中長期的な検討事項(案)

本検討会の検討事項については、いくつかの検討項目を設けて課題を整理し、課題解決の優先順位の参考として「難易度」と「循環利用量等に占める割合」を付した。

課題は、「昨年度検討会の未解決の課題」「事務局による提案」「温室効果ガス排出量算定方法検討会廃棄物分科会からの要請」の3つの提起元(p.3の(参考)参照)から提起されたもので、課題のうち、今年度検討を行うものを「今年度の検討事項(案)」(表1.1)、課題解決に向けた新たな情報が得られた場合に検討を行うものを「中長期的な検討事項(案)」(p.2の表1.2)とした。

表 1.1 今年度の検討事項(案)

目的	検討項目(案)	No.	課題	難易度※	循環利用量等に占める割合(参考)
I) 循環利用量等の確定値・速報値の算出	i) 廃棄物等の量(確定値)の算出	1	平成25年度廃棄物等の量(確定値)の算出を行う必要がある	—	—
	ii) 廃棄物分野における温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する廃棄物等の量(速報値)の算出	2	廃棄物分野における温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する平成26年度廃棄物等の量(速報値)を算出する必要がある	—	—
	東日本大震災により発生した災害廃棄物の処理が平成23～25年度で概ね終了したことに伴い、平成26年度における災害廃棄物の循環利用量等の算出方法(品目別内訳比率の設定等)について見直しが必要である。 ※本課題は平成26年度速報値の算出に関する事項のため、速報値の算出結果を提示する第3回検討会までに結論を出す必要がある。	3	低	約0.04% 分子: 237千t/年 [災害廃棄物の発生量※] 分母: 575,885千t/年 [廃棄物等の発生量※] ※H18～H22実績の平均値	
II) 循環利用量等の精度向上	i) 産業廃棄物の中間処理プロセスの精緻化	4	温室効果ガス排出量の算出に必要な、産業廃棄物の廃プラスチック類がガス化・油化される量について過大または過小推計の可能性がある等、精度に関する問題が廃棄物分科会より指摘されている ※廃棄物分科会からの要請	中	約0.1% 分子: 128千t/年 [産業廃棄物の廃プラスチック類のガス化量・油化量(推計値)の合計※] 分母: 228,748千t/年 [廃棄物等の循環利用量※] ※H21実績値
		5	温室効果ガスの排出量の算出に必要な、有機性の産業廃棄物(紙くず、木くず、繊維くず、動物の死体)のうち中間処理後最終処分量に占める焼却以外の量について、廃棄物分科会より把握が求められている ※廃棄物分科会からの要請	高	約2% 分子: 310千t/年 [産業廃棄物(紙くず、木くず、繊維くず、動物の死体)の中間処理後最終処分量(焼却分を含む)※] 分母: 18,353千t/年 [廃棄物等の最終処分量※] ※H24実績値

(次頁に続く)

※難易度は、事務局が課題解決に必要な情報を有しているもの(又は情報入手の目途がたっているもの)については想定される作業量から「低」又は「中」を設定、事務局が情報を保有しておらず、新たに情報収集が必要なものについて「高」を設定した。

表 1.1 今年度の検討事項(案) (続き)

目的	検討項目(案)	No.	課題	難易度※	循環利用量等に占める割合(参考)
Ⅱ) 循環利用量等の精度向上	i) 産業廃棄物の中間処理プロセスの精緻化	6	産業廃棄物の減量化の処理方法別割合は廃棄物の特性等に応じて設定しており、GHG削減対策等による処理割合の変化が反映されていない。	高	現状では 未整理
	ii) 「等」の発生量の精緻化	7	製造業、電気業、ガス業からの廃棄物等の「等」の量は、副産物調査と産廃統計の差から推計しているが、両調査の調査対象等の不一致により差がマイナスになる場合があり、算出精度に課題がある。	高	約8% 分子: 47,996千t/年 [副産物調査の発生量と産廃統計の排出量の差がマイナスとなった量の合計の絶対値※] 分母: 566,280千t/年 [廃棄物等の発生量※] ※H24実績値
	iii) 経年的に一貫した算定方法の採用	8	算出方法の見直しが過去に遡って反映されておらず、過去から一貫した算出方法となっていない	中	-
	iv) 廃棄物等の輸出入量の把握	9	廃棄物等の輸出入量及び輸入量が国内の循環利用量等の算出結果に含まれており、実態が明確でない。	高	現状では 未整理
	v) その他	10	平成 25 年度の環境省統計と経団連統計等を用いた産業廃棄物の最終処分量の比較結果について取りまとめを行う	-	-

※難易度は、事務局が課題解決に必要な情報を有しているもの（又は情報入手の目途がたっているもの）については想定される作業量から「低」又は「中」を設定、事務局が情報を保有しておらず、新たに情報収集が必要なものについて「高」を設定した。

表 1.2 中長期的な検討事項(案)

目的	検討項目(案)	No.	課題	難易度※	循環利用量等に占める割合(参考)
Ⅱ) 循環利用量等の精度向上	ii) 「等」の発生量の精緻化	11	「食品循環資源の再生利用等実態調査」(農林水産省)の食品廃棄物等の量と循環利用量調査で捉えられている量に、値の桁数が異なるような差異が生じている原因が不明である。	高	0.2% 分子: 1,383千t/年 [「等」の動植物性残さの発生量※] 分母: 566,280千t/年 [廃棄物等の発生量※] ※H24実績値
	v) その他	12	産業廃棄物排出・処理状況調査の把握精度向上を目的として、産業廃棄物の多量排出事業者実施状況報告書の活用を検討する。	高	現状では 未整理
		13	産業廃棄物排出・処理状況調査の把握精度向上を目的として、産業廃棄物の許可業者実績報告の活用を検討する。	高	
		14	産業廃棄物排出・処理状況調査の把握精度向上を目的として、産業廃棄物排出・処理状況調査の調査票のデジタル化と電子マニフェストの推進を検討する。	高	

※難易度は、事務局が課題解決に必要な情報を有しているもの（又は情報入手の目途がたっているもの）については想定される作業量から「低」又は「中」を設定、事務局が情報を保有しておらず、新たに情報収集が必要なものについて「高」を設定した。

## 2. 検討項目及び検討方針(案)

今年度検討会の目的毎の検討項目(案)とその背景、検討方針(案)を表 2.1 に示す。

表 2.1 目的ごとの検討項目(案)と背景、検討方針(案)

目的	検討項目(案)	背景	検討方針(案)
Ⅰ) 循環利用量等の確定値・速報値の算出	Ⅰ-i) 廃棄物等の量(確定値)の算出	廃棄物等の量(確定値)については、例年 10~11 月までに前々年度の実績データを収集し、廃棄物等の量(確定値)の算出を行う。算出結果を検討会にて提示し、委員による確認の上、確定値とする。	廃棄物等の量の確定値の算出及び廃棄物分野における温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する廃棄物等の量(速報値)の算出を行い、算出結果について確認する。
	Ⅰ-ii) 廃棄物分野における温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する廃棄物等の量(速報値)の算出	廃棄物等の量(速報値)については、例年 2 月末までに前年度の実績データ(主に速報値)を収集し、廃棄物等の量(速報値)の算出を行う。算出結果を検討会にて提示し、委員による確認の上、速報値とする。	
Ⅱ) 循環利用量等の精度向上	Ⅱ-i) 産業廃棄物の中間処理プロセスの精緻化	産業廃棄物排出・処理状況調査(環境省)では、産業廃棄物の中間処理プロセス(焼却処理量の内訳等)に一部不明な部分があり、循環利用量調査において推計により補完しているが、固定された比率を適用している等、精緻化の余地がある。	循環利用量等の精度向上に向けて検討項目を定め、優先度の高い(発生量や循環利用量に対するインパクトが大きい、循環フローや GHG インベントリの精度向上に資するなど)課題から検討し、解決を図る。
	Ⅱ-ii) 「等」の発生量の精緻化	循環利用量調査では、一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)、産業廃棄物排出・処理状況調査(環境省)といった廃棄物統計データ以外の潜在的な廃棄物を「等」と定義し、個別製品の統計データ等を活用してその発生量を推計している。「等」の発生量の精緻化は、我が国の物質フローの精緻化や、GHG インベントリ算出精度向上(主に有償売却される廃油や廃プラスチック類などが寄与する)に資する。	
	Ⅱ-iii) 経年的に一貫した算定方法の検討	利用する統計資料等の内容に応じて循環利用量調査のデータ算定方法が過去何度か改定されているが、反映されるのは当該年度の循環利用量のみであり、過去の年度の循環利用量データには反映されていない。このため、過去の年度と直近年度の循環利用量データでは算定される数値の意味が異なっている。	
	Ⅱ-iv) 廃棄物等の輸出入量の把握	我が国では逆有償で処理されるが、海外では資源物として扱われる廃棄物等や、国内での流通価格よりも高い料金で取引される廃棄物由来の資源物等については、アジア各国における経済発展を受けて、今後、増加していく可能性がある。加えて、今後は、海外で処理が困難な廃棄物を我が国で処理する事業が進展する可能性がある。これらの実態を正確に把握しておくことは、廃棄物等の循環利用の実態を正確に把握することにつながると考える。	
	Ⅱ-v) その他	—	
Ⅲ) 循環利用量等の迅速化	—		循環利用量等の速報値の算出については、現状で課題はない。速報値の算出、確認の過程で新たに課題が発生した場合は検討事項とする。

(参考) p.1「表 1.1 今年度の検討事項(案)」, p.2「表 1.2 中長期的な検討事項(案)」

の課題提起別整理

※課題の扱い 今年度:今年度の検討事項(案), 中長期:中長期的な検討事項(案)

※表中のNo.は表 1.1、表 1.2のNo.と同一

a) 平成26年度循環利用量調査改善検討会で未解決の課題

No.	検討項目	課題の扱い	
		区分	判断理由
11	食品廃棄物等に関する循環利用量調査と食品循環資源の再生利用等実態調査等(農林水産省)との比較	中長期	現時点では課題解決に向けた新たな情報が得られておらず、中長期的課題として整理する。
4	産業廃棄物の廃プラスチック類のガス化・油化量の把握精度向上	今年度	プラスチック循環利用協会にヒアリングを行った結果より、廃棄物分科会から指摘された課題の一部は解決の可能性があるかと判断した。
12	産業廃棄物の多量排出事業者実施状況報告書の活用	中長期	産業廃棄物課にて検討を進めるとされており、中長期的課題として整理する。
13	産業廃棄物の許可業者実績報告の活用	中長期	
14	産業廃棄物排出・処理状況調査の調査票のデジタル化と電子マニフェストの推進	中長期	

b) 事務局による提案

No.	検討項目	課題の扱い	
		区分	判断理由
3	平成26年度速報値における災害廃棄物の循環利用量等の算出方法について	今年度	平成26年度災害廃棄物の循環利用量等の速報値算出にあたり、検討が必要である。
6	産業廃棄物の減量化の処理方法別割合は廃棄物の特性等に応じて設定しており、GHG削減対策等による処理割合の変化が反映されていない。	今年度	新たな課題として今年度検討を行う。
7	製造業、電気業、ガス業からの廃棄物等の「等」の量は、副産物調査と産廃統計の差から推計しているが、両調査の調査対象等の不一致により差がマイナスになる場合があり、算出精度に課題がある。	今年度	新たな課題として今年度検討を行う。
8	算出方法の見直しが過去に遡って反映されておらず、過去から一貫した算出方法となっていない	今年度	新たな課題として今年度検討を行う。
9	廃棄物等の輸出货量及び輸入量が国内の循環利用量等の算出結果に含まれており、実態が明確でない。	今年度	新たな課題として今年度検討を行う。

c) 温室効果ガス排出量算定方法検討会廃棄物分科会からの要請

No.	検討項目	課題の扱い	
		区分	判断理由
4	産業廃棄物の廃プラスチック類のガス化・油化量の把握精度向上 (廃棄物分科会指摘:産廃中の廃プラ類がガス化・油化された後に利用される温室効果ガス排出量が未推計である)	今年度	プラスチック循環利用協会にヒアリングを行った結果より、廃棄物分科会から指摘された課題の一部は解決の可能性があるかと判断した。
5	有機性の産業廃棄物の中間処理後最終処分量に占める焼却以外の量の内訳 (廃棄物分科会指摘:処理後最終処分された有機性汚泥及び中間処理残渣が活動量の把握対象から漏れている)	今年度	新たな課題として今年度検討を行う。



## 副産物調査と各種統計値との比較結果

## 1. 第1回検討会における委員指摘事項

第1回循環利用量調査改善検討会において、委員より下記の指摘があった。

## 【第1回検討会における委員指摘事項】

（「産業分類別の副産物（廃棄産業分類別の副産物・有価発生物）の発生状況に関する調査」の平成24～25年度の鉄鋼業からの鉱さいの発生量の推移について）鉄鋼スラグ協会の統計を見ると、平成25年度は多少増えているが、これほどは増えていない。確認して欲しい。

この指摘を受け、経済産業省が実施する「産業分類別の副産物（廃棄産業分類別の副産物・有価発生物）の発生状況に関する調査」（以下「副産物調査」と言う）における鉄鋼業からの鉱さいの発生量のうち、鉄鋼スラグの発生量について、鉄鋼スラグ協会が公表している「鉄鋼スラグ統計」の鉄鋼スラグ（高炉スラグ＋製鋼スラグ）の生産量との比較を行った。

また、関連して副産物調査の非鉄金属製造業からの鉱さいの発生量と、経済産業省の生産動態統計における非鉄金属製造業の原材料（鉱物）の消費量の推移の比較を行った。

表 1.1 副産物調査における鉱さいの業種別発生量の推移と増加要因

業種	鉱さい 発生量(千トン)			増加要因 (副産物調査(H25実績)報告書より)
	H24	H25	H25- H24	
食料品製造業	0	0	0	
飲料・たばこ・飼料製造業	0	0	0	
繊維工業	0	0	0	
木材・木製品製造業	0	0	0	
家具・装備品製造業	0	0	0	
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0	0	
印刷・同関連業	0	0	0	
化学工業	3	1	-2	
石油製品・石炭製品製造業	0	0	0	
プラスチック製品製造業	0	0	0	
ゴム製品製造業	0	0	0	
なめし革・同製品・毛皮製造業	0	0	0	
窯業・土石製品製造業	7	555	548	鉱さいについての特記なし 全種類合計の発生量の増加傾向として、「製品出荷量が去年度と比べて増加した」と記載あり
鉄鋼業	44,972	48,326	3,354	鉱さいについて下記の記載あり 「セメント業界が震災がれきを優先して処理したことにより鉄鋼スラグを最終処分することになったとの回答があり、このようなケースが複数あったものと考えられる」
非鉄金属製造業	5,419	10,999	5,580	鉱さいについての特記なし 全種類合計の発生量の増加傾向として、「景気の影響を受け、業界の売上高が上昇したことが大きく寄与」と記載あり
金属製品製造業	85	4,459	4,374	鉱さいについて下記の記載あり 「今年度初めて「鉱さい」を廃棄する企業が現れた」
はん用機械器具製造業	59	58	-1	
生産用機械器具製造業	92	101	9	
業務用機械器具製造業	0	0	0	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	0	0	
電気機械器具製造業	0	0	0	
情報通信機械器具製造業	0	0	0	
輸送用機械器具製造業	517	682	165	
その他の製造業	0	0	0	
電気・電子4団体分	9	7	-2	
製紙団体分	0	0	0	
電気業	0	0	0	
ガス業	0	0	0	
合計	51,163	65,190	14,027	

## 2. 経産省副産物調査と鉄鋼スラグ統計の調査内容比較

副産物調査と鉄鋼スラグ統計の値を比較するにあたり、両調査の調査方法や値の定義について、以下に整理した。

表 2.1 副産物調査と鉄鋼スラグ統計の調査方法等の整理

	副産物調査	鉄鋼スラグ統計(鉄鋼スラグ協会)	差異等
調査方法	<p>○製造業、ガス業、電気業の事業所を対象に、以下の2通りのルートで調査を行う。</p> <p>1) 団体経由の調査(H25実績:37団体) 主要産業団体経由で会員企業の各事業所にアンケート調査を実施</p> <p>2) 直接調査(H25実績:2,027件) 団体経由調査では十分に調査できない業種については、当該業種の属する企業(事業所)に対して直接調査を実施。さらに、団体経由調査ではカバー率の低い業種については、事業所を抽出し、直接調査を実施。</p> <p>○「工業統計調査」の「製造品出荷額等」等を指標として、業種全体の量を拡大推計する。</p> <p>※鉄鋼業については、上記「1)団体経由の調査」の方法で調査を行っている。</p>	<p>協会の会員に、一部の非会員会社を含めて、数量の報告を受け、その結果を積み上げている。</p> <p>なお、調査では、一部、小さな電気炉会社から報告を受けていないが、恐らく日本全体の99.9%以上はカバーしていると考えられる。</p> <p>(協会への問合せ結果より)</p>	<p>副産物調査は団体への調査結果を拡大推計、鉄鋼スラグ統計は協会会員＋一部非会員から収集した量の積み上げとなっている。</p>
調査対象となる団体等	<p>※調査対象業界団体一覧より鉄鋼業のみを抽出</p> <p><b>(一社)日本鐵鋼連盟</b>、日本フェロアロイ協会、日本鋳業協会</p>	<p>※協会加盟会社・団体(鉄鋼スラグ協会HPより)</p> <p>エスメント関東株式会社、エスメント中部株式会社、協材砕石株式会社、株式会社神戸製鋼所、神鋼スラグ製品株式会社、新日鐵住金株式会社、JFEスチール株式会社、JFEMiネラル株式会社、清新産業株式会社、株式会社テツゲン、株式会社デイ・シイ、東方金属株式会社、株式会社中山製鋼所、日清鋼業株式会社、日新製鋼株式会社、日鉄住金高炉セメント株式会社、日鉄住金スラグ製品株式会社、日鉄住金セメント株式会社、日本磁力選鉱株式会社、濱田重工株式会社、普通鋼電炉工業会、<b>(一社)日本鐵鋼連盟</b></p>	<p>(一社)日本鐵鋼連盟(太字部分)以外の対象は異なっている。</p>

出典：副産物調査：「産業分類別の副産物（産業廃棄物・有価発生物）の発生状況等に関する調査（平成25年度実績）報告書」（平成27年3月・(株)三菱総合研究所）より。  
鉄鋼スラグ統計：調査方法は鉄鋼スラグ協会への問合せ結果、加盟会社・団体は鉄鋼スラグ協会HPより。

比較をする副産物調査の「発生量」と、鉄鋼スラグ統計の「生産量」の定義を以下に整理した。

表 2.2 副産物調査の発生量、鉄鋼スラグ統計の製造業の定義等

調査	項目	定義等
副産物調査 (経済産業省)	発生量	発生量とは、製造工程で、産業廃棄物・有価発生物が生じた時点(中間処理を行う前)の量をいう(事業所外に排出・出荷する時点の量ではない)。
鉄鋼スラグ統計 (鉄鋼スラグ協会)	生産量	生産量は生成したスラグを販売可能な状態にした数量。なお、高炉水砕スラグは高炉から生成後に水を吹きかけ、砂状にするため、その水の重さ分、生産量は生成量より大きくなる。

### 3. 副産物調査における鉄鋼業からの鉄鋼スラグの発生量と鉄鋼スラグ統計における鉄鋼スラグの生産量の推移の比較結果

副産物調査における鉄鋼業からの鉄鋼スラグ発生量と、鉄鋼スラグ統計における鉄鋼スラグ生産量の推移を以下に整理した。

副産物調査の発生量と鉄鋼スラグ統計の生産量をH20～H25実績について比較すると（表3.1の下段参照）、両者の差の-1,198～3,069千t/年（副産物調査の発生量に対する差の割合は-3～7%）となっており、平成22年度以外は副産物調査の発生量が鉄鋼スラグ統計より数%高い値となっていたが、推移の傾向には大きな差は見られなかった。

表 3.1 副産物調査における鉄鋼業からの鉄鋼スラグの発生量と鉄鋼スラグ統計における鉄鋼スラグ生産量の推移

	単位：千t/年					
	H20	H21	H22	H23	H24	H25
①副産物調査（鉄鋼業からの鉄鋼スラグ発生量）	38,410	35,491	38,242	40,346	40,672	42,737
②鉄鋼スラグ協会・鉄鋼スラグ生産量	36,842	33,856	39,440	38,370	38,401	39,668
①副産物調査と②協会生産量との差	1,568	1,635	-1,198	1,976	2,271	3,069
1 - (②協会生産量 / ①副産物調査)	4%	5%	-3%	5%	6%	7%

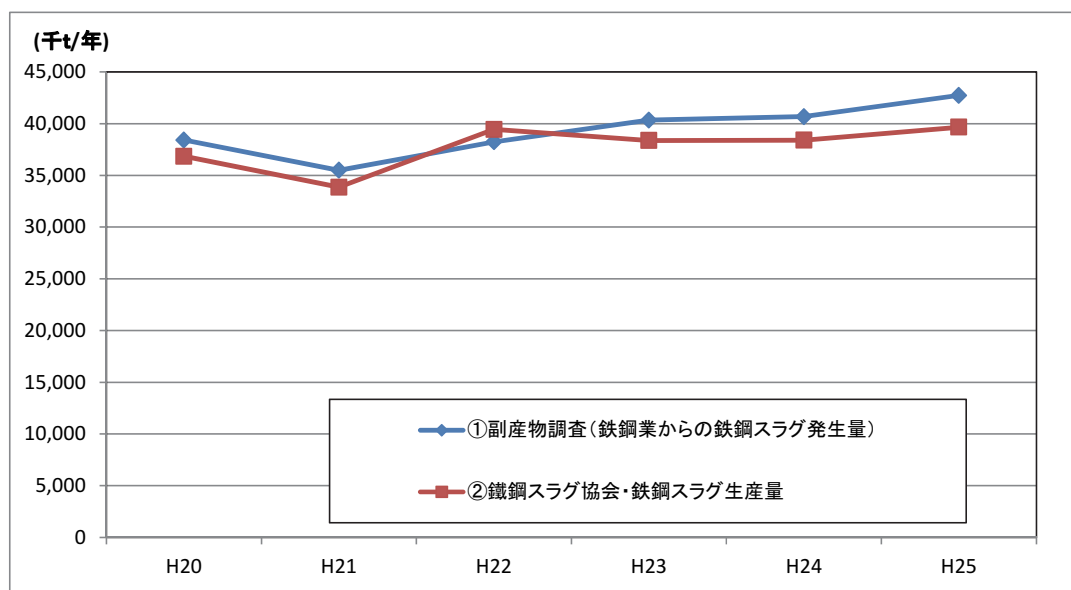


図 3.1 経産省副産物調査における鉄鋼業からの鉄鋼スラグ発生量と鉄鋼スラグ統計における鉄鋼スラグ生産量の推移

#### 4. 副産物調査における非鉄金属製造業からの鉱さいの発生量と生産動態統計における非鉄金属製造業における原材料（鉱物）の消費量の推移の比較結果

副産物調査における非鉄金属製造業からの鉱さいの発生量と、経済産業省生産動態統計の非鉄金属製造業における原材料（鉱物資源）の消費量の推移を以下に整理した。

副産物調査の非鉄金属製造業からの鉱さいの発生量がH20～H24で徐々に増加しつつ、H24～H25で約2倍に増加したのに対して、生産動態統計における原材料の消費量はH20～H25の間では、8,640～9,796千t/年と9,000千t/年前後の値で推移しており、特にH24～H25において両者の推移は整合しなかった。

表 4.1 副産物調査における非鉄金属製造業からの鉱さいの発生量の推移と生産動態統計における非鉄金属製造業における原材料（鉱物資源）の消費量の推移

	単位：千t/年					
	H20	H21	H22	H23	H24	H25
副産物調査：非鉄金属製造業からの鉱さい発生量	4,566	4,911	5,092	5,236	5,419	10,999
生産動態統計：非鉄金属製造業における原材料（鉱物資源）の消費量※	9,796	9,002	9,723	8,640	9,593	9,425

※粗銅用、電気銅用、粗鉛用、電気鉛用、亜鉛用の合計(乾燥ベース)

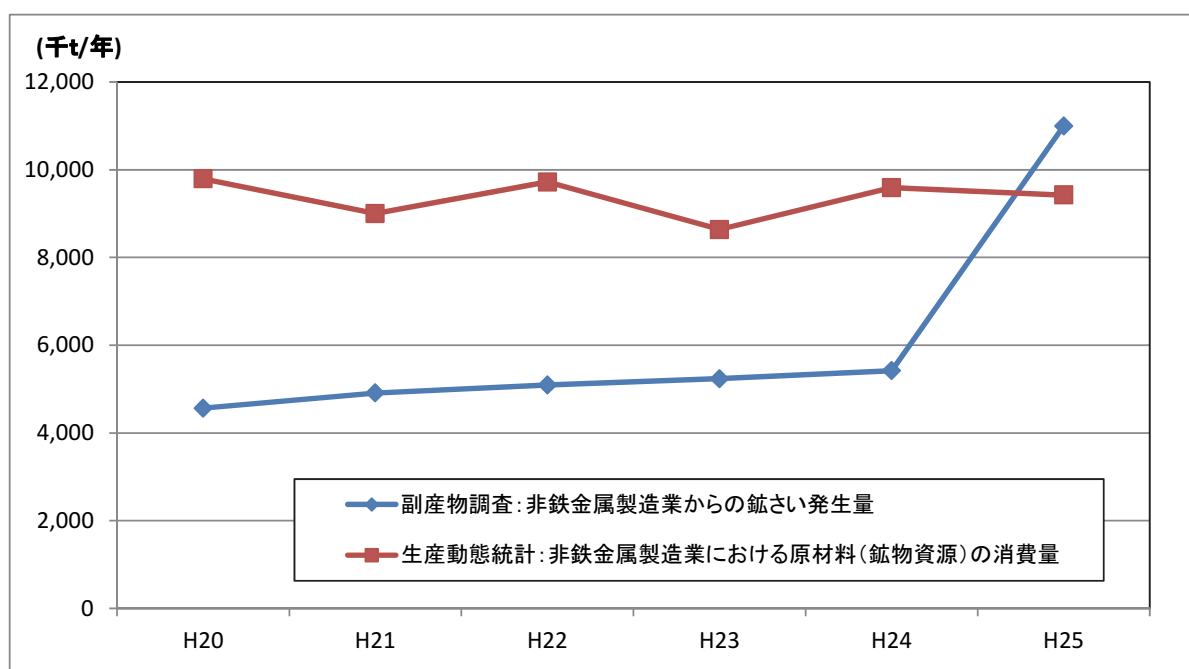


図 4.1 副産物調査における非鉄金属製造業からの鉱さいの発生量の推移と生産動態統計における非鉄金属製造業における原材料（鉱物資源）の消費量の推移

## 副産物調査における発生量等の推計方法について

### 1. 第1回検討会における委員指摘事項

第1回循環利用量調査改善検討会において、経済産業省が実施する「産業分類別の副産物（廃棄産業分類別の副産物・有価発生物）の発生状況に関する調査」（以下「副産物調査」と言う）の推計方法について、委員より下記の指摘があった。

#### 【第1回検討会における委員指摘事項】

- ①副産物調査で鉱さいの発生量が大きく増加していることに関して、製品として加工した鉱さいがまとめて売れた場合、発生量とリサイクル量が逆転する可能性があるが、その場合、副産物調査では発生量を調整して収支を合わせている可能性があり、見かけ上、発生量が増える可能性がある。
- ②参考資料1-2の表8の食料品製造業で「多量に排出する乳製品製造業や、醤油等の調味料製造業の回答割合が高くなったことが想定される」とある。副産物調査の対象は毎年同一なのか？ 回答される割合が変動することはないのか？  
(第1回検討会の参考資料1-2の表8は本資料P.2の「参考1」に掲載)

### 2. 副産物調査の推計方法に関する確認結果

委員発言に関して、「産業分類別の副産物（産業廃棄物・有価発生物）の発生状況に関する調査（平成25年度実績）報告書」（平成27年3月・経済産業省）（以下「報告書」と呼ぶ）及び経済産業省担当官に、以下のとおり確認した。

#### 2.1. 委員指摘①についての確認結果

- ・副産物調査では、発生量と、自社中間処理対象量、直接中間処理委託量、直接再資源化物量、直接処分量の合計が一致しない場合は、自社中間処理対象量、直接中間処理委託量、直接再資源化物量、直接処分量の合計を発生量としている（本資料P.3の「参考2」参照）。
- ・ただし、再資源化量については、調査票の記入要領において『再資源化量には、「再生資源として利用できる状態にした上での自社保管」を含み、その時点で再資源化が完了しているものと見なします。』とあり「製品として加工した鉱さいがまとめて売れた場合、発生量とリサイクル量が逆転する可能性がある」ということは、鉱さいを製品として加工した段階で再資源化量として計上されることから、基本的に起こりえないと思われる。

#### 2.2. 委員指摘②についての確認結果

- ・副産物調査は団体調査の場合、必ずしも全ての団体会員の事業者から回答がある訳ではなく、年度毎に回答事業者が異なる場合がある。
- ・調査結果の精度を確保するために、拡大推計等で配慮されている事項は特にない。

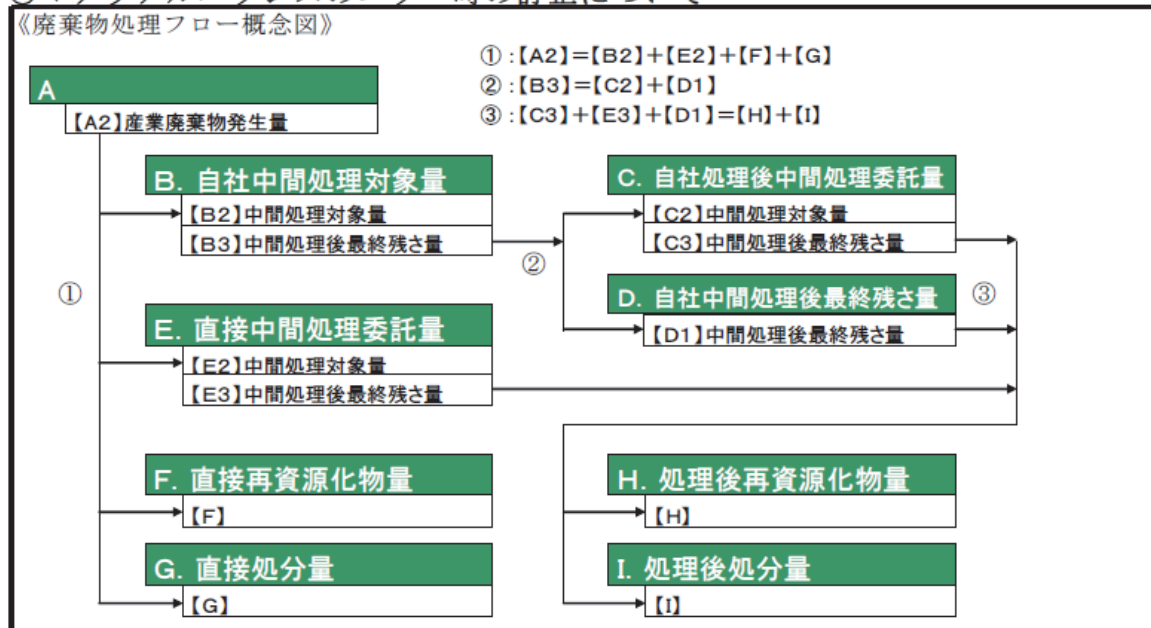
(参考1) 第1回検討会参考資料1-2「表8 副産物調査の廃油の業種別発生量と増加要因」

業種	スラッジ(千トン)			増加要因 (副産物調査(H25実績)報告書より)
	H24	H25	H25- H24	
食料品製造業	1,569	3,000	1,431	下記の記載があった。 「発生量の増加要因としては、出荷額の増加のほか、 得られた回答のうち、発生量が多く、中間処理や再資源化が困難であるスラッジを多量に排出する乳製品製造業や、醤油等の調味料製造業の回答割合が高くなったことが想定される。
飲料・たばこ・飼料製造業	323	560	237	
繊維工業	85	94	9	
木材・木製品製造業	50	122	72	
家具・装備品製造業	26	17	-9	
パルプ・紙・紙加工品製造業	48	560	512	
印刷・同関連業	11	11	0	
化学工業	2,965	2,764	-201	
石油製品・石炭製品製造業	267	223	-44	
プラスチック製品製造業	21	26	5	
ゴム製品製造業	17	17	0	
なめし革・同製品・毛皮製造業	53	50	-3	
窯業・土石製品製造業	625	621	-4	
鉄鋼業	1,131	1,309	178	
非鉄金属製造業	1,159	339	-820	
金属製品製造業	403	1,259	856	
はん用機械器具製造業	80	78	-2	
生産用機械器具製造業	39	53	14	
業務用機械器具製造業	6	7	1	
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	145	145	
電気機械器具製造業	0	23	23	
情報通信機械器具製造業	0	18	18	
輸送用機械器具製造業	154	253	99	
その他の製造業	790	640	-150	
電気・電子4団体分	188	182	-6	
製紙団体分	1,582	1,616	34	
電気業	2,094	2,027	-67	
ガス業	0	0	0	
合計	13,686	16,014	2,328	

(参考2) 副産物調査 マテリアルバランスの訂正について

(「産業分類別の副産物(産業廃棄物・有価発生物)の発生状況に関する調査(平成25年度実績)報告書」(平成27年3月・経済産業省)より)

○マテリアルバランスのエラー時の訂正について



1. ①がエラー

- ・  $A2 < (B2 + E2 + F + G)$  の時  
 $B2 + E2 + F = A2$  かつ  $F = G$  の時  
 → G は空白 (同一値記入対応)  
 上記以外  
 →  $A2 = B2 + E2 + F + G$
- ・  $A2 > (B2 + E2 + F + G)$  の時  
 $B2 < B3 \rightarrow B2 = B3$   
 $E2 < E3 \rightarrow E2 = E3$   
 直接・中間の間違いを交換  
 Gで差分調整





## 平成27年度循環利用量調査改善検討会 実施計画

### 1. 目的

「廃棄物等循環利用量実態調査」（以下、循環利用量調査）では、既存の統計資料を収集し、それらを基に、一般廃棄物、産業廃棄物及び廃棄物統計データ以外の潜在的な副産物（廃棄物等の「等」と呼ぶ）を対象として、廃棄物等の種類別の排出量、循環利用量、最終処分量等の推計を行っている。同調査結果は、循環型社会形成推進基本計画に示されたわが国の物質フローの算出に用いられるとともに、同計画における指標の進捗状況の把握に活用されている。また、わが国の温室効果ガス排出インベントリのうち、廃棄物分野の排出量算定のための活動量データとしても用いられている。

現在の循環利用量等の算出結果には、産業廃棄物の中間処理プロセス等に関して未把握の量があること、廃棄物等の「等」の算出精度に精緻化の余地があること等の課題があり、温室効果ガス排出量算定方法検討会廃棄物分科会からも、温室効果ガス排出量算定の観点からいくつかの課題が指摘されている。また、東日本大震災により生じた災害廃棄物について平成26年度以降、処理量が大幅に減少することから、平成26年度の循環利用量等速報値の算出では、震災による災害廃棄物を主に想定した循環利用量等算出方法の見直しが必要となっている。

本検討会では、循環利用量調査が抱えるこれらの課題について検討を行い、調査の改善を図ることで、循環利用量等の算出精度を向上することを目的として、今年度検討会を開催する。

## 2. 検討会委員名簿

今年度の検討会のメンバーは以下のとおりである。

(委員)

座長 松本 亨 北九州市立大学 国際環境工学部 教授

梶原 浩之 北九州市 環境局 循環社会推進部 循環社会推進課長

近藤 康之 早稲田大学 政治経済学術院 教授

立尾 浩一 一般財団法人 日本環境衛生センター  
東日本支局 環境工学部 調査課 課長

田邊 貞幸 五洋建設株式会社 東京土木支店（兼）東京建築支店  
安全品質環境部担当部長

谷川 昇 公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター 調査部長

塚田 泰久 東京都環境局資源循環推進部計画課 統括課長代理（計画係長）

橋本 征二 立命館大学 理工学部 環境システム工学科 教授

半場 雅志 一般社団法人 プラスチック循環利用協会 調査研究部長

古山 輝夫 新日鐵住金株式会社 環境部 環境技術室 主幹

細川 浩之 一般社団法人 セメント協会 生産・環境部門 リーダー

※敬称略、五十音順（座長除く）

### 3. 平成27年度全体スケジュール

年	月	検討会	一般廃棄物統計	産業廃棄物統計	副産物調査等の統計	廃棄物等循環利用量実態調査	わが国の物質フロー/温室効果ガスインベントリ
平成27年	3		H25実績値				
	~						
	10			H25実績値 (10/31)			
	11				H25実績統計データの入手(11/4)		
	12	<b>■第1回検討会</b> 日時:12/2(水) 15~17時 場所:フクラシア東京ステーション6階 G会議室 議題: ・平成27年度検討会実施計画(案) ・検討課題及び対応方針(案) ・H25確定値の算出方法と算出結果 ・環境省統計と経団連統計等を用いた産廃最終処分量の比較結果(報告)					平成25年度わが国の物質フロー
平成28年	1	<b>■第2回検討会</b> 日時:1/20(水) 15~17時 場所:秋葉原UDXカンファレンス6階 RoomF 議題: ・平成26年度速報値の算出にあたって必要となる関連統計の入手状況等 ・災害廃棄物の循環利用量等のH26速報値の算出方法案 ・その他の検討課題(第1回検討会の議論を踏まえて提示)					
	2		H26速報値 (2/25)	H26速報値 (2/25)	H26実績統計データ(一部速報値)の入手 (2/25)		
	3	<b>■第3回検討会</b> 日時:3/15(水) 15~17時 場所:秋葉原UDXカンファレンス6階 RoomF 議題: ・平成26年度速報値の算出方法と算出結果 ・平成26年度循環利用量調査改善検討会報告書(案) ・その他の検討課題(第1回、第2回検討会の議論を踏まえて提示)					平成26年度温室効果ガスインベントリ



## 第3回検討会資料



平成 27 年度 循環利用量調査改善検討会（第 3 回）  
議 事 次 第（案）

日時：平成 28 年 3 月 15 日（火曜日） 15：00～17：00

場所：秋葉原 UDX カンファレンス 6 階 Room F

議題：

- （1）温室効果ガス排出インベントリに算出用提供する平成 26 年度廃棄物等の量（速報値）の算出方法と算出結果
- （2）今年度の検討課題への対応について
- （3）循環利用量調査改善検討会（第 2 回）委員指摘事項への対応と今後の循環利用量調査の改善検討の方向性について
- （4）その他

※網掛けは本資料から割愛した資料である。

配布資料：

資料 3-1-1 廃棄物等発生量の平成 26 年度速報値の算出方法

資料 3-1-2 廃棄物等発生量の平成 26 年度速報値の算出結果

資料 3-1-3 温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する廃棄物等の量の平成 26 年度速報値の算出結果

資料 3-2-1 産業廃棄物の廃プラスチック類のガス化・油化量について

資料 3-2-2 有機性廃棄物の中間処理後最終処分量に占める焼却以外の量について

資料 3-3-1 平成 27 年度循環利用量調査改善検討会（第 2 回）委員指摘事項と対応案

資料 3-3-2 副産物調査における発生量と推計指標等の比較

資料 3-3-3 循環利用量算出に利用している統計データと比較可能な統計情報等について

資料 3-3-4 産業廃棄物の減量化の処理方法別割合の精緻化等の課題に関する検討方針（案）

参考資料 3-1 平成 27 年度循環利用量調査改善検討会（第 2 回）議事録

参考資料 3-2 温室効果ガス排出インベントリ算出用に提供する平成 26 年度廃棄物等の量（速報値）の算出にあたって必要となる関連統計の入手状況

参考資料 3-3 廃棄物等の「等」のアルミ缶の発生量の平成 26 年度速報値の推計結果

参考資料 3-4 循環利用量算出に利用している統計データ一覧

参考資料 3-5 今年度の検討事項と過去からの検討会の検討成果

参考資料 3-6 検討委員ご提供資料①

参考資料 3-7 検討委員ご提供資料②

参考資料 3-8 検討委員ご提供資料③

参考資料 3-9 平成 27 年度循環利用量調査改善検討会報告書（案）





## 廃棄物等発生量の平成26年度速報値の算出方法

### 1. 算出方法の概要

廃棄物等発生量の平成26年度速報値の算出方法は、平成25年度確定値の算出方法と同様とし、主に下記のデータを利用した。

- ・平成27年度一般廃棄物処理事業実態調査(平成26年度実績)  
(以下、「一廃統計(平成26年度速報値)」という)
- ・平成27年度産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成26年度実績)  
(以下、「産廃統計(平成26年度速報値)」という)
- ・平成27年度産業分類別の副産物(産業廃棄物・有価発生物)の発生状況等に関する調査  
(平成26年度実績)(以下、「副産物調査(平成26年度速報値)」という)
- ・廃棄物等の「等」の算出に必要な関連統計

災害廃棄物の平成26年度速報値の算出についても、平成25年度確定値と同様に、以下の推計を行った。

ア)一廃統計の収集区分<sup>1</sup>に基づく災害廃棄物の発生量、循環利用量、減量化量、最終処分量の推計と、イ)アのうち収集区分名が「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」及び「粗大ごみ」である

災害廃棄物の内訳品目への按分

ただし、イ)の推計時に設定する、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」及び「粗大ごみ」の各処理施設での品目別内訳比率について、処理施設別の処理量や発生地域を考慮して年度更新を行った。

### 2. 災害廃棄物の平成26年度速報値の算出方法

#### 2.1. 品目別内訳比率の設定方法について

災害廃棄物の平成26年度速報値における「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」及び「粗大ごみ」を按分する品目別内訳比率について、下記のとおり設定を行った。

- ・東日本大震災由来の災害廃棄物と考えられる、福島県や岩手県からの排出量が主である処理施設・収集区分で、平成23年度から25年度の災害廃棄物の確定値算出に利用していた品目別内訳比率等を利用できる場合については、同品目別内訳比率を算出に用いた。
- ・上記以外の処理施設・収集区分については、全国の複数の自治体からの排出量が計上されているため災害廃棄物特有の内訳比率の設定が困難であること、平成22年度以前の循環利用量調査では、災害廃棄物を通常の一般廃棄物の内数として扱い同様の比率を用いて推計していた経緯があることを踏まえ、平成26年度速報値時点では通常の一般廃棄物の平成26年度速報値算出に利用した品目別内訳比率を準用し、確定値算出にむけて適宜見直しを行うものとした。

<sup>1</sup>一廃統計における災害廃棄物の収集区分は、「木くず」「金属くず」「コンクリートがら」「その他がれき類」「石綿含有廃棄物等」「PCB廃棄物」「有害物、危険物」「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」「家電4品目」「パソコン」「自動車」「FRP船」「鋼船」「その他船舶」「畳」「漁網」「タイヤ」「その他家電」「消火器」「ガスボンベ」「土石類」「津波堆積物」「その他」「海洋投入」「漂着ごみ」「除染廃棄物※平成24年度実績より追加」

表 1 品目別内訳比率の設定方法

処理施設	内訳比率の設定方法
堆肥化施設 飼料化施設 メタン化施設	一廃統計(平成26年度速報値)では、国庫補助金を利用して仮設焼却炉で焼却された災害廃棄物(収集区分が「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」のものに限る)が計上されなかったため、内訳比率の設定は行わない。
仮設焼却炉	福島県相馬市の相馬・新地国代行炉(3号炉)からのみ災害廃棄物の焼却処理量が計上されたため、同施設のごみ組成分析結果を用いて内訳比率を設定した。
既設焼却炉 その他資源化等を行う施設 その他の施設	通常の一般廃棄物の平成26年度速報値算出に利用した「混合ごみ」、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源ごみ」及び「粗大ごみ」の品目別内訳比率を準用する。
粗大ごみ処理施設	通常の一般廃棄物の平成26年度速報値算出に利用した粗大ごみ処理施設の品目別内訳比率を準用する。
ごみ燃料化施設	「混合ごみ」については福島県いわき市の搬入量(8,481t)がごみ燃料化施設への同区分の搬入量の約99.6%を占めるため、前年度までの設定方法と同様、福島県いわき市資料より設定した品目別内訳比率を用いる。 「混合ごみ」以外の収集区分については、通常の一般廃棄物の平成26年度速報値算出に利用したごみ燃料化施設の品目別内訳比率を準用する。
セメント等への直接投入	岩手県陸前高田市による「可燃ごみ」と「不燃ごみ」の計上のみであるため、平成25年度確定値算出時の設定比率(岩手県資料及びヒアリングにより設定)を用いた。
直接資源化	通常の一般廃棄物の平成26年度速報値算出に利用した直接資源化の品目別内訳比率を準用する。
直接埋立	「不燃ごみ」については福島県いわき市の搬入量(67,270t)が直接埋立への同区分の搬入量の約92.8%を占めるため、福島県いわき市資料より設定した品目別内訳比率を用いる。 「不燃ごみ」以外の収集区分については、通常の一般廃棄物の平成26年度速報値算出に利用した直接埋立の品目別内訳比率を準用する。

## 2.2. 品目別内訳比率の設定結果

表 2 「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」及び「粗大ごみ」に関する品目別按分比率設定値

収集区分	品目	焼却施設	粗大ごみ 処理施設	ごみ堆肥 化 処理施設	ごみ飼料 化 処理施設	メタン化 処理施設	ごみ燃料 化 処理施設	その他の 資源化等 を行う施設	セメント等 への直接 投入	その他の 施設	直接資源 化	直接埋立
混合ごみ	木くず	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%
	金属くず	8.1%	24.2%				0.0%	8.1%		8.1%	5.8%	21.3%
	コンクリートがら	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%
	その他がれき類	0.0%	11.7%				0.0%	0.0%		0.0%	9.6%	12.3%
	プラスチック類	11.6%	15.3%				100.0%	11.6%		11.6%	6.8%	13.9%
	その他可燃	71.0%	29.7%				0.0%	71.0%		71.0%	77.9%	35.9%
	その他不燃物	9.4%	19.1%				0.0%	9.4%		9.4%	0.0%	16.6%
	合計	100%	100%				100%	100%		100%	100%	100%
可燃ごみ	木くず	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%	68.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	金属くず	0.1%	0.0%				5.0%	0.1%	0.8%	0.1%	0.0%	21.3%
	コンクリートがら	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%	15.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他がれき類	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	12.3%
	プラスチック類	10.0%	0.0%				20.4%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	13.9%
	その他可燃	89.7%	0.0%				74.5%	89.7%	5.5%	89.7%	0.0%	35.9%
	その他不燃物	0.2%	0.0%				0.0%	0.2%	9.3%	0.2%	0.0%	16.6%
	合計	100%	0.0%				100%	100%	100%	100%	0.0%	100%
不燃ごみ	木くず	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	金属くず	31.8%	24.2%				5.0%	31.8%	0.0%	31.8%	5.8%	0.0%
	コンクリートがら	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他がれき類	0.0%	11.7%				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%	0.0%
	プラスチック類	16.9%	15.3%				20.4%	16.9%	0.0%	16.9%	6.8%	0.0%
	その他可燃	0.8%	29.7%				74.5%	0.8%	0.0%	0.8%	77.9%	0.0%
	その他不燃物	50.6%	19.1%				0.0%	50.6%	100.0%	50.6%	0.0%	100.0%
	合計	100%	100%				100%	100%	100%	100%	100%	100%
資源ごみ	木くず	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	
	金属くず	10.5%	24.2%				5.0%	10.5%		10.5%	5.8%	
	コンクリートがら	0.0%	0.0%				0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	
	その他がれき類	0.0%	11.7%				0.0%	0.0%		0.0%	9.6%	
	プラスチック類	22.2%	15.3%				20.4%	22.2%		22.2%	6.8%	
	その他可燃	50.4%	29.7%				74.5%	50.4%		50.4%	77.9%	
	その他不燃物	17.0%	19.1%				0.0%	17.0%		17.0%	0.0%	
	合計	100%	100%				100%	100%		100%	100%	
粗大ごみ	木くず	0.0%	0.0%					0.0%		0.0%		
	金属くず	39.6%	24.2%					39.6%		39.6%		
	コンクリートがら	0.0%	0.0%					0.0%		0.0%		
	その他がれき類	0.0%	11.7%					0.0%		0.0%		
	プラスチック類	1.9%	15.3%					1.9%		1.9%		
	その他可燃	8.6%	29.7%					8.6%		8.6%		
	その他不燃物	49.8%	19.1%					49.8%		49.8%		
	合計	100%	100%					100%		100%		

表 3 福島県相馬市の代行炉のごみ組成分析結果

都道府県名	地方公共団体コード	地方公共団体名	施設名称	年間処理量 (t/年度)	焼却対象廃棄物 その他(具体的)	ごみ組成分析結果						
						合計	紙・布類	ビニール、 合成樹脂、 ゴム、皮革 類	木、竹、わ ら類	ちゅう芥類	不燃物類	その他
福島県	07209	相馬市	相馬・新地国代行炉(3号炉)	7957.96	その他	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
					震災廃棄物	100	0.4	8.6	60.9	0	21	9.1

### 3. 参考：一廃統計（平成26年度速報値）の自治体別・処理施設別・収集区分別搬入量

表 4 焼却施設への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ		資源ごみ		粗大ごみ			
山梨県	甲州市	90	福島県	相馬市	9,281	埼玉県	鴻巣市	59	該当なし	山口県	萩市	45
高知県	安芸市	44	福島県	いわき市	8,720	新潟県	三条市	2		高知県	安芸市	9
山梨県	富士河口湖町	18	広島県	広島市	1,387					新潟県	三条市	4
山梨県	忍野村	6	京都府	福知山市	945							
山梨県	都留市	3	兵庫県	丹波市	675							
山梨県	中央市	2	山形県	南陽市	370							
			岩手県	大船渡市	363							
			徳島県	阿南市	344							
			徳島県	那賀町	172							
			高知県	四万十町	156							
			山梨県	甲州市	139							
			山口県	岩国市	88							
			山梨県	南アルプス市	87							
			北海道	根室市	80							
			群馬県	桐生市	80							
			岩手県	山田町	75							
			高知県	いの町	70							
			群馬県	前橋市	61							
			群馬県	玉村町	49							
			長野県	南木曾町	49							
			群馬県	みどり市	31							
			福岡県	筑紫野市	22							
			栃木県	大田原市	16							
			埼玉県	朝霞市	13							
			岩手県	宮古市	7							
			群馬県	安中市	7							
			埼玉県	熊谷市	7							
			新潟県	三条市	6							
			埼玉県	越谷市	1							

表 5 セメント等への直接投入への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ		可燃ごみ		不燃ごみ		資源ごみ		粗大ごみ	
該当なし		岩手県	陸前高田市	6,987	岩手県	陸前高田市	44,651		

表 6 粗大ごみ処理施設への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ		資源ごみ		粗大ごみ				
徳島県	那賀町	440	該当なし		山形県	南陽市	109	広島県	広島市	150	京都府	福知山市	332
					徳島県	阿南市	33				山梨県	鳴沢村	135
					群馬県	桐生市	30				群馬県	前橋市	113
					群馬県	みどり市	28				徳島県	那賀町	16
					長野県	軽井沢町	22				福岡県	筑紫野市	14
					埼玉県	羽生市	10				埼玉県	朝霞市	10
					徳島県	那賀町	6						

表 7 ごみ燃料化施設への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ		資源ごみ		粗大ごみ			
福島県	いわき市	8,481	山梨県	大月市	6	山口県	和木町	25	群馬県	伊勢崎市	355	該当なし
山梨県	大月市	36	山口県	和木町	6				宮城県	蔵王町	4	

表 8 その他の資源化等を行う施設への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ		資源ごみ		粗大ごみ				
福島県	いわき市	1,227	該当なし		京都府	福知山市	3,159	群馬県	藤岡市	861	群馬県	神流町	4
東京都	大島町	755			群馬県	昭和村	167	広島県	広島市	94	長野県	南木曾町	1
高知県	いの町	206			埼玉県	熊谷市	72	兵庫県	丹波市	25			
山梨県	南アルプス市	8			山口県	岩国市	62	群馬県	みどり市	20			
宮城県	蔵王町	1			埼玉県	吉見町	15	徳島県	阿南市	11			
					山梨県	南アルプス市	7						
					埼玉県	嵐山町	3						
					長野県	南木曾町	3						

表 9 その他施設への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ			資源ごみ		粗大ごみ			
福島県	南相馬市	297	福島県	南相馬市	1,053	福島県	南相馬市	535	該当なし		埼玉県	上里町	209
山梨県	北杜市	43	埼玉県	上里町	209	群馬県	藤岡市	123					
長野県	南木曾町	24			埼玉県	美里町	53						
山梨県	中央市	21			埼玉県	朝霞市	35						
栃木県	壬生町	17			埼玉県	加須市	29						
						高知県	四万十町	22					
						群馬県	甘楽町	7					
						宮城県	蔵王町	2					
						埼玉県	上里町	1					

表 10 直接資源化への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ		資源ごみ		粗大ごみ	
群馬県	甘楽町	49	該当なし		該当なし		群馬県	前橋市	544	該当なし
							群馬県	富岡市	221	
							群馬県	甘楽町	11	

表 11 直接埋立への災害廃棄物の搬入量(単位:t)

混合ごみ			可燃ごみ		不燃ごみ			資源ごみ		粗大ごみ	
兵庫県	丹波市	769	埼玉県	熊谷市	365	福島県	いわき市	67,270	該当なし		該当なし
埼玉県	深谷市	459	埼玉県	寄居町	60	広島県	広島市	1,891			
高知県	日高村	252			北海道	根室市	1,161				
宮城県	石巻市	83			岩手県	宮古市	702				
埼玉県	狭山市	42			岩手県	山田町	521				
						徳島県	那賀町	303			
						群馬県	藤岡市	301			
						茨城県	高萩市	191			
						東京都	大島町	51			
						福島県	田村市	43			
						兵庫県	丹波市	12			
						埼玉県	嵐山町	12			
						宮城県	石巻市	4			



## 廃棄物等発生量の平成 26 年度速報値の算出結果

### 1 廃棄物等発生量の平成 26 年度速報値

平成26年度における廃棄物等（災害廃棄物を含む）の発生量の合計は56,539万トンであった。その内訳として、一般廃棄物のごみの発生量は4,438万トン（全体の約8%）、災害廃棄物の発生量は128万トン（全体の約0.2%）、一般廃棄物のし尿（し尿・浄化槽汚泥）の発生量は2,014万トン（全体の約4%）、産業廃棄物の発生量は38,397万トン（全体の約68%）、廃棄物統計外の廃棄物等の「等」の発生量は11,561万トン（全体の約20%）であった。

廃棄物等の発生																																																																																																																											
56,539万t/年																																																																																																																											
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">一般廃棄物</th> <th colspan="2">産業廃棄物</th> <th colspan="2">「等」</th> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,581</td> <td>計</td> <td>38,397</td> <td>計</td> <td>11,561</td> </tr> </table>		一般廃棄物		産業廃棄物		「等」		計	6,581	計	38,397	計	11,561																																																																																																														
一般廃棄物		産業廃棄物		「等」																																																																																																																							
計	6,581	計	38,397	計	11,561																																																																																																																						
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">一般廃棄物</th> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,581</td> </tr> <tr> <td>ごみ小計</td> <td>4,438</td> </tr> <tr> <td>紙</td> <td>1,694</td> </tr> <tr> <td>金属</td> <td>181</td> </tr> <tr> <td>ガラス</td> <td>132</td> </tr> <tr> <td>ペットボトル</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>プラスチック</td> <td>423</td> </tr> <tr> <td>厨芥</td> <td>1,404</td> </tr> <tr> <td>繊維</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>木竹草類等</td> <td>314</td> </tr> <tr> <td>陶磁器類等</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>災害廃棄物</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>し尿</td> <td>2,014</td> </tr> </table>		一般廃棄物		計	6,581	ごみ小計	4,438	紙	1,694	金属	181	ガラス	132	ペットボトル	53	プラスチック	423	厨芥	1,404	繊維	137	木竹草類等	314	陶磁器類等	99	災害廃棄物	128	し尿	2,014	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">産業廃棄物</th> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38,397</td> </tr> <tr> <td>燃え殻</td> <td>205</td> </tr> <tr> <td>汚泥</td> <td>16,228</td> </tr> <tr> <td>廃油</td> <td>296</td> </tr> <tr> <td>廃酸</td> <td>289</td> </tr> <tr> <td>廃アルカリ</td> <td>241</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>629</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>688</td> </tr> <tr> <td>繊維くず</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>動植物性残さ</td> <td>279</td> </tr> <tr> <td>ゴムくず</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>933</td> </tr> <tr> <td>ガラスくず陶磁器くず</td> <td>660</td> </tr> <tr> <td>鉱さい</td> <td>1,818</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td>6,094</td> </tr> <tr> <td>ばいじん</td> <td>1,779</td> </tr> <tr> <td>動物のふん尿</td> <td>8,142</td> </tr> <tr> <td>動物の死体</td> <td>13</td> </tr> </table>		産業廃棄物		計	38,397	燃え殻	205	汚泥	16,228	廃油	296	廃酸	289	廃アルカリ	241	廃プラスチック類	629	紙くず	91	木くず	688	繊維くず	9	動植物性残さ	279	ゴムくず	3	金属くず	933	ガラスくず陶磁器くず	660	鉱さい	1,818	がれき類	6,094	ばいじん	1,779	動物のふん尿	8,142	動物の死体	13	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">「等」</th> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,561</td> </tr> <tr> <td>ガラスびん</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>アルミ缶</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>スチール缶</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>飲料用紙容器</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>古紙</td> <td>1,173</td> </tr> <tr> <td>自動車</td> <td>276</td> </tr> <tr> <td>稲わら</td> <td>852</td> </tr> <tr> <td>麦わら</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>もみがら</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>(副産物)廃油</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>(副産物)廃プラスチック類</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>(副産物)紙くず</td> <td>486</td> </tr> <tr> <td>(副産物)木くず</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>(副産物)繊維くず</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>(副産物)動植物性残さ</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>(副産物)ゴムくず</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>(副産物)金属くず</td> <td>497</td> </tr> <tr> <td>(副産物)ガラスくず陶磁器くず</td> <td>668</td> </tr> <tr> <td>(副産物)鉱さい</td> <td>3,837</td> </tr> <tr> <td>(副産物)動物のふん尿</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>(副産物)動物の死体</td> <td>0.1</td> </tr> <tr> <td>(副産物)ばいじん</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>産業機械等に由来する金属スクラップ<sup>6)</sup></td> <td>2,759</td> </tr> </table>		「等」		計	11,561	ガラスびん	120	アルミ缶	5	スチール缶	36	飲料用紙容器	4	古紙	1,173	自動車	276	稲わら	852	麦わら	107	もみがら	186	(副産物)廃油	36	(副産物)廃プラスチック類	40	(副産物)紙くず	486	(副産物)木くず	94	(副産物)繊維くず	0.2	(副産物)動植物性残さ	57	(副産物)ゴムくず	156	(副産物)金属くず	497	(副産物)ガラスくず陶磁器くず	668	(副産物)鉱さい	3,837	(副産物)動物のふん尿	35	(副産物)動物の死体	0.1	(副産物)ばいじん	136	産業機械等に由来する金属スクラップ <sup>6)</sup>	2,759
一般廃棄物																																																																																																																											
計	6,581																																																																																																																										
ごみ小計	4,438																																																																																																																										
紙	1,694																																																																																																																										
金属	181																																																																																																																										
ガラス	132																																																																																																																										
ペットボトル	53																																																																																																																										
プラスチック	423																																																																																																																										
厨芥	1,404																																																																																																																										
繊維	137																																																																																																																										
木竹草類等	314																																																																																																																										
陶磁器類等	99																																																																																																																										
災害廃棄物	128																																																																																																																										
し尿	2,014																																																																																																																										
産業廃棄物																																																																																																																											
計	38,397																																																																																																																										
燃え殻	205																																																																																																																										
汚泥	16,228																																																																																																																										
廃油	296																																																																																																																										
廃酸	289																																																																																																																										
廃アルカリ	241																																																																																																																										
廃プラスチック類	629																																																																																																																										
紙くず	91																																																																																																																										
木くず	688																																																																																																																										
繊維くず	9																																																																																																																										
動植物性残さ	279																																																																																																																										
ゴムくず	3																																																																																																																										
金属くず	933																																																																																																																										
ガラスくず陶磁器くず	660																																																																																																																										
鉱さい	1,818																																																																																																																										
がれき類	6,094																																																																																																																										
ばいじん	1,779																																																																																																																										
動物のふん尿	8,142																																																																																																																										
動物の死体	13																																																																																																																										
「等」																																																																																																																											
計	11,561																																																																																																																										
ガラスびん	120																																																																																																																										
アルミ缶	5																																																																																																																										
スチール缶	36																																																																																																																										
飲料用紙容器	4																																																																																																																										
古紙	1,173																																																																																																																										
自動車	276																																																																																																																										
稲わら	852																																																																																																																										
麦わら	107																																																																																																																										
もみがら	186																																																																																																																										
(副産物)廃油	36																																																																																																																										
(副産物)廃プラスチック類	40																																																																																																																										
(副産物)紙くず	486																																																																																																																										
(副産物)木くず	94																																																																																																																										
(副産物)繊維くず	0.2																																																																																																																										
(副産物)動植物性残さ	57																																																																																																																										
(副産物)ゴムくず	156																																																																																																																										
(副産物)金属くず	497																																																																																																																										
(副産物)ガラスくず陶磁器くず	668																																																																																																																										
(副産物)鉱さい	3,837																																																																																																																										
(副産物)動物のふん尿	35																																																																																																																										
(副産物)動物の死体	0.1																																																																																																																										
(副産物)ばいじん	136																																																																																																																										
産業機械等に由来する金属スクラップ <sup>6)</sup>	2,759																																																																																																																										

図 1 一般廃棄物及び産業廃棄物と「等」の発生（平成 26 年度速報値）

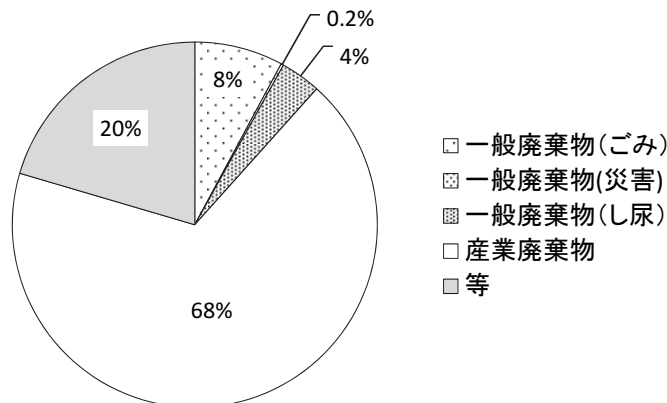


図 2 廃棄物等の発生状況（平成 26 年度速報値）

## 2 廃棄物等の「等」の発生量の平成26年度速報値

廃棄物等発生量のうち廃棄物等の「等」の平成26年度速報値は表1のとおりである。

表1 廃棄物等の「等」の発生量の平成26年度速報値

(単位:千t/年)

	算出方法分類	H26速報値		「等」の量 C=A-B
		廃棄物等の量 A	副産物調査にあっては製造業・電気業・ガス業からの産業廃棄物量、古紙及び産業機械類等に由来する鉄スクラップにあっては廃棄物及び他の項目との重複量 B	
燃えがら	①	1,605	1,979	0
汚泥(スラッジ)		14,564	60,067	0
廃油		2,731	2,371	360
廃酸		1,877	2,827	0
廃アルカリ		1,274	2,315	0
廃プラスチック類		3,715	3,310	405
紙くず		5,502	641	4,861
木くず		2,188	1,246	942
繊維くず		23	21	2
動植物性残さ		3,320	2,749	571
ゴムくず		1,579	21	1,558
金属くず		12,705	7,739	4,966
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず		10,597	3,916	6,681
鉱さい		56,307	17,937	38,370
がれき類		250	1,533	0
動物のふん尿		351	0	351
動物の死体		1	0	1
ばいじん		18,806	17,444	1,362
古紙	②	21,994	10,265	11,729
産業機械類等に由来する金属スクラップ	②	45,722	18,137	27,585
稲わら	③	-	-	8,517
麦わら		-	-	1,074
もみがら		-	-	1,860
ガラスびん	④	-	-	1,203
アルミ缶 (H26年度推計値)		-	-	51
スチール缶		-	-	356
飲料用紙容器		-	-	41
自動車	④	-	-	2,764
合計				115,608

(算出方法分類)

- ① 副産物調査の廃棄物等のうちC=A-Bで「等」を算出。ただし、A<Bの場合はC=0とみなす。
- ② 副産物調査以外の廃棄物等のうちC=A-Bで「等」を算出。ただし、A<Bの場合はC=0とみなす。
- ③ 国内で発生した全量(統計値の全量)を廃棄物等の「等」とみなす。
- ④ 統計値のうちの一部の数値を廃棄物等の「等」とみなす。

※1 副産物調査:「産業分類別の副産物(産業廃棄物・有価発生物)発生状況等に関する調査(経済産業省)」

※2 副産物調査、古紙及び産業機械等に由来する金属スクラップのA及びそれ以外の品目のCの値は次の統計資料による。

- ・副産物調査の各品目:経済産業省「産業分類別の副産物(産業廃棄物・有価発生物)発生状況等に関する調査(H26年度速報値)」
- ・自動車:経済産業省・環境省「使用済自動車、解体自動車及び特定再資源化物品に関する引取・引渡状況の公表について」
- ・稲わら、麦わら、もみがら:農林水産省生産局生産流通振興課資料
- ・その他:関連業界団体公表の統計資料



### 3 廃棄物等発生量の過去5年分の確定値の推移と平成26年度速報値

平成21年度から平成25年度までの5ヶ年分の廃棄物等発生量の推移、及び平成26年度速報値を表2に示した。平成26年度速報値における廃棄物等の発生量の合計（災害廃棄物を含む）は平成25年度に比べ32,881千トン減少した。発生量の減少量が最も大きかったのは、災害廃棄物で平成25年度に比べ12,830千トン減少し、次いで「等」の鉱さいで平成25年度に比べ10,339千トン減少した。

表2 廃棄物等発生量の過去5年分の確定値の推移及び平成26年度速報値

単位：千t/年

品目	H21	H22	H23	H24	H25	H26 速報値	前々年 との差 (H26-H24)	対前々年比 (H26/H24)	前年との差 (H26-H25)	対前年比 (H26/H25)
合計										
(災害廃棄物を含む)	559,149	567,794	562,305	566,280	598,266	565,385	-895	99.84	-32,881	94.50
(災害廃棄物を除く)	-	-	558,008	554,192	584,153	564,102	9,909	101.79	-20,051	96.57
一般廃棄物										
(災害廃棄物を含む)	69,066	67,482	71,042	78,116	79,758	65,805	-12,310	84.24	-13,952	82.51
(災害廃棄物を除く)	69,066	67,482	66,745	66,028	65,644	64,522	-1,506	97.72	-1,122	98.29
ごみ小計	46,457	45,548	45,572	45,283	44,974	44,379	-904	98.00	-595	98.68
紙	16,737	16,995	17,315	17,653	17,171	16,939	-714	95.95	-232	98.65
金属	1,549	1,620	1,720	1,722	1,866	1,812	90	105.21	-55	97.07
ガラス	1,502	1,391	1,343	1,314	1,357	1,319	5	100.38	-38	97.18
ペットボトル	425	496	523	518	540	533	14	102.78	-7	98.66
プラスチック	4,073	3,719	3,861	4,206	4,285	4,230	24	100.57	-55	98.73
厨芥	14,994	14,237	14,539	14,466	14,168	14,036	-430	97.03	-131	99.07
繊維	2,078	1,830	1,580	1,385	1,385	1,373	-12	99.11	-12	99.12
木竹草類等	3,959	3,707	3,327	2,764	3,170	3,144	381	113.78	-25	99.20
陶磁器類等	1,139	1,553	1,366	1,255	1,033	993	-261	79.17	-40	96.16
災害廃棄物	-	-	4,297	12,087	14,114	1,283	-	-	-12,830	9.09
し尿	22,609	21,934	21,173	20,745	20,670	20,143	-603	97.10	-527	97.45
産業廃棄物	389,746	385,988	381,206	379,137	384,696	383,972	4,835	101.28	-725	99.81
燃え殻	1,821	1,835	1,836	1,869	1,833	2,048	179	109.56	215	111.71
汚泥	173,629	169,885	166,132	164,638	164,169	162,285	-2,354	98.57	-1,884	98.85
廃油	3,048	3,251	3,118	3,212	2,912	2,964	-248	92.27	52	101.80
廃酸	2,542	2,483	2,752	2,595	2,778	2,890	295	111.36	112	104.03
廃アルカリ	1,867	2,563	1,889	1,778	2,243	2,406	627	135.28	163	107.24
廃プラスチック類	5,665	6,185	5,710	5,691	6,120	6,293	602	110.59	173	102.83
紙くず	1,265	1,153	1,118	1,020	896	914	-106	89.60	19	102.09
木くず	6,294	6,121	6,233	6,229	6,991	6,884	655	110.51	-108	98.46
繊維くず	69	79	79	68	89	91	22	132.83	1	101.57
動植物性残さ	3,001	3,027	2,838	2,642	2,700	2,792	151	105.70	92	103.42
ゴムくず	27	32	32	34	26	25	-9	73.64	-1	97.44
金属くず	7,830	7,246	7,242	7,267	7,815	9,327	2,060	128.35	1,512	119.34
ガラスくず陶磁器くず	5,411	6,031	6,361	6,083	6,468	6,596	514	108.44	128	101.98
鉱さい	14,109	16,006	15,493	16,398	16,761	18,182	1,785	110.88	1,422	108.48
がれき類	58,921	58,264	59,839	58,887	63,233	60,938	2,051	103.48	-2,295	96.37
ばいじん	15,923	16,823	15,903	15,138	16,911	17,788	2,650	117.51	877	105.18
動物のふん尿	88,162	84,847	84,459	85,434	82,626	81,416	-4,018	95.30	-1,210	98.54
動物の死体	161	156	172	153	125	132	-21	86.40	7	105.38
「等」	100,338	114,323	110,057	109,027	133,812	115,608	6,581	106.04	-18,204	86.40
ガラスびん	1,556	1,472	1,347	1,291	1,250	1,203	-89	93.14	-48	96.19
アルミ缶	35	36	39	35	52	51	16	146.80	-1	98.81
スチール缶	420	420	424	432	397	356	-76	82.41	-41	89.67
飲料用紙容器	44	43	42	42	42	41	-2	96.45	-1	97.84
古紙	10,731	11,090	10,994	10,886	10,222	11,729	843	107.74	1,507	114.75
自動車	3,229	3,022	2,411	2,851	2,845	2,764	-87	96.94	-81	97.16
稲わら	8,782	8,803	8,522	8,549	8,646	8,517	-32	99.62	-130	98.50
麦わら	1,041	1,038	1,062	1,053	1,059	1,074	20	101.94	15	101.42
もみがら	1,918	1,923	1,861	1,867	1,889	1,860	-7	99.62	-28	98.50
(副産物)燃え殻					359	0	0		-359	0.00
(副産物)廃油	255	273	267	237	2,445	360	123	151.70	-2,085	14.73
(副産物)廃酸	101	9					0		0	
(副産物)廃アルカリ					646	0	0		-646	0.00
(副産物)廃プラスチック類	150	723	372	872	1,504	405	-467	46.41	-1,100	26.90
(副産物)紙くず	5,258	5,118	4,919	5,662	6,404	4,861	-802	85.84	-1,543	75.90
(副産物)木くず	777	921	1,495	1,511	1,757	942	-570	62.31	-815	53.61
(副産物)繊維くず	43	7		3	8	2	-2	52.21	-6	23.65
(副産物)動植物性残さ		2,017	1,363	1,383	1,504	571	-812	41.28	-933	37.98
(副産物)ゴムくず				29	1,558		1,558		1,528	5,289.32
(副産物)金属くず	3,955	5,934	5,120	8,740	7,960	4,966	-3,774	56.82	-2,994	62.39
(副産物)ガラスくず陶磁器くず	2,810	323	659	2,888	7,712	6,681	3,792	231.31	-1,031	86.63
(副産物)鉱さい	32,179	37,731	36,045	35,112	48,709	38,370	3,258	109.28	-10,339	78.77
(副産物)動物のふん尿	3	4	4	137	21	351	214	256.20	330	1,685.01
(副産物)動物の死体	1	1	1	1	4	1	0	100.00	-3	27.43
(副産物)ばいじん	1,060	1,250	1,962	2,007	1,227	1,362	-645	67.87	135	111.02
産業機械等に由来する金属スクラップ	24,469	32,162	31,148	23,466	27,122	27,585	4,119	117.55	463	101.71

平成21年度から平成25年度までの5ヶ年分の廃棄物等発生量及び平成26年度速報値に関し、一般廃棄物、産業廃棄物、「等」及び廃棄物等の合計について、循環利用量、減量化量、最終処分量及び自然還元量（産業廃棄物と「等」のみ）をとりまとめ、その推移を表3に示した。平成26年度速報値を平成25年度値と比較すると、災害廃棄物の発生量は10分の1程度に減少しており、「等」の発生量も1割程度減少している。産業廃棄物の発生量は横ばい、一般廃棄物のごみ及びし尿の発生量はいずれも微減している。

表3 廃棄物等の発生量、循環利用量、減量化量、最終処分量、自然還元量の  
過去5年分の推移及び平成26年度速報値

単位：千t/年

		H21	H22	H23	H24	H25	H26 速報値	前々年 との差 (H26-H24)	対前々年比 (H26/H24)	前年との差 (H26-H25)	対前年比 (H26/H25)	
合計	(災害含む)											
	発生量	559,150	567,794	562,305	566,280	598,266	565,385	-895	99.8	-32,881	94.5	
	循環利用量	228,748	246,545	241,426	254,531	282,192	255,344	814	100.3	-26,847	90.5	
	減量化量	223,069	218,890	220,755	210,920	218,294	215,594	4,674	102.2	-2,700	98.8	
	最終処分量	18,774	19,224	17,363	18,353	17,067	16,788	-1,565	91.5	-279	98.4	
	自然還元量	88,558	83,135	82,306	82,476	80,714	77,659	-4,817	94.2	-3,055	96.2	
	(災害除く)											
	発生量	—	—	558,008	554,192	584,153	564,102	—	—	-20,051	96.6	
	循環利用量	—	—	238,010	244,414	269,459	254,311	—	—	-15,148	94.4	
	減量化量	—	—	220,329	209,442	217,640	215,532	—	—	-2,108	99.0	
最終処分量	—	—	17,363	17,860	16,340	16,600	—	—	260	101.6		
自然還元量	—	—	82,306	82,476	80,714	77,659	—	—	-3,055	96.2		
一般廃棄物	(ごみ)											
	発生量	46,457	45,548	45,572	45,283	44,974	44,379	-904	98.0	-595	98.7	
	循環利用量	9,501	9,446	9,375	9,263	9,269	9,129	-134	98.6	-140	98.5	
	減量化量	31,883	31,264	31,377	31,372	31,164	30,948	-424	98.6	-216	99.3	
	最終処分量	5,072	4,837	4,821	4,648	4,542	4,302	-345	92.6	-239	94.7	
	(災害)											
	発生量	—	—	4,297	12,087	14,114	1,283	—	—	-12,830	9.1	
	循環利用量	—	—	3,416	10,117	12,733	1,034	—	—	-11,699	8.1	
	減量化量	—	—	425	1,478	654	62	—	—	-592	9.4	
	最終処分量	—	—	456	493	727	188	—	—	-539	25.9	
(し尿)												
発生量	22,609	21,934	21,173	20,745	20,670	20,143	-603	97.1	-527	97.4		
循環利用量	239	249	237	172	170	200	28	116.2	29	117.3		
減量化量	22,260	21,554	20,832	20,463	20,422	19,877	-586	97.1	-545	97.3		
最終処分量	110	131	103	110	77	66	-44	59.7	-11	85.4		
産業廃棄物	発生量	389,746	385,988	381,206	379,137	384,696	383,972	4,835	101.3	-725	99.8	
	循環利用量	130,411	134,290	129,786	137,421	137,801	140,824	3,403	102.5	3,023	102.2	
	減量化量	168,158	165,303	167,361	156,849	165,289	163,946	7,097	104.5	-1,343	99.2	
	最終処分量	13,591	14,255	12,439	13,102	11,721	12,232	-870	93.4	510	104.4	
	自然還元量	77,585	72,139	71,620	71,764	69,885	66,970	-4,795	93.3	-2,915	95.8	
等	発生量	100,338	114,323	110,057	109,027	133,812	115,608	6,581	106.0	-18,204	86.4	
	循環利用量	88,597	102,559	98,611	97,557	122,218	104,157	6,600	106.8	-18,061	85.2	
	減量化量	768	768	759	758	765	762	4	100.5	-3	99.6	
	最終処分量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	自然還元量	10,973	10,996	10,687	10,712	10,829	10,689	-23	99.8	-140	98.7	

4 (参考) 災害廃棄物の平成26年度速報値の算出結果

災害廃棄物の平成26年度速報値の算出結果は、以下のとおりである。

表4 災害廃棄物の循環利用量(平成26年度速報値)の算出結果

□:物質フローで必要な項目  
 □:GHGインベントリ算出で必要な項目

単位:トン/年

処理項目	一般廃棄物(災害廃棄物)の区分																																		
	小計	木くず	金属くず	コンクリートがら	その他がれき類	石砕倉庫廃棄物等	PCB廃棄物	有害物質危険物	選色くみ	可燃くみ	不燃くみ	資源くみ	組入くみ	家電品目	パソコン	自動車	FRC船	その他船舶	量	漁網	タイヤ	その他家電	消火器	ガス入れ	土石類	建設廃棄物	その他	海洋汚染	漂着くみ	除染廃棄物					
発生量	1,283,449	34,560	16,286	230,827	3,076	3,740	19	165	1,321.6	32,778	119,973	2,544	862	770	1	5,494	28	0	246	945	1,690	357	3	1	146,303	634,567	24,924	0	182	10,107					
循環利用量	1,033,723	33,176	15,365	229,933	383	86	2	73	8,992	45,114	2,445	163	733	1	5,261	0	0	0	111	646	1,619	347	2	0	35,279	634,567	10,722	0	31	0					
循環後最終利用量	856,296	221	1,556	218,392	64	0	0	19	49	0	22	945	0	122	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	35,279	634,567	16	0	0	0				
処理後最終利用量	177,427	32,955	13,808	11,571	319	86	2	54	8,933	8,892	45,092	1,500	163	611	0	5,261	0	0	111	646	1,618	28	0	0	35,279	0	10,706	0	0	0	0				
焼却施設	10,694	8,071	0	7	0	0	0	0	53	1,983	99	9	0	0	0	0	0	0	60	0	3	0	0	0	0	0	1,38	0	0	0	0	0			
相次ぐ処理施設	1,509	62	858	102	90	0	0	0	0	38	150	148	32	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
ごみ焼却化施設	1,135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ごみ焼却化施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
メタン化施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
メタン化施設	11,233	391	0	0	0	0	0	6	851.7	12	25	359	0	0	0	0	0	0	49	646	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他の資源化等を行う施設	93,017	22,866	13,951	11,469	272	86	1	46	363	0	318	991	8	579	0	5,261	0	0	2	0	1,608	0	0	0	0	35,279	0	1,136	0	0	0	0	0	0	
メタン等への循環投入	59,349	0	0	0	0	0	0	0	0	6,997	44,651	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最終処分量	181,136	1,364	903	2,810	2,177	1,203	1	79	1,000	1,045	70,879	99	62	37	0	233	1	0	7	11	71	10	0	0	0	100,073	0	5,083	0	43	346				
循環後最終処分量	181,195	2	4	2,227	2,118	1,126	0	76	1,569	415	70,827	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	98,115	0	4,677	0	39	0	0	0		
埋立処分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
埋立処分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処理後最終処分量	6,943	1,362	809	584	56	77	1	3	31	629	52	99	62	37	0	233	1	0	7	11	71	10	0	0	0	1,959	0	3,86	4	4	346				
埋立処分	6,943	1,362	809	584	56	77	1	3	31	629	52	99	62	37	0	233	1	0	7	11	71	10	0	0	0	1,959	0	3,86	4	4	346				
焼却処理後	1,939	351	18	2	3	0	0	0	0	3,995	2	3	5	1	0	0	0	0	7	9	0	1	0	0	0	0	0	277	4	346					
焼却処理後の中間処理後	5,304	1,030	881	582	56	77	1	3	27	34	49	96	57	37	0	233	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1,959	0	100	0	0	0	0			
焼却処理量	52,655	9,884	496	57	89	2	1	0	113	24,178	64	84	124	18	0	0	0	0	196	251	6	16	0	0	0	0	0	7,822	0	112	9,442				
循環後焼却	51,809	9,549	15	0	39	2	1	0	113	24,178	42	0	40	0	0	0	0	0	196	251	6	0	0	0	0	0	0	7,822	0	112	9,442				
処理後焼却	846	35	481	57	50	0	0	0	0	0	0	84	84	18	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
循環量	61,586																																		

注1:物質フローでは「循環量」(小計)が必須となるため、本調査では上記表の「発生量」(小計)から「循環量」(小計)及び「最終処分量」(小計)を差し引いた値を「循環量」(小計)とした。  
 注2:本表に計上されている「除染廃棄物」の量については、市町村等が一般廃棄物処理事業として処理したものの量であり、国が運搬して処理したものの量は含まれていない。

表 5 災害廃棄物のうち、「混合ごみ」「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の循環利用量（平成 26 年度速報値）を 7 品目別に按分した結果

：GHGインベントリ算出で必要な項目

単位：トン/年

処理項目	小計	一般廃棄物(災害廃棄物)の区分						
		混合ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみについては、7品目に按分						
		木くず	金属くず	コンクリートがら	その他がれき類	プラスチック類	その他可燃物	その他不燃物
発生量	169,272	9,623	2,670	1,093	536	12,832	20,690	121,827
循環利用量	65,386	4,777	478	1,093	162	9,219	3,880	45,777
直接循環利用量	1,016	0	59	0	97	69	791	0
処理後循環利用量	64,370	4,777	420	1,093	65	9,150	3,088	45,777
焼却施設	1,804	0	28	0	0	185	1,549	42
粗大ごみ処理施設	337	0	81	0	40	52	100	64
ごみ堆肥化施設	0	0	0	0	0	0	0	0
ごみ飼料化施設	0	0	0	0	0	0	0	0
メタン化施設	0	0	0	0	0	0	0	0
ごみ燃料化施設	8,913	0	20	0	0	8,598	295	0
その他の資源化等を行う施設	1,678	0	236	0	0	316	760	366
セメント等への直接投入	51,638	4,777	54	1,093	25	0	384	45,304
最終処分量	73,684	0	476	0	258	377	1,359	71,215
直接最終処分量	72,812	0	424	0	244	276	712	71,156
埋立処分	72,812	0	424	0	244	276	712	71,156
海洋投入処分	0							
処理後最終処分量	872	0	52	0	14	102	646	59
埋立処分	872	0	52	0	14	102	646	59
焼却処理後	609	0	4	0	0	61	539	5
焼却以外の中間処理後	264	0	49	0	14	40	107	53
焼却処理量	24,564	4,846	97	0	22	2,358	14,728	2,513
直接焼却	24,375	4,846	51	0	0	2,329	14,671	2,477
処理後焼却	189	0	46	0	22	29	56	36

5 (参考) 廃棄物等の「等」の発生量の平成26年度速報値の算出方法

表6 廃棄物等の「等」の発生量の平成26年度速報値の算出方法

(単位:千t)

副産物調査	算出方法	A 廃棄物等の量		B 副産物調査にあつては製造業・電気業・ガス業からの産業廃棄物量、古紙及び産業機械類等に由来する鉄スクラップにあつては廃棄物及び他の項目との重複量		C「等」の量 (=A-B)		重複排除の考え方(*14)
		量	説明	量	説明	量	説明	
副産物調査 *1	①	燃えがら	1,605	経産省副産物調査発生量 *1	1,979	産業統計排出量のうち製造業、電気・ガス業分 *2	0	付加価値の高い副産物で、発生段階で未処理かつ有償で市場を流通しているものが存在しており、これらは廃棄物統計に含まれていない。
		汚泥	14,564	"	60,067	"	0	
		廃油	2,731	"	2,371	"	360	
		廃酸	1,877	"	2,827	"	0	
		廃アルカリ	1,274	"	2,315	"	0	
		廃プラスチック類	3,715	"	3,310	"	405	
		紙くず	5,502	"	641	"	4,861	
		木くず	2,188	"	1,246	"	942	
		繊維くず	23	"	21	"	2	
		動植物性残さ	3,320	"	2,749	"	571	
		ゴムくず	1,579	"	21	"	1,558	
		金属くず	12,705	"	7,739	"	4,966	
		ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	10,597	"	3,916	"	6,681	
		鉱さい	56,307	"	17,937	"	38,370	
		がれき類	250	"	1,533	"	0	
動物のふん尿	351	"	0	"	351			
動物の死体	1	"	0	"	1			
ばいじん	18,806	"	17,444	"	1,362			
古紙	小計	21,994		10,265		11,729	家庭からちり紙交換者によって回収される量や事業所から専門買出人、坪上業者によって回収される量については廃棄物統計に含まれていない。	
		17,091	古紙消費量 *3	4,692	一般廃棄物の紙リサイクル量 *4			
		284	製紙原料以外の分野における古紙利用製品の生産・古紙利用量 *3	672	産業廃棄物の紙くずマテリアルリサイクル量 *5			
		4,619	古紙の輸出量 *3	41	飲料用紙容器の「等」の量			
産業機械類等に由来する金属スクラップ	小計	45,722		18,137		27,585	副産物調査では、主として副産物(平常時に発生するもの)が把握対象となっているため産業由来のスクラップのうち、機械類・建築からのスクラップがカウントされていないと考えられる。	
		14,060	自家発生鉄スクラップ *6	918	一般廃棄物の金属リサイクル量 *4			
		8,178	加工スクラップ *6	9,060	産業廃棄物の金属くずマテリアルリサイクル量 *5			
		19,972	老廃スクラップ *6	51	アルミ缶の「等」の量			
		178	輸入スクラップ *6	356	スチール缶の「等」の量			
		3,334	アルミニウムくず、アルミニウム滓、銅くず、再生亜鉛	2,764	廃自動車の「等」の量			
				4,966	副産物調査の金属くずの「等」量			
				15	災害廃棄物の金属くずのマテリアルリサイクル量 *4	災害廃棄物との重複排除 *14		
				5	災害廃棄物の自動車のマテリアルリサイクル量 *4	災害廃棄物との重複排除 *14		
				0	災害廃棄物の「混合ごみ」、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源ごみ」及び「粗大ごみ」を品目別に按分した推計結果のうち金属くずのマテリアルリサイクル量 *4	災害廃棄物との重複排除 *14		
稲わら	③	-		-		8,517	H17稲わら量より作付面積でH26量を推計 *8	農業から発生する稲わら、麦わら、もみからは副産物であるため廃棄物統計には含まれていない。
麦わら		-		-		1,074	H17麦わら量より収穫量でH26量を推計 *8	
もみがら		-		-		1,860	H17もみがら量より作付面積でH26量を推計 *8	
ガラスびん	小計	-		-		1,203		
		-		-		951	リターナブルびん使用量 *9	酒販売店・スーパー等を経由して回収されるリターナブルびんは廃棄物統計には含まれていない。
		-		-		252	事業系回収量のうち廃棄量を差し引いた量 *9	事業所から排出されるガラスびんのうちポトラーや清掃業者によって回収されるものについては廃棄物統計に含まれていない。
アルミ缶	小計	-		-		51	経済活動指標より推計	H26年度推計値
		-		-		-	ポトラー・清掃事業者からの回収量 *10	事業所から排出されるアルミ缶のうちポトラーや清掃業者によって回収されるものについては廃棄物統計に含まれていない。
		-		-		-	拠点回収(スーパー、コンビニ等)量 *10	拠点回収による回収分については廃棄物統計で把握されていない。
スチール缶	④	-		-		356	民間処理業者回収量 *11	事業所から排出されるスチール缶のうちポトラーや清掃業者によって回収されるものについては廃棄物統計に含まれていない。
飲料用紙容器		小計	-		-	41		
			-		-		32	店頭回収(スーパー等)量 *12
		-		-		9	事業系回収(学校給食)量 *12	学校給食からの回収量については廃棄物統計に含まれていない。
廃自動車	小計	-		-		2,764		使用済み自動車のうち、輸出される自動車については発生量に含めない。ASR以降については産業廃棄物としては産業廃棄物統計に含まれる。
		-		-		2,616	破砕業者からの引取量 *13	
		-		-		148	解体業者からの引取量 *13	

\*1 産業分類別の副産物(産業廃棄物・有価発生物)発生状況等に関する調査(H26速報値)(経済産業省)による  
 \*2 産業廃棄物排出・処理状況調査(H26速報値)(環境省)による  
 \*3 古紙需給統計(古紙再生促進センター)による  
 \*4 一般廃棄物処理事業実態調査(H26速報値)(環境省)を用いて求めた値  
 \*5 産業廃棄物排出・処理状況調査(H26速報値)(環境省)を用いて求めた値  
 \*6 鉄源年報(日本鉄源協会)による  
 \*7 生産動態統計(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)(経済産業省)による  
 \*8 農林水産省生産局生産流通振興課資料を用いて算出  
 \*9 ガラスびんのマテリアル・フロー図(ガラスびん3R促進協議会)による  
 \*10 アルミ缶再生利用フロー(アルミ缶リサイクル協会)による  
 \*11 スチール缶リサイクルの全体フロー(スチール缶リサイクル協会)による  
 \*12 紙パックマテリアルフロー(全国牛乳容器環境協議会)による  
 \*13 使用済み自動車、解体自動車及び特定再資源化等物品に関する引取・引渡状況(経済産業省、環境省)による  
 \*14 「重複排除の考え方」は、廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用実態調査報告書(廃棄物等循環利用実態調査編)(環境省)による

(算出方法分類)

- ① 副産物調査の廃棄物等のうちC=A-Bで「等」を算出。ただし、A<Bの場合はC=0とみなす。
- ② 副産物調査以外の廃棄物等のうちC=A-Bで「等」を算出。ただし、A<Bの場合はC=0とみなす。
- ③ 国内で発生した全量(統計値の全量)を廃棄物等の「等」とみなす。
- ④ 統計値のうちの一部の数値を廃棄物等の「等」とみなす。

